

取扱説明書 詳細版

LIFEBOOK
GHシリーズ

FUJITSU

サポート情報のご案内

紙
マニュアル

□『箱の中身を確認してください』

添付品の一覧です。ご購入後、すぐに添付品が揃っているか確認してください。

□『取扱説明書』(本書)

使い始めるために必要な情報を中心に説明しています。

お使いの機種により、これ以外にもマニュアルや重要なお知らせなどの紙・冊子類があります。

電子
マニュアル

インターネットに接続してください

□『取扱説明書<詳細版>』

このパソコンの取り扱い方法や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

□『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

Windows 8.1の基本的な操作や、詳しい操作・便利な使い方などを紹介します。

※お使いの機種により、上記以外の電子マニュアルがWebに用意されている場合があります。
Webに掲載されている電子マニュアルの参照方法については「マニュアルの表記」をご覧ください。



「富士通アドバイザー」からご覧ください。
スタート画面のタイルをクリックします。

□『取扱説明書<詳細版>』

□『Windows 8.1 基本操作 クイックガイド』

クリックし、「トラブル解決」の一覧が表示されたら、「Windows 8.1 基本操作クイックガイド」をクリックしてください。



※デスクトップ版「富士通アドバイザー」からもご覧になります。

FMV
サポート

インターネットに接続してください

サポートページ <http://azby.fmworld.net/support/>

FMVに関するQ&A事例や活用情報など、「知りたい・困った」とときに役立つ情報を提供しています。

The screenshot shows the FMV Support website. At the top, there's a search bar and a navigation menu with links to Home, FMV Support, FMV News, FMV FAQ, and My Cloud. Below the menu, there's a 'Q & A / パソコン活用情報を探す' (Search Q&A / Computer Use Information) section with a search input field and a dropdown for '指定ワード' (指定 Word). There are also filters for 'お役立ちコーナーを見る' (View Helpful Corner) and '詳しい人に質問へ' (Ask a Specialist). The main content area has several sections: 'サポートコーナー最新情報' (Latest Information from the Support Corner), 'よくあるお問い合わせ' (Frequently Asked Questions), and 'サポートサービス' (Support Services). Each section contains a list of links or articles. An oval highlights the 'よくあるお問い合わせ' section with the text '豊富なQ&Aでトラブルを解決!' (Rich Q&A to solve problems!).

さまざまな使い方のご提案
「パソコン活用情報」

「富士通アドバイザー」の「サポートページで調べる」からサポートページを開くこともできます。

※デスクトップ版「富士通アドバイザー」では「サポート&サービス情報」タブにリンクがあります。

(この画面は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

目次

このパソコンをお使いになる前に	5
マニュアルの表記	8
安全上のご注意	11
取り扱い上のご注意	15
パソコンの使用環境についての注意	15
使用上のお願い	15
疲れにくい使い方	16
認定および準拠について	16
各部の名称について	17
1. セットアップする	
セットアップを始める前のチェック	19
セットアップの流れを確認する	19
パソコンの準備をする	20
Windows のセットアップをする	21
パソコンを快適にお使いいただくための準備をする	34
「富士通アドバイザー」の準備をする	34
「はじめに行う設定」で初期設定する	36
便利な機能のご紹介	37
2. 各部の名称と働き	
本体部	38
ワイヤレスディスプレイ部	41
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス	43
3. 取り扱い	
このパソコンの取り扱いについて	46
本体部	46
ワイヤレスディスプレイ部	46
スタンド	49
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス	49
使用に適した配置	49
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスをお使いになるうえでの注意	49
マウスの使い方	51
電池を交換する	52
キーボードやマウスをパソコンに再認識させる	53
Windows をスタートする／終了する	55
Windows をスタートする	55
Windows を終了する	56
スリープにする／復帰させる	56
スリープにするときの注意	56
スリープにする	56
スリープから復帰する	57
タッチ機能	57
タッチ機能をお使いになるうえでの注意事項	57
タッチ機能を使う	58
音量	61
画面の明るさ	62
CD/DVD ドライブ	63
著作物の録音や複製に関する注意	63
ディスクをお使いになるうえでの注意	63
ディスクを再生するうえでの注意	63
ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意	64
使えるディスク／使えないディスク	65
ディスクをパソコンにセットする／取り出す	67

ディスクをフォーマットする	68
メモリーカード	70
お使いになるうえでの注意	70
使えるメモリーカード	70
メモリーカードを差し込む／取り出す	71
周辺機器の取り扱い	72
周辺機器の取り扱い上の注意	72
電源オフ USB 充電機能	73
電源オフ USB 充電機能とは	73
電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意	73
お手入れ	73
パソコン本体、キーボードやマウスのお手入れ	73
液晶ディスプレイのお手入れ	74
CD/DVD ドライブのお手入れ	74
4. 便利な機能のご紹介	
ハンドジェスチャー	75
ハンドジェスチャーでできること	75
ハンドジェスチャーをお使いになるうえでの注意	78
ハンドジェスチャーを使う	79
ハンドジェスチャーの設定	79
ハンドジェスチャーで困ったら	80
System Utility	80
人感センサー機能	80
本パソコンの設定機能	81
自動サインイン設定	82
自動サインイン設定をお使いになるうえでの注意	82
自動サインイン設定の使い方	82
多機能マウス	83
マウス設定ユーティリティを設定する	83
My Cloud	85
My Cloud でできること	85
『ソフ得』ソフト使い放題	85
F-LINK（ケータイ連携機能）	87
F-LINK をお使いになるうえでの注意	88
Skype	88
Skype でできること	88
搭載されているアプリを使う（@メニュー）	89
「@メニュー」の使い方	89
5. バックアップ	
バックアップナビ	90
バックアップナビの機能	90
バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項	91
マイデータ	92
バックアップ／復元できる項目	92
「マイデータ」の注意事項	92
「マイデータ」のバックアップ／コピー／復元方法	92
パソコンの状態	92
「パソコンの状態」の注意事項	92
「パソコンの状態」をバックアップする場所	93
「パソコンの状態」をバックアップする	93
「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする	94
「パソコンの状態」を復元する	95
「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する	96

6. 困ったときは

メールや Office で困ったときは	97
ウイルス対策アプリなどで困ったときは	98
マカフィー リブセーフのお問い合わせ先	98
その他のアプリのお問い合わせ先	98
アプリのお問い合わせ先の確認方法	99
よくあるトラブルと解決方法	100
トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください	100
起動・終了時のトラブル	100
ワイヤレスディスプレイ部のトラブル	103
ここまででトラブルが解決しない場合	104
「富士通ハードウェア診断ツール」を使う	104
パソコンを以前の状態に戻す	105
「トラブル解決ナビ」を起動する	105
富士通の窓口に相談する	107
ユーザー登録のご案内	107
サポート＆サービス紹介	108

7. ご購入時の状態に戻す

ご購入時の状態に戻すリカバリとは	113
ご購入時の状態に戻すリカバリの準備	113
ご購入時の状態に戻すリカバリの注意	113
作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法	114
ディスクが必要な場合	114
ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する	115
C ドライブを初期状態に戻す	115
Windows のセットアップをする	116

8. 使いこなすために

ディスプレイ	117
解像度と発色数についての注意	117
パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数	117
外部ディスプレイやデジタルテレビの接続	118
外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数	119
画面の解像度の変更	121
表示するディスプレイの切り替え	122
画面表示の回転	126
インテル WiDi を使う	126
サウンド	128
再生時／録音時のサウンドを調節する	128
兼用端子の機能切り替え	132
通信	134
有線 LAN	134
無線 LAN	137
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	141
スリープ／休止状態	144
スリープ／休止状態とは	144
スリープ／休止状態にするうえでの注意	145
スリープ／休止状態の設定変更	146
電源プラン	147
アプリ	148
Windows ストア アプリ	148
デスクトップアプリ	149
ハードディスクの領域について	151
リカバリ領域を削除する	151
リカバリ領域を復元する	152

BIOS の設定	153
BIOS セットアップの操作	153
BIOS のパスワード機能	156
BIOS が表示するメッセージ一覧	159
9. 付録	
インターネットに接続せずにセットアップしたときは	162
Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する	162
インターネットに接続する	162
Microsoft アカウントに切り替える	164
インターネットを安心してお使いいただくために	164
青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について	164
リカバリディスクセットを作つておく	165
リカバリディスクセットを作るうえでの注意	166
リカバリディスクセットの作成手順	166
パソコンの電源を完全に切る	168
富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内	168
PC リサイクルマークについて	168
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	168
付属品の廃棄について	169
液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ	169
富士通パーソナルコンピュータ修理規定	170
パソコンを安定して動作させるために	172
文字コードの取り扱いに関する注意	173
環境依存文字の取り扱いについて	173
Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性	175
オープンソースソフトウェアについて	177
10. 仕様一覧	
パソコン本体の主な仕様	178
仕様一覧の注記について	179

このパソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上の注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをおとりください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後 6 年間です。

使用許諾契約書（ライセンス条項）

本製品にインストール、または添付されているソフトウェアをご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、ご同意いただくことを使用の条件とさせていただいている「ソフトウェアの使用条件」は、本製品内のハードディスクに格納しています。

セットアップ時にご同意いただいた後に再度ご覧になりたい場合は、ファイルの検索で「OEMEULA.rtf」を検索してください。

ただし、本ソフトウェアのうち、Windows ストア アプリについては、本契約は適用されず、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項が適用されます。なお、Microsoft 社所定の標準アプリケーションライセンス条項に加えて、個別の追加条件が適用される場合があります。

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください（大切なデータは日ごろからバックアップをとられることをお勧めします）。

添付品は大切に保管してください

ディスクやマニュアル等の添付品は、本製品をご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますですが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますですが故障ではありません。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

- ・本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1日約8時間、1ヶ月に25日のご使用で約5年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・本製品に使用しているアルミニウム电解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、电解液のもれや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- ・本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

＜主な有寿命部品一覧＞

液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、CD/DVD ドライブ、キーボード、マウス、AC アダプタ、ファン

消耗品について

一般的にバッテリパックは、800～1000回の充放電で寿命となります。(温度条件や使用環境によって異なります。)

24時間以上の連続使用について

本製品は、24時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本製品に接続するLANケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外ではお使いになれません。

無線 LANについて

2.4 DS/OF 4



- ・上記表示の2.4GHz帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能ですが、変調方式としてDSSS変調方式およびOFDM変調方式を採用しており、与干渉距離は40mです。
- ・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
(1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
(2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
(3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先:「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠では見通し半径25m以内、IEEE 802.11n準拠では見通し半径50m以内となります。ただし、無線LANの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・IEEE 802.11g準拠とIEEE 802.11b準拠の無線LANの混在環境においては、IEEE 802.11g準拠はIEEE 802.11b準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g準拠とIEEE 802.11b準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を5チャンネル以上あけてお使いください。
- ・本製品と5GHzの周波数帯を使用する無線LANとは、使用している周波数帯域が異なるため、通信できません。ご注意ください。
- ・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーについて

2.4 FH8

- 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- 本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2 の最大値）です。
ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

ワイヤレスキーボード・ワイヤレスマウスについて

2.4DS1

- 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DS-SS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 10m です。
この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
 - この機器を使用する前に、近くに医療機関や工場がないことを確認してください。
 - 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止してください。
 - 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。
 - 不明な点、その他お困りのことが起きたときは、お買い求めの販売店または「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお申しつけください。

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質＜鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリプロモビフェニル、ポリプロモジフェニルエーテルの 6 物質＞の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。
本パソコンにおける特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。
<http://www.fmworld.net/fmv/jmoss/>

クラス 1 レーザ製品

IEC 60825-1:2007

クラス 1 レーザ製品の国際規格である（IEC 60825-1）に準拠しています。

本装置は、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合したマークを画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「認定および準拠について」（→ P.16）をご覧ください。

本装置は、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、技適マーク  を画面に表示することができます。
表示の操作方法は、「認定および準拠について」（→ P.16）をご覧ください。

マニュアルの表記

このマニュアルの内容は 2015 年 1 月現在のものです。

お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

■本文中の書き分けについて

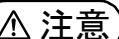
このマニュアルには、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。

お使いの機種に機能が搭載されているかを「各部の名称と働き」、「仕様一覧」、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/fmv/>) で確認して、機種にあった記載をお読みください。

■安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するためのシンボルマークと警告絵文字を使っています。

□警告レベルを表すシンボルマーク

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあります。その切迫の度合いが高いことを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

□危険や障害の内容を表す警告絵文字

△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

 破裂注意	特定の条件において、破裂する可能性について注意を喚起します。	 高温注意	特定の条件において、高温による傷害の可能性について注意を喚起します。
 レーザー光 注意	特定の条件において、レーザー光を直視する危険性について注意を喚起します。	 指のケガに 注意	特定の条件において、けがする可能性について注意を喚起します。

○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。

 一般禁止	一般的な禁止行為や禁止事項を示します。	 火気禁止	特定の条件において、外部の火気によって製品の発火する可能性を示します。
 接触禁止	特定の条件において、機器の特定の場所に触ることによって傷害が起こる可能性を示します。	 水場使用禁止	防水処理のない機器を水場で使用して漏電によって傷害が起こる可能性を示します。
 分解禁止	機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性を示します。	 ぬれ手禁止	機器を濡れた手で扱うと、感電する可能性を示します。
 水ぬれ禁止	防水処理のない機器を水がかかる場所で使用または、水に濡らすなどして使用すると、漏電して感電や発火する可能性を示します。		

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

 アース線を接続せよ	安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続するように指示します。	 プラグを抜け	故障時や落雷の可能性がある場合、使用者に電源プラグをコンセントから抜くように指示します。
 一般指示	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。		

■危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	以降の手順が分かれることを表しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	「富士通アドバイザー」で見るマニュアルを表しています。参照方法は表紙の裏面をご覧ください。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
→	参照ページを表しています。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■操作手順について

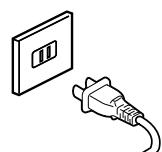
このマニュアルでは、連続する操作手順を「▶」でつなげて記述しています。

なお、アプリの状態を変更した場合は、操作手順が異なることがあります。

■電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。マニュアルでは「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ (125V15A) 用コンセント」をご利用ください。マニュアルでは「コンセント」と表記しています。



■タッチ操作について

タッチ操作の場合、次のように読み替えてください。

スタート画面左下の❶をクリックします。



スタート画面でまっすぐ上にスライドします。

マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示します。



画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。

上記以外の操作では、クリックと記載されている箇所をタップと読み替えてください。

■このパソコンの呼び方

本文中では、本体部とワイヤレスディスプレイ部を総称して「パソコン本体」と表記することがあります。

■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows 8.1	Windows または Windows 8.1
Windows 8.1 Pro	Windows または Windows 8.1
Windows Internet Explorer 11	Internet Explorer 11 または Internet Explorer
Office Personal Premium プラス Office 365 サービス	Office または Office Personal Premium
Office Home & Business Premium プラス Office 365 サービス	Office または Office Home & Business Premium
Microsoft Word 2013	Word
Microsoft Excel 2013	Excel
Microsoft Outlook 2013	Outlook
Windows Media® Player 12	Windows Media Player
Windows Live®	Windows Live
インテル® WiDi	インテル WiDi
Bluetooth®	Bluetooth
Corel® WinDVD®	WinDVD
スロットイン BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブ	Blu-ray Disc ドライブまたは CD/DVD ドライブ
Roxio Creator LJ	Roxio Creator
「ソフ得」ソフト使い放題 by OPTiM	ソフト使い放題

■Webに掲載されている電子マニュアルの参照方法

スタート画面で「@メニュー」をクリックします。



安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。「安全上のご注意」はインターネット上でも公開しています。

<http://azby.fmworld.net/support/manual/safety/>
ACアダプタと電源ケーブルが添付されている場合、ここでは、ACアダプタのケーブルと電源ケーブルを合わせて「電源ケーブル」と表記している箇所があります。

お使いの機種によっては、添付や搭載されていない機能などについての記載もありますが、あらかじめご了承ください。

設置／準備

⚠ 警告



コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

プラグを抜け

万一の場合に、電源プラグが抜けなくなり、危険につながるおそれがあります。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。

一般禁止

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因になります。



台に設置して使う場合は、台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。

一般指示

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



転倒防止の処置をしてください。

一般指示

地震が発生した場合などに、本製品が倒れたり、落下して、けが、故障の原因になります。

設置台や床、壁などとの間に適切な転倒防止の処置を行ってください。



振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

一般禁止

本製品が倒れたり、落下して、けが、故障の原因になります。



本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

一般禁止

火災の原因になります。



矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続しないでください。

一般禁止

火災の原因になります。



本製品や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。

一般指示

ケーブルに足を引っかけ、転倒したり、本製品や周辺機器が落ちたり倒れたりして、けがや故障の原因になります。



添付もしくは指定された以外のACアダプタや電源ケーブルを本製品に使ったり、本製品に添付のACアダプタや電源ケーブルを他の製品に使ったりしないでください。

一般禁止

感電、火災の原因になります。



一般指示

電池を機器に入れる場合は、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。

間違えると電池の破裂、液漏れ、発火の原因になります。



一般指示

電源ケーブルやACアダプタは、指定された電圧(100V)の壁のコンセントやコネクタに直接かつ確実に接続してください。

不完全な接続状態で使用すると、感電、火災の原因になります。



一般禁止

タコ足配線をしないでください。

感電、火災の原因になります。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源ケーブルやACアダプタを抜き差ししないでください。

感電の原因になります。



一般禁止

ケーブル類を束ねた状態で使用しないでください。

発熱して、火災の原因になります。

⚠ 注意



一般禁止

本製品を調理台や加湿器のそばなどの油煙や湯気の多い場所や、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になることがあります。



一般禁止

本製品やACアダプタを直射日光があたる場所、閉めきった自動車内、ストーブのような暖房器具のそば、ホットカーペットの上で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災、故障の原因になります。



一般禁止

本製品を移動する場合は、次の点にご注意ください。

電源ケーブルやACアダプタが傷つき、感電、火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因になります。

・電源ケーブルやACアダプタをコンセントから抜いてください。

・接続されたケーブルなどを外してください。

・作業は足元に充分注意して行ってください。

使用時

⚠ 警告



火気禁止

火中に投入、加熱しないでください。

発煙、発火、破裂の原因になります。



一般禁止

端子をショートさせないでください。

感電、火災の原因になります。



プラグを抜け

発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生したときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。

異常状態のまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、異常な現象がなくなるのを確認して、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



プラグを抜け

落したり、カバーなどを破損した場合は、電源を切り、電源ケーブルや AC アダプタを抜いてください。

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

本製品や本製品を設置している台にぶら下がったり、上に載ったり、寄りかかったりしないでください。

本製品が落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

排気孔付近や AC アダプタなど、本製品の温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。

排気孔からの送風に長時間あたらないでください。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。
低温やけどの原因になります。



水場使用禁止

風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電、火災の原因になります。



水ぬれ禁止

本製品の上や周りに、花びんやコップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電、火災の原因になります。



一般禁止

使用中の本製品や AC アダプタに、ふとんや布などをかけないでください。通風孔がある場合は、ふさがないでください。

通風孔が目詰まりしないように、掃除機などで定期的にほこりを取ってください。
内部に熱がこもり、火災の原因になります。



一般指示

ご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。
本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



一般指示

本製品や周辺機器のケーブル類に、お子様が容易に触れないようにしてください。

誤って首に巻きつけると窒息の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体を落させたり、強い衝撃を与えないでください。

カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障、感電、火災の原因になります。修理は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

バッテリパックや電池を取り扱うときは、次の点にご注意ください。

液もれ、けが、やけど、破裂、火災、周囲を汚す原因になります。

- ・指定された方法以外で使用しない
- ・分解や改造をしない
- ・加熱したり、火の中に入れたりしない
- ・熱器具に近づけない
- ・火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりしない
- ・落したり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えない
- ・先のとがったものの力を加える、強い圧力を加えない
- ・ショートさせない
- ・端子部分をぬらしたり、水の中に入れたりしない
- ・金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯、保管しない
- ・お子様の手の届く所に保管しない
- ・乾電池を充電しない
- ・ハンダ付けしない

特に、バッテリパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって発熱・発火し、けがの原因になったり、破裂・液もれによる周囲の汚損の原因になることがあります。

バッテリパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。



一般禁止

タッチパネルはガラスを使用しているため、急激な衝撃を与えたり、本製品を転倒・落下させないでください。

破損するおそれがあります。また、破損した場合は、ガラスの破片に直接触れないよう注意して清掃してください。けがをするおそれがあります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタが傷ついている場合は使用しないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタの接続部分に、ドライバーなどの金属を近づけないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

ケーブル類は、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

感電、火災の原因になります。



一般禁止

AC アダプタ本体にケーブル類をきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

ケーブル類の芯線が露出したり断線したりして、感電、火災の原因になります。



一般禁止

電源ケーブルや AC アダプタを抜くときは、コード部分を引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

ケーブル類が傷つき、感電、火災の原因になります。



一般指示

無線 LAN、無線 WAN、Bluetooth® ワイヤレステクノロジー、NFC ポート、CLEARSURE、ワイヤレスキーボード／マウス、ワイヤレスディスプレイの注意
次の場所では、無線通信機能を停止してください。「ワイヤレススイッチ自動オン機能」対応の CLEARSURE 搭載機種の場合は、自動的に無線通信機能がオンにならないようにしてください。

無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

- ・病院内や医療用電子機器のある場所
特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
- ・航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・身動きが自由に取れない状況など、植込み型医療機器（心臓ペースメーカーなど）を装着している方と密着する可能性がある場所
- ・満員電車の中など付近(15cm(NFCポートは12cm))に植込み型医療機器を装着している方がいる可能性がある場所

本製品は、レーザ光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

・光源部を見ないでください。
光学ドライブのレーザ光の光源部を直接見ないでください。

また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザ光線が装置外にもれた場合は、レーザ光線のぞきこまないでください。

レーザ光線が直接目に照射されると、視力障害の原因になります。

・お客様自身で分解したり、修理・改造したりしないでください。

レーザ光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因になります。



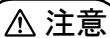
レーザー光 注意



レーザー光 注意

レーザーマウスは底面から、目に見えないレーザ光が出ています。

クラス 1 レーザ製品は、予測可能な使用環境において極めて安全ですが、マウス底面の光は直視しないでください。



本製品の上に重いものを置かないでください。
けがの原因となることがあります。



一般指示

本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは 1 時間に 10 ~ 15 分の休憩時間や休憩時間の間の小休止をとるようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因になることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの目の健康障害の原因になります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- ・手首や腕、肘は机やいすの肘かけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるように使用する。



指のケガに 注意

光学ドライブのトレイやスロット、コネクタ、通風孔など、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。
ディスクなどをセットまたは取り出す場合も、手や指を入れないでください。
けが、感電の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般禁止

ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因になります。



一般指示

電源を入れたり切ったりする前に音量を最小にしておいてください。

ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因になります。



高温注意

「ExpressCard™」、「PC カード」、「SD メモリーカード」、「メモリースティック」、「UIM カード」の使用終了直後は、高温になっていることがあります。

これらを取り外すときは、使用後充分に温度が下がるのを待ってから取り出してください。

やけどの原因になります。



一般禁止

マウス底面の光を直視しないでください。レーザー式マウスの場合も、目に見えないレーザ光が出ています。

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。

メンテナンス／増設



警告



分解禁止

お客様ご自身で修理、改造しないでください。また、マニュアルなどで指示がある場合を除いて分解しないでください。

けが、感電、火災の原因になります。

修理や点検などが必要な場合は、弊社問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、お子様の手の届く所に置かないでください。

誤って飲み込むと窒息の原因になります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



一般指示

カバーおよび可動部を開ける場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。

作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。お子様が手を触ると、けが、故障の原因になります。



一般禁止

清掃するときに、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

故障や火災の原因になります。



一般禁止

指定以外の電池は使用しないでください。

また、2 本以上セットする場合は、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

電池の破裂、液洩れにより、火災、けが、周囲を汚損する原因になります。



一般指示

電源ケーブルや AC アダプタはコンセントから定期的に抜いて、接続部分のほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまつたままの状態で使用すると感電、火災の原因になります。1年一度は点検清掃してください。特に電源プラグ部分についてはほこりがたまりやすいので、ご注意ください。



プラグを抜け

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、本製品および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行つてください。

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも外してください。
故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電、火災の原因になります。また、本製品および周辺機器が故障する原因になります。

⚠ 注意



一般禁止

周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

けが、故障の原因になります。



一般指示

内蔵オプションや周辺機器の取り付け／取り外し、お手入れなどを行うときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

けがの原因になります。

異常時

⚠ 警告



プラグを抜け

本製品の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐに本製品の電源を切り、電源ケーブルや AC アダプタを抜いてください。

バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも取り外してください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。その後、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。



一般禁止

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまで本製品やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめ本製品の電源を切り、その後電源ケーブルや AC アダプタをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による故障、感電、火災の原因になります。



一般指示

タッチパネルのガラスにヒビ、傷などがあった場合は、すみやかにご使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用するだけをするおそれがあります。



一般指示

バッテリパックや電池が液もれし、もれ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。

失明など障害の原因になります。

液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

⚠ 注意



指のケガに注意

カバー部品などが破損・脱落したり、キーボードのキートップが外れた場合は、使用を中止し、弊社お問い合わせ窓口、またはご購入元にご連絡ください。

破損した製品や破片によるけがや故障の原因になります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



一般指示

液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で 15 分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で 15 分以上洗浄した後、医師に相談してください。

中毒を起こすおそれがあります。

液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

保管／廃棄

⚠ 警告



破裂注意

バッテリパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

バッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般的のゴミといっしょに火中に投じられると破裂のおそれがあります。

⚠ 注意



プラグを抜け

本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源ケーブルや AC アダプタをコンセントから抜いてください。

バッテリパックや乾電池を取り外せる場合は、取り外してください。

火災の原因になります。



破裂注意

本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

本製品はリチウム電池を使用しております。ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには、乾電池、充電池を使用しております。

一般的のゴミといっしょに火中に投じられると電池が破裂するおそれがあります。

使用済み電池の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

取り扱い上のご注意

パソコンの使用環境についての注意

パソコンは精密機器です。使用環境に注意してご利用ください。取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となります。

内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

・パソコンをお使いになる環境の温度と湿度

次の範囲内としてください。

・動作時：温度 5 ~ 35 ℃ / 湿度 20 ~ 80%RH

・非動作時：温度 -10 ~ 60 ℃ / 湿度 20 ~ 80%RH

・パソコンの結露

動作時、非動作時にかかわらず、パソコン本体が結露しないようにご注意ください。

結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。パソコンを温度の低い場所から温度の高い場所、または、温度の高い場所から温度の低い場所へ移動すると、パソコン内部に結露が発生する場合があります。結露が発生したままパソコンを使用すると故障の原因となります。

パソコンを移動したときは、直射日光が当たらない風通りの良い場所に設置し、室温と同じくらいになるのを待ってから電源を入れてください。

・パソコンをお使いになれない場所

・直射日光のあたる場所

感電、火災、破損や故障の原因となります。

・水など液体のかかる場所

パソコン内部の回路がショートして、壊れてしまうことがあります。

・ほこりの多い場所や、油を使用する場所

ファンに詰まったほこりや油分で放熱が妨げられ、故障の原因となります。

・熱がこもりやすい場所（棚、ドア付 AV ラック、ふとんやクッションの上など）

放熱が妨げられ、故障の原因となります。パソコン本体および AC アダプタは平らで堅い机の上などに置いてください。

・静電気の発生しやすい場所

パソコンは、静電気に対して弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。使用する前には、アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

・電磁波の影響を受けやすいもの（テレビやラジオなど）や、磁気を発生するもの（モーターやスピーカーなど）に近い場所

故障や機能低下の原因となります。

・腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所

パソコン本体が腐食する可能性があります。

・屋外

本体部とワイヤレスディスプレイ部は、5GHz 帯（W52 チャンネル）の無線機能を使用して接続されています。そのため、電波法の定めにより、屋外で使用することはできません。

なお、ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットしている状態でも無線機能を使用して接続されています。

・吸気孔や排気孔

・吸気孔や排気孔をふさがないでください。

放熱が妨げられ、故障の原因となります。

パソコン本体と壁の間に前後左右 10cm 以上のすき間をあけてお使いください。

・排気孔の近くに物を置いたり、排気孔の近くには手を触れないでください。

排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物や手が熱くなることがあります。

・パソコン使用中の環境

・パソコン本体のそばで喫煙しないでください。

タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、ファンなどの機能を低下させる可能性があります。

・パソコンを長時間同じ場所に設置すると、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがありますので、ご注意ください。

・AC アダプタは、パソコン使用中表面が熱くなることがあります。使用中は触れないでください。

・液晶パネルの表面は外光の映り込みを低減する低反射処理を行っています。本体部にワイヤレスディスプレイ部をセットしてお使いになる場合、外光の映り込みが気になるときは、本体部の位置を調節してください。

・本体部とワイヤレスディスプレイ部は 5GHz 帯（W52 チャンネル）の無線機能を使用して接続されています。このため、環境によっては、周囲の電波の影響を受けて正常に接続できないことがあります。

・無線通信機能をお使いになる場所

パソコン本体に搭載されている無線通信機能をお使いになるときは、できるだけ見通しの良い場所でお使いください。

電子レンジの近く、アマチュア無線機の近くや足元など見通しの悪い場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、接続が正常に行えないことがあります。

使用上のお願い

■パソコン本体の取り扱い上の注意

・本体部はバッテリを搭載していません。使用中は AC アダプタや電源ケーブルを取り外さないでください。

・衝撃や振動を与えないでください。

・操作に必要な部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。

・水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。

故障の原因になる可能性があります。

・ワイヤレスディスプレイ部を立てたり、傾けて置かないでください。

ワイヤレスディスプレイ部が倒れて、故障の原因となることがあります。

・パソコン本体は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されています。ご使用にならないときは電源を切ってください。

・本体部にワイヤレスディスプレイ部を取り付けている場合は、次の点に注意してください。

・タッチパネルを操作するときは強く画面を押さないでください。

パソコン本体が倒れて、けがや故障の原因になることがあります。

・地震の場合や、パソコン本体に寄りかかったりした場合に、パソコン本体が転倒や落下することができます。パソコンの転倒や落下によるけがなどにご注意ください。

■パソコンの温度上昇について

- ・長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じることがあります。故障ではありません。
- これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するためです。
- ・ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。
- ワイヤレスディスプレイ部の背面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。

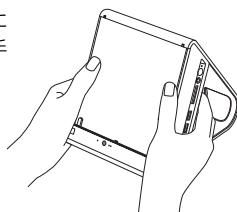
■パソコン内部からの音について

パソコン本体内部からは、次の音が聞こえることがあります。これらは故障ではありません。

- ・内部の熱を外に逃がすためのファンの音
- ・ハードディスクがデータを書き込む音
- ・CD/DVD ドライブのディスク読み取りヘッドが移動する音

■本体部を移動する場合の注意

- 必ずパソコンの電源を切り、電源が入ったままや、省電力状態のまま持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も、5秒ほど待ってから動かしてください。衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- 本体部にワイヤレスディスプレイ部を取り付けている場合は必ず取り外してください。
- 本体部に接続しているACアダプタやケーブルなどをすべて取り外してください。
- 本体部にメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。
- 本体部を持ち上げたり移動させたりするときは、本体部左右を両手で掴んでください。



■ワイヤレスディスプレイ部の取り扱い上の注意

- ワイヤレスディスプレイ部を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で掴んでください。
- ワイヤレスディスプレイ部を運ぶ場合は、ぶつけたり落したりしないでください。
- ワイヤレスディスプレイの画面をたたいたり強く押したりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押したりしないでください。
- ワイヤレスディスプレイ部に強い圧力が加わると、画面にムラが発生する場合があります。
- ワイヤレスディスプレイの画面にゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。

■雷についての注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。また、雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

ただし、どのような避雷器をお使いになつてもパソコン本体を保護できない場合があります。あらかじめご了承ください。

□落雷について

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類あります。直撃雷と誘導雷のどちらでも避雷器で保護できない可能性があります。

・直撃雷

避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できます。

ただし、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがあります。

・誘導雷

パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。

雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、LANケーブルなどから誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

□落雷時の故障について

落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。

故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあります。ご注意ください。

また、場合によっては、落雷によってパソコン本体だけでなく周辺機器などが故障することもあります。

疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因是、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

- ・直射日光があたらない場所や、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしない場所に設置し、画面の向きを調節しましょう。
- ・画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調節しましょう。
- ・目と画面との距離をとり、疲れない位置を保って利用しましょう。
- ・1時間以上続けて作業しないようにしましょう。
- ・続けて作業をする場合には、1時間に10~15分程度の休憩時間をとりましょう。
- ・休憩時間までの間に1~2分程度の小休止を1~2回取り入れましょう。

認定および準拠について

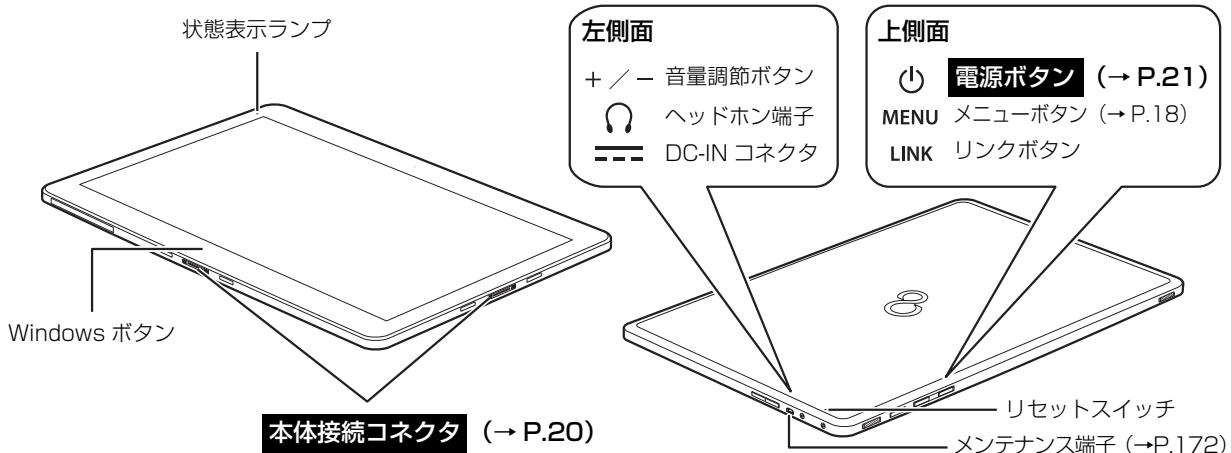
このパソコンに固有の認定および準拠マークに関する詳細（認証・認定番号を含む）は、次の手順で表示される画面で確認できます。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
 - 2 「情報」（「Info」）メニューから「認証表示」（「Display Regulatory Compliance」）を選択します。
- BIOS セットアップについて詳しくは、「BIOS の設定」（→ P.153）をご覧ください。

各部の名称について

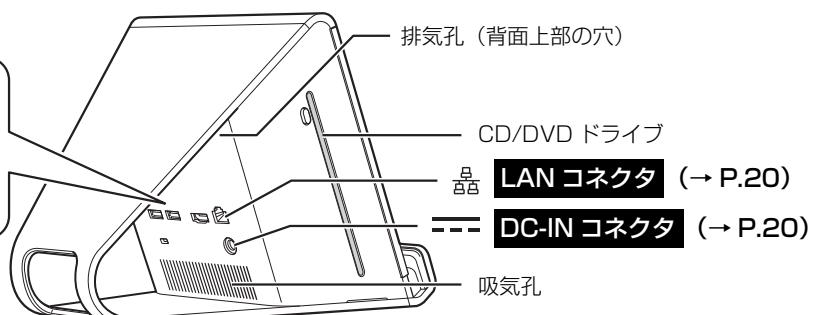
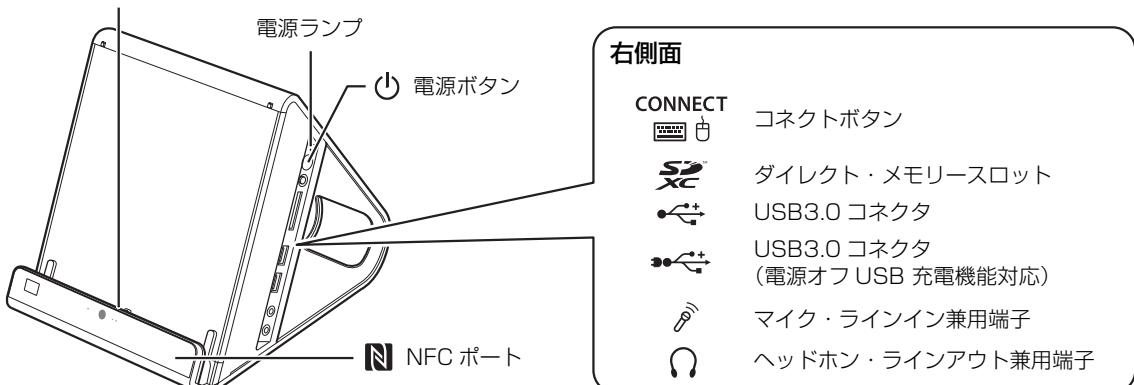
このパソコンの各部の名称は次のとおりです。

■ワイヤレスディスプレイ部



■本体部

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタ (→ P.20)

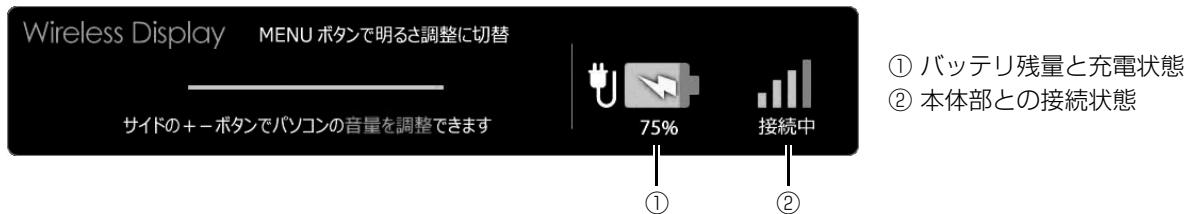


Point

- ▶ ワイヤレスディスプレイ部の DC-IN コネクタには、このパソコンに添付の AC アダプタは接続できません。別売の AC アダプタを接続してください。
- ▶ 各部の働きなど詳しくは、「各部の名称と働き」(→ P.38) をご覧ください。

■状態表示画面

ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを押すと、ワイヤレスディスプレイ部の状態が次のように表示されます。詳しくは、「ワイヤレスディスプレイ部」(→ P.46)をご覧ください。



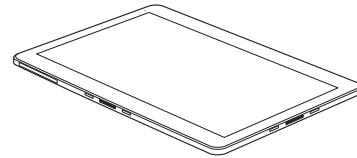
■利用スタイル

このパソコンは、次の 3 つのスタイルで利用することができます。

□タブレットスタイル

ワイヤレスディスプレイ部を取り外し、タブレットのように利用できます。

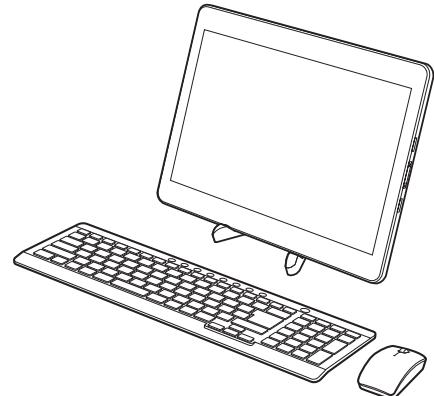
※タブレット用の機能を使用するアプリでも利用できない場合があります。



□PC スタイル

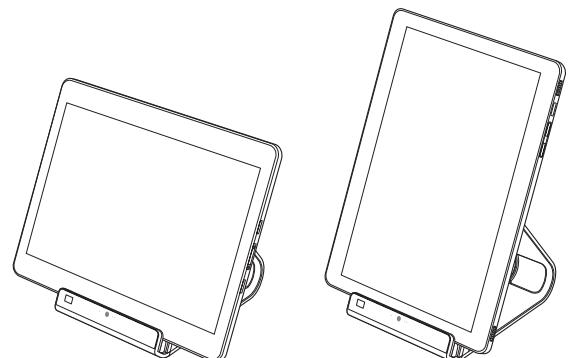
添付のワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスで、普通のパソコンのように利用できます。添付のスタンド (→ P.37) を利用すれば、部屋の好きな場所で自由に利用できます。

※添付のスタンドを利用する場合、ワイヤレスディスプレイ部を縦に置くことはできません。



□ボードスタイル

ワイヤレスディスプレイ部を本体部に取り付けて利用できます。ワイヤレスディスプレイ部を縦に置くこともできます。



Point

- ワイヤレスディスプレイ部の使用範囲は、本体部が見える範囲で最大約 30m です。また、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの使用範囲は、本体部が見える範囲で最大約 10m です (約 3m 以内を推奨)。ただし、設置環境や条件によって、使用範囲内でもうまく動かない場合があります。
- ワイヤレスディスプレイ部は、本体部にセットされている場合でも無線機能 (5GHz 帯 W52 チャンネル) を使用して接続されています。5GHz 帯や無線機能をお使いになれない場所では使用しないでください。

セットアップを始める前のチェック

セットアップの準備が整っているか確認してください。

添付品の確認は済んでいますか？

→まだの場合は、□『箱の中身を確認してください』をご覧ください。

パソコンを使用する場所は決まっていますか？

→使用場所については、「パソコンの使用環境についての注意」(→ P.15)をご覧ください。

インターネットに接続する準備ができますか？

→できていない場合は、プロバイダーと契約してください。

ワイヤレス（無線 LAN）を使う場合、ネット

ワーク名（SSID）とパスワードが必要です！

→セットアップの途中で必要になりますので、
あらかじめ記載しておいてください。

*わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマ
ニュアルをご覧ください。

パスワードはセキュリティキーなどの名称で説明され
ていることもあります。

ネットワーク名
(SSID)

パスワード



セットアップの流れを確認する

パソコンの準備をする (→ P.20)



Windows のセットアップをする (→ P.21)

Windows のセットアップをする



Windows を終了する



パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.34)

● **セットアップ前に周辺機器を接続しないでください**
プリンター、USB メモリ、メモリーカードなどは、
「Windows のセットアップをする」が終わるまで接
続しないでください。

● **必ず AC アダプタを接続してください**
途中でバッテリ残量がなくなると電源が切れてしま
い、故障の原因になる場合があります。

● **必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセット
し、本体部に AC アダプタを接続してください**
本体部にはバッテリは搭載されていないため、AC ア
ダプタを接続しないと電源が入りません。

所要時間は約 30 分～1 時間です。

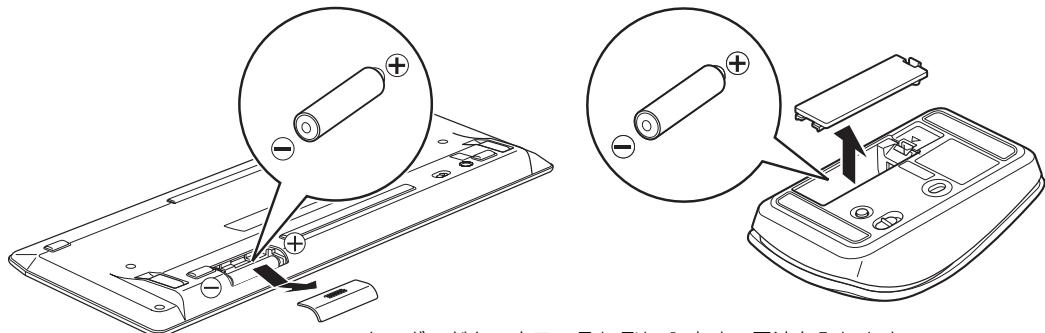
● **このあいだは絶対に電源を切らないでください**
途中で電源を切ると、故障の原因になる場合が
あります。

● **時間に余裕をもって作業してください**

1 ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスに電池を入れます。

裏返して電池ボックスのふたを開け、添付の単3形乾電池を入れます。

その後、電池ボックスのふたを閉めます。



キーボードとマウス、それぞれ1本ずつ電池を入れます。
また、電池を入れるときは電池の向きに注意してください。



▶ 電池を入れるときの注意

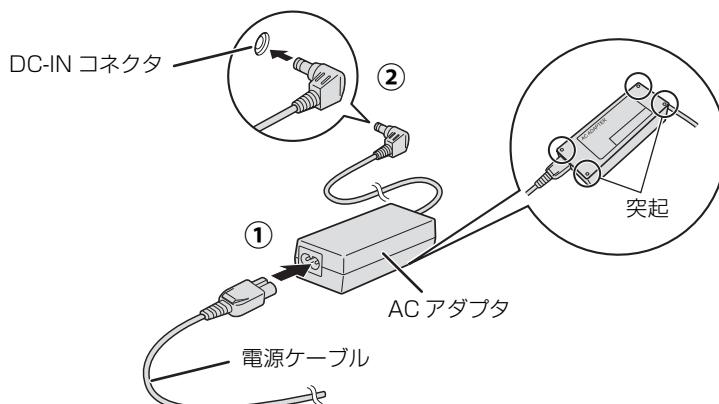
- ・アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素電池を使用してください。マンガン乾電池などをお使いになると、電池寿命が極端に短くなります。
- ・+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意して、表示どおりに入れてください。

2 本体部を電源に接続します。

① ACアダプタに電源ケーブルを接続します。

② 本体部背面のDC-INコネクタ（→P.17）に接続します。

ACアダプタに突起がある場合は、その面を下にして設置します。



①、②の順番にしっかりと接続し、ゆるんだり抜けたりしていないことを確認してください。

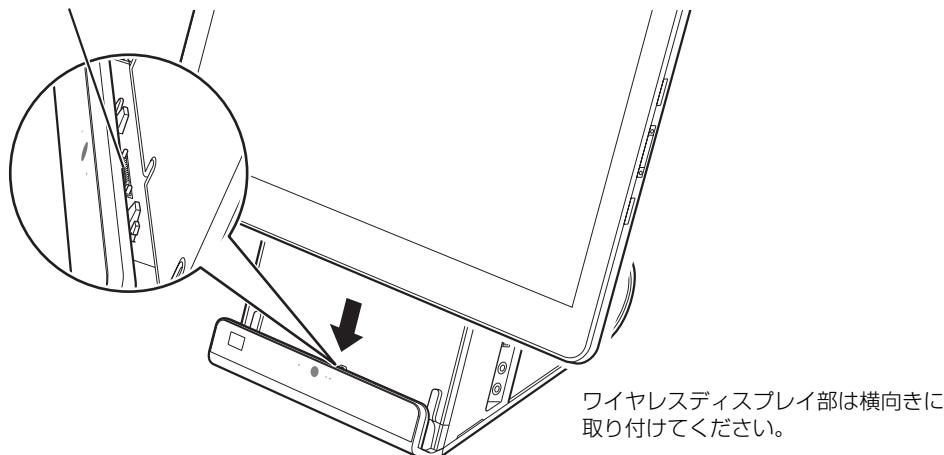
（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

- 3** 有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルを、本体部背面の LAN コネクタに接続します。

- 4** ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタと、ワイヤレスディスプレイ部の本体接続コネクタ（→ P.17）の位置を合わせて、ワイヤレスディスプレイ部をまっすぐ下ろし、しっかりと取り付けます。

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタ



- 5** 手順 2 で接続した電源ケーブルの電源プラグをコンセントに接続します。

しっかりと接続し、ゆるんだり抜けたりしていないことを確認してください。

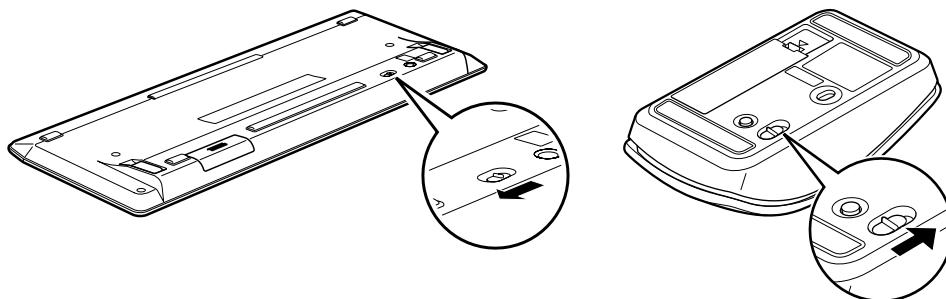
Windows のセットアップをする

- 1** 有線 LAN をお使いになる場合、LAN ケーブルが LAN コネクタに接続されているか確認します。

- 2** 無線 LAN をお使いになる場合、接続するネットワーク名（SSID）とパスワードを確認します（→ P.19）。

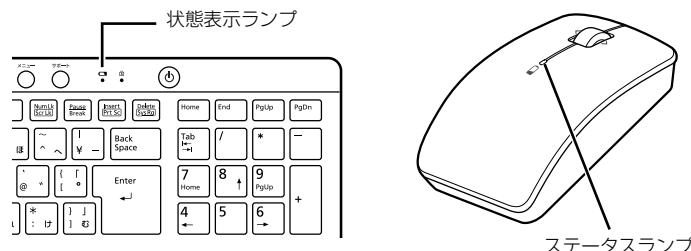
3 ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの電源を入れます。

電源スイッチを ON 側にして、電源を入れます。



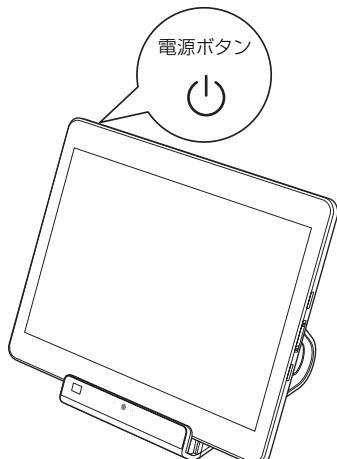
Point

- ▶ 電池スイッチを ON 側にしても、状態表示ランプ、ステータスランプが緑色に点滅しない場合は、何度か乾電池を入れ直してください。



- ▶ ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい電池に交換してください。
- ▶ キーボードやマウスを使用しないときは、電池の消耗を抑えるために、電源スイッチを OFF 側にして電源を切っておくことをお勧めします。

4 ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタン(⌃)をポチッと押します。



電源ボタンを押すときは、ワイヤレスディスプレイ部が傾いたり外れたりしないように注意してください。

重要

- ▶ 「地域と言語」画面が表示されるまで絶対に電源を切らないでください。

5 「地域と言語」画面が表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。



画面が何度か変化します。

Point

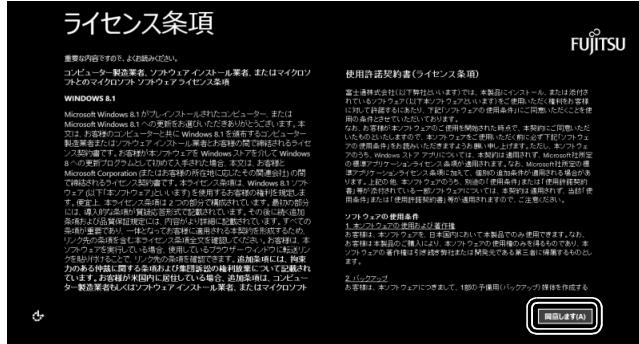
- ▶ しばらく操作をしないと省電力機能が働き、画面が真っ暗になることがあります。電源が切れたわけではありません。マウス、キーボードを操作すると元の画面に戻ります。画面が戻らなかった場合は、ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタン(⌃)をポチッと押してください。

6 「地域と言語」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

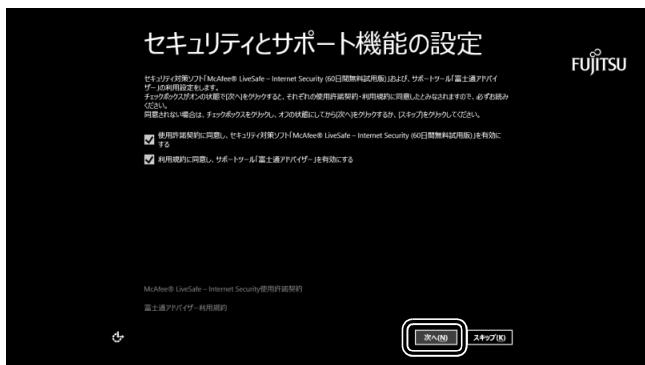


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

7 「ライセンス条項」をよく読みます。読み終わったら「同意します」をクリックします。



8 セキュリティとサポート機能についての説明をよく読んで、「次へ」をクリックします。



9 パソコンにお好きな名前（PC名）を付けます。



① PC名を入力します。

例：「fmv1」という名前にする場合は、キーボードから [F]、[M]、[V]、[1] と入力します。

② 「次へ」をクリックします。

Point

- PC名は、12文字以内の半角英数字(a～z, A～Z, 0～9)でお好きな名前を入力してください。数字を使う場合は英字と組み合わせてください。

10 「セットアップを始める前のチェック」(→ P.19) で記入したネットワーク名 (SSID) をクリックします。

わからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



Point

- ▶ 有線 LAN を使う場合はネットワークが「接続済み」となっていることを確認し、「次へ」をクリックします。手順 12 に進んでください。



- ▶ セキュリティのためネットワーク名 (SSID) が表示されないように設定している場合は、「非公開のネットワーク」をクリックし、画面の表示に従って操作してください。

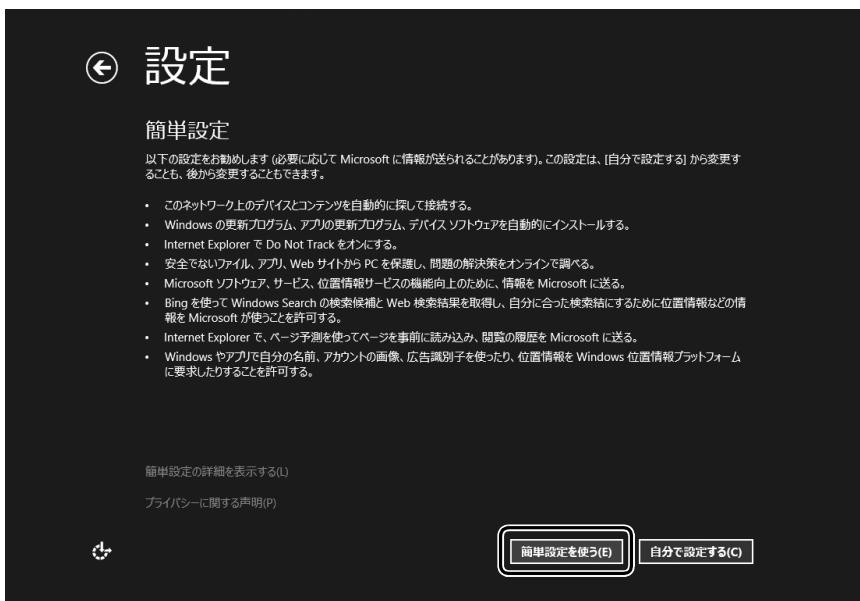
11 このネットワークのパスワードを入力します。



① 「セットアップを始める前のチェック」(→P.19)で記入したパスワードを入力します。
「ルーターのボタンを押しても接続できます。」と表示されていたら、無線LANアクセスポイント(ルーター)のボタンを押して接続できる場合があります。
詳しくは、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

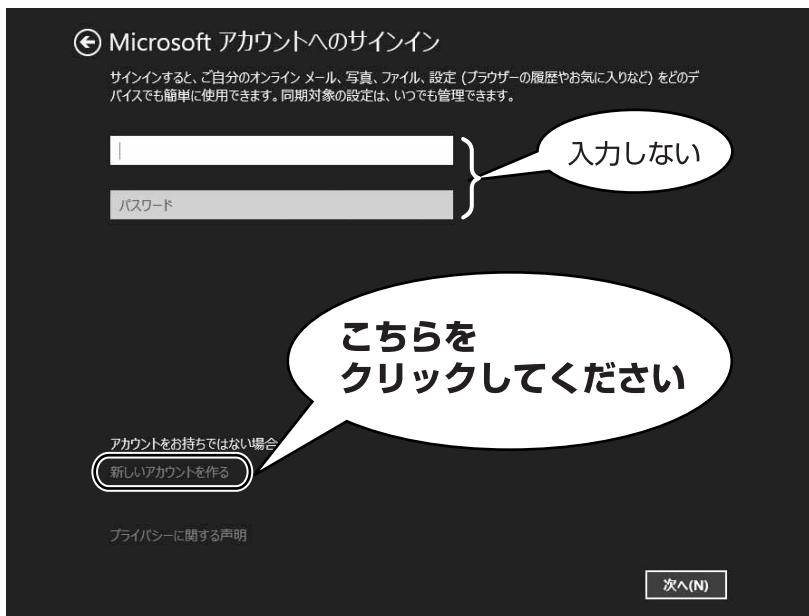
② 「次へ」をクリックします。

12 「簡単設定を使う」をクリックします。



13 「新しいアカウントを作る」をクリックします。

パソコンへサインインするための Microsoft アカウント（メールアドレス）を新規作成します。



Point

- 右のような画面が表示された場合は、「インターネットに接続せずにセットアップしたときは」(→ P.162) の手順に従って、セットアップを続けてください。



アカウント取得についてのお問い合わせ

手順 13～19 の Microsoft アカウントを取得する操作については、日本マイクロソフト株式会社のサーバーにインターネットで接続して行っています。本書と異なる画面が表示された場合など、ご不明な点は日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

日本マイクロソフト株式会社 パーソナルサポート窓口

※お電話で問い合わせると、「マイクロソフト コミュニティ」のご利用を案内される場合があります。

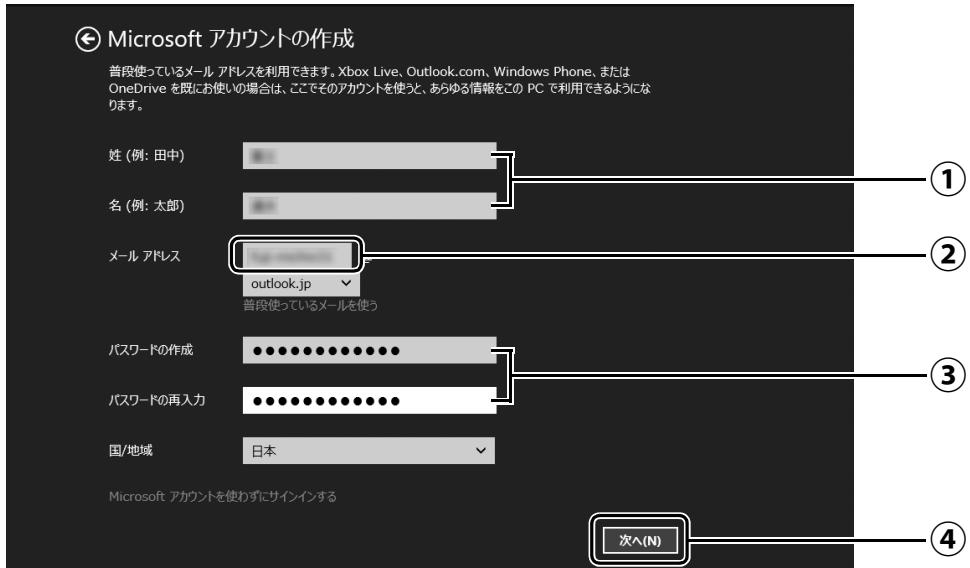
電話番号：0120-54-2244

受付時間：月～金／9:30-12:00、13:00-19:00（土・日・祝祭日および指定休業日を除く）

マイクロソフト コミュニティ

URL : <http://answers.microsoft.com/ja-jp/>

14 新しくメールアドレスを作ります。



④ 「次へ」をクリックします。

15 次の欄に手順14で作ったメールアドレスとパスワードを記入します。

メールアドレス (Microsoft アカウント)	@
パスワード	

パスワードは絶対に忘れないようにしてください。
サインインのときに毎回入力が必要です。

※ 参照しやすいよう本書の巻末にも記入欄を用意しています。
※ 第三者に漏れないように充分に注意して管理してください。

16 パスワードを忘れた場合のセキュリティ情報を入力します。

ここで入力した情報で、パスワードを再設定することができます。

「電話番号」と「連絡用メールアドレス」のどちらか1つは必ず入力してください。

④ セキュリティ情報の追加

この情報は、アカウントをより安全に保ちながら、パスワードを復元できるようにする目的でのみ使用されます。

生年月日	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	①
性別	男	②
国コード	日本 (+81)	③
電話番号	<input type="text"/> X	④
連絡用メールアドレス	<input type="text"/>	⑤

次へ(N)

① ▾をクリックし、生年月日を選択します。

② 性別を選択します。

③ 電話番号を入力します。固定電話と携帯電話（スマートフォンを含む）、どちらの番号も使用できます。

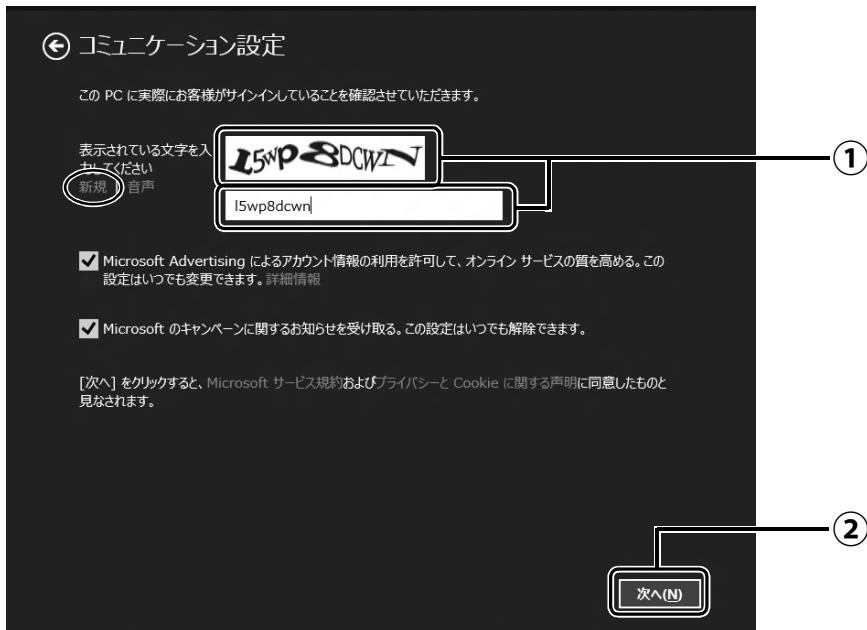
本人確認をするときに必要になります。すぐに応対できる電話番号を入力してください。

④ 以前から使用しているメールアドレスを入力します（携帯電話およびスマートフォンのメールアドレスを除く）。

本人確認をするときに必要になります。すぐに応対できるメールアドレスを入力してください。

⑤ 「次へ」をクリックします。

17 最終設定を行います。



① 画面に表示されている文字を入力します。

文字が読めない場合は「新規」をクリックします。新しい文字が表示されます。

② 「次へ」をクリックします。

Point

- ▶ 文字の入力を失敗した場合、「入力した文字が画面の文字と一致しません」というメッセージが表示され、新しい文字が表示されます。表示されている文字を再度入力してください。
- ▶ セキュリティ情報の入力に間違いがあった場合は、手順 16 に戻ります。入力内容を修正した後、手順 17 をやり直しになります。

18 「後で行う」をクリックします。

④ 情報の保護にご協力ください

お使いのアカウントまたはデバイスからプライバシーにかかる情報にアクセスする場合や、疑わしいアカウントの活動が検出された場合は、IDを確認するためセキュリティコードの入力をお願いしております（このデバイスで頻繁にサインインする場合は、これ以降確認を求められることはございません）。

コードの受け取り方法

***** に SMS を送信

テキストを受信できない場合は、通話のオプションを選択してください。

これがご自分の電話番号であることを確認するには、" " を含む最後の 4 枚を入力し、[次へ] をクリックしてコードを受け取ってください。

最後の 4 枚

コードを持っている場合

後で行う

次へ(N)

Point

- 「コードの受け取り方法」を選択し、電話番号の最後の 4 枚かメールアドレスを入力して、「次へ」をクリックした場合は、右の画面が表示され、選択した方法でコードが送られてきます。

送られてきたコードを入力し、「次へ」をクリックします。

電話が聞き取れなかったり、メールが受信できなかったりした場合は、④をクリックして手順 16 へ戻り、その場で応対できる電話番号またはメールアドレスに変更し、やり直してください。

⑤ 受け取ったコードを入力してください

お使いのアカウントまたはデバイスからプライバシーにかかる情報へのアクセスがあった場合や、疑わしいアカウント活動が検出された場合は、IDを確認するために、セキュリティコードの入力をお願いします（このデバイスで頻繁にサインインしている場合は、この場合もコードの入力をお願いしません）。

にお送りしたコードを入力してください。

コード

別の確認オプションを使う

今は行わない

次へ(N)

19 OneDrive の説明が表示された場合は、「次へ」をクリックします。

画面が何度か変化します。

スタート画面が表示されるまでお待ちください。



画面が何度か変化します



(スタート画面)

20 Windows を終了します。

セットアップを完了させるため、いったん Windows を終了させてください。

スタート画面の右上にあるをクリックし、表示されたメニューから「シャットダウン」をクリックします。

これで、Windows のセットアップが完了しました。

プロバイダーから提供されたメールアドレスなどでメールを使うには

Windows ストア アプリの「メール」ではお使いになれません。

「Outlook」、または「Windows Live メール」をお使いください。

使い方については、「富士通アドバイザー」の「メールの使い方」をご覧ください (→ P.34)。

「Outlook」について、ご不明な点がある場合は、次のお問い合わせ窓口をご利用ください。

日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口

電話 : 0120-54-2244

受付時間 : 月～金／9:30～12:00、13:00～19:00、

土／10:00～17:00 (日・祝祭日および指定休業日を除く)

URL : <http://support.microsoft.com/contactus/>

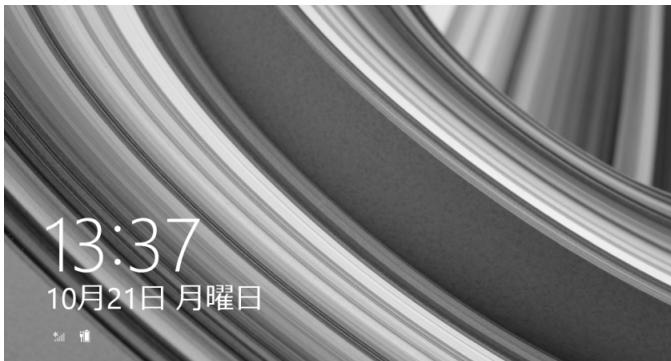
パソコンを快適にお使いいただくための準備をする

「富士通アドバイザー」の準備をする

「富士通アドバイザー」とは、『取扱説明書<詳細版>』を表示したり、パソコンを使うために知っておいていただきたい情報を届けたりするアプリです。

- 1 ワイヤレスディスプレイ部の状態表示ランプが白色点灯以外であることを確認し、ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタン（○）をポチッと押します。

- 2 ロック画面が表示されたら、[Enter] を押します。



- 3 パスワードを入力し、➡をクリックします。

「Windows をセットアップする」の手順 15 で記入したパスワードです。

- 4 スタート画面が表示されたら、「富士通アドバイザー」をクリックします。



- 5 「富士通アドバイザー」の画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「同意する」をクリックします。

6 「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか？」と表示されたら、「許可」をクリックします。

この後は、画面の指示に従って操作を進めます。

■ 次のお知らせは、できるだけ早くお読みください

●パソコンを最新の状態にする

Windows を最新の状態にします。

●Windows 8.1 の使い方

Windows 8.1 の基本操作や、スタート画面の使い方、パソコンの音量や画面の明るさの調整方法などをご紹介します。

●このパソコンの取り扱いについて

本体部やワイヤレスディスプレイ部の動作や、それぞれを取り扱うときの注意事項などが、『取扱説明書<詳細版>』の「取り扱い」に記載されています。このパソコンをお使いになるときに、必ずご覧ください。

Point

▶ 「富士通アドバイザー」は、このほかにも、パソコンを快適にお使いいただくためのお知らせを配信します。定期的にご確認ください。

また、マニュアル (『取扱説明書<詳細版>』) とトラブル解決の事例などご覧になれます。必要に応じてご確認ください。

▶ 「富士通アドバイザー」は、パソコンだけでなく、スマートフォンでもご利用いただけます。「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)をご利用いただくと、万が一、パソコンが起動しなかったり、インターネットに接続できなかったりする場合でも、サポート情報やマニュアルをご覧いただけます。

※ Android 4.0 以降を搭載したスマートフォンが必要です。

[ダウンロード手順]

1. 富士通アドバイザーアプリのダウンロードページを開きます。

<http://azby.fmworld.net/support/mycloudapps/download/#fjadvise>

2. Google play バナーをクリックして、アプリをダウンロードします。

※「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)の利用設定が必要です。



スマートフォンから



ANDROID APP ON

パソコンの使い方を初歩から学んでみたいけれど、勉強のしかたがわからない、近くにパソコン教室がないなどでお悩みではありませんか。

富士通では、Windows 8.1 を新しく使い始めたお客様を対象に、プロの担当者が基本操作をレッスンする有償のサービスメニューをご用意しています。

お客様の予算や目的にあったサポートプランをご提案しますので、「PCつなげてレッスンに関するお問い合わせ窓口」までお電話ください。

PC つなげてレッスンに関するお問い合わせ窓口 (0120-994-499)

受付時間：平日 9 時から 17 時

※土・日・祝日、当社指定の休日を除く

※本サービスをご利用いただくには、ユーザー登録が必要となります。

<http://azby.fmworld.net/support/pclesson/>



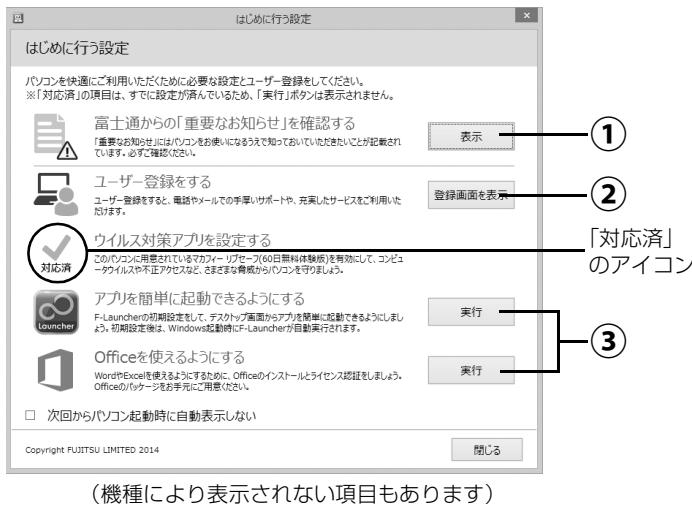
「はじめに行う設定」で初期設定する

「はじめに行う設定」ウィンドウから、パソコンを快適にお使いになるために必要な初期設定を行ってください。

1 スタート画面で「デスクトップ」をクリックして、デスクトップ画面を表示します。

デスクトップ画面に、「はじめに行う設定」ウィンドウが自動で表示されます。

2 「はじめに行う設定」ウィンドウに表示される項目をすべて実行します。



※「ウイルス対策アプリを設定する」では、Windowsのセットアップ中に「セキュリティとサポート機能の設定」画面でセキュリティ対策ソフトを有効にしていると、「対応済」になります。
「対応済」になっていない場合は、さまざまな脅威からパソコンを守るために、早めに「実行」をクリックし、「マカフィー リブセーフ」を有効にしてください。

- ①「表示」をクリックすると、「重要なお知らせ」という画面が表示されますので、よくお読みください。画面を閉じるときは、画面の上から下までドラッグしてください。
- ②「登録画面を表示」をクリックすると、「はじめに行う設定 - ユーザー登録をする」ウィンドウが表示されます。「パソコンの情報を送信する（推奨）」をクリックしてください。インターネットのユーザ登録専用ホームページが表示されます。ユーザ登録については、「ユーザー登録のご案内」(→ P.107)をご覧ください。
- ③「実行」をクリックすると、各アプリが起動するので初期設定してください。実行した項目は、左側のアイコンが「対応済」に変わります。
すべての項目を実行した場合は、パソコンを再起動したときに、「はじめに行う設定」ウィンドウが表示されなくなります。

Point

- ▶ 富士通からの「重要なお知らせ」を再度確認したい場合は、スタート画面左下の❬ 下❭ をクリックし、「はじめに行う設定」をクリックしてください。
- ❬ 下❭ が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

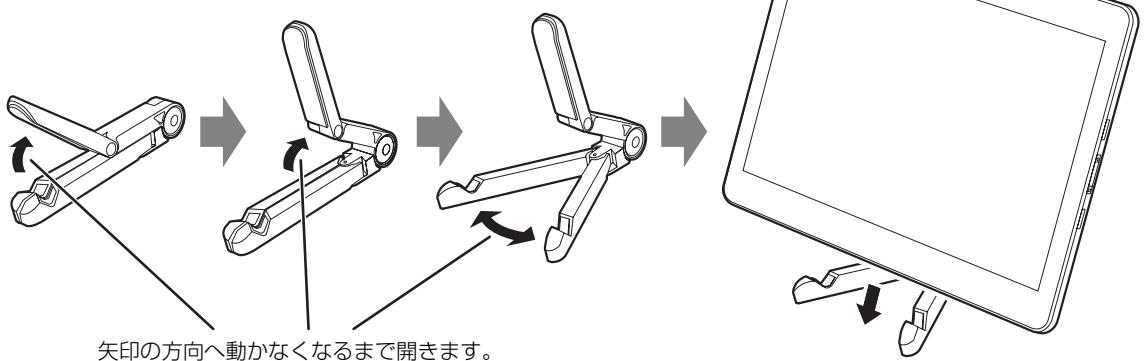
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

すべての項目を実行するとセットアップは完了です。

便利な機能のご紹介

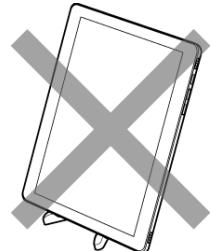
□スタンド

添付のスタンドに、ワイヤレスディスプレイ部を立てかけて、お使いになることもできます。次のように立てかけます。



Point

- ▶ 次のことについて注意してください。
 - ・ワイヤレスディスプレイ部を縦に立てかけないでください。
 - ・ワイヤレスディスプレイ部はスタンドの中央に置いてください。
 - ・スタンドに立てかけているときは、次の点に注意してください。
 - タッチパネルを操作しないでください。ワイヤレスディスプレイ部が倒れて、けがや故障の原因になることがあります。
 - 地震の場合や、ワイヤレスディスプレイ部に寄りかかったりした場合に、スタンドやワイヤレスディスプレイ部が転倒や落下することがあります。転倒や落下によるけがなどにご注意ください。
 - ・スタンドに立てかけて使用しているときも電力を消費します。別売の AC アダプタを接続すると、バッテリ残量を気にせずにお使いになれます（このパソコンに添付の AC アダプタは接続できません）。
 - ・スタンドに立てかけて充電する場合は、別売の AC アダプタを接続してください。



□人感センサー

パソコンの近くに人がいるかどうかを感知する機能により、近づくと自動的にパソコンが起動し、My Cloud が集めた写真を自動再生することができます。また、人感センサー機能は無効にすることもできます。

詳しくは、「便利な機能のご紹介」の人感センサー機能に関する説明（→ P.80）をご覧ください。

□自動バックアップ

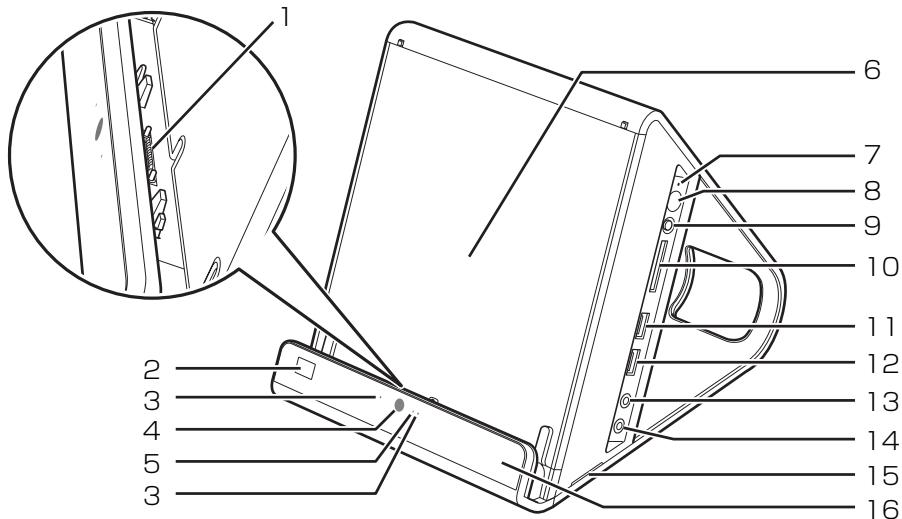
このパソコンは、ハードディスクに保存した写真などのデータを定期的に自動バックアップすることができます。

この機能は、セットアップしたあとすぐに利用できます。この機能を無効にする場合や、スケジュールを変更する場合は、「バックアップナビ」から操作してください。

詳しくは、「バックアップ」（→ P.90）をご覧ください。

本体部

■前面、右側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 ワイヤレスディスプレイ接続コネクタ

ワイヤレスディスプレイ部を接続します(→P.41)。

2 人感センサー

パソコンの近くに人がいるかどうかを感じします。人が近づくと自動的にパソコンが起動し、My Cloudが集めた写真を自動再生することができます(→P.80)。

3 デジタルマイク

テレビ電話用アプリを利用して音声通話をするときには、この機能を使います。

4 Web カメラ

この Web カメラは、次の機能で使用します。

- ・ハンドジェスチャー(→P.75)
- ・Skype(→P.88)

5 Web カメラ状態表示 LED

Web カメラが動作しているときに点灯します。

Point

▶ 次の場合は点灯しません。

ハンドジェスチャーのみを有効にしている場合
(Web カメラを使用するアプリが他に起動していない場合)

6 イルミネーションランプ(→P.82)

7 電源ランプ

本体部の電源の状態を表示します(→P.46)。

8 電源ボタン(○)

Windows をスタートします(→P.55)。

9 コネクトボタン(CONNECT)

添付のワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスを本体部に再認識させるときに押します(→P.53)。

10 ダイレクト・メモリースロット(SD)

SD メモリーカードを差し込みます。miniSD カードなどは、アダプターを使用してください(→P.70)。

11 USB3.0 コネクタ(•□) [注]

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

12 USB3.0 コネクタ(電源オフ USB 充電機能対応)

() 【注】

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

このコネクタは、設定を変更することにより、電源オフ USB 充電機能を使用できます(→ P.73)。

13 マイク・ラインイン兼用端子 ()

- ・外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のパソコン用マイクを接続します。また、設定を変更することで、ライン入力端子としても使用できます (→ P.132)。
- ・コネクタの形状によっては、機器を接続しづらい場合がありますのでご注意ください。

注 : USB 機器の形状によっては、隣接する USB コネクタと同時に USB 機器を接続できないことがあります。

14 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 ()

- ・外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホンを接続します。また、設定を変更することで、ライン出力端子としても使用できます (→ P.132)。
- ・コネクタの形状によっては、機器を接続しづらい場合がありますのでご注意ください。

15 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.61)。

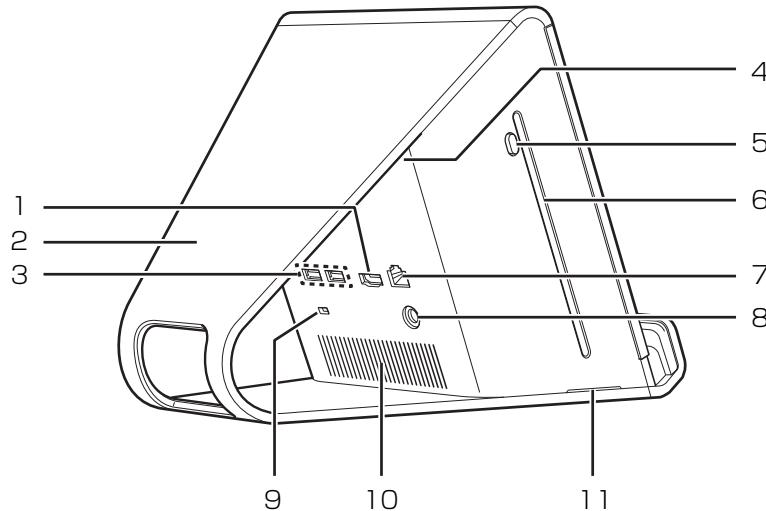
16 NFC ポート ()

NFC 対応のスマートフォンとのデータ連携、Web サイトでのショッピングやチャージ（入金）などで使用します。



▶ NFCをご利用になる場合は、 の付近にかざしてください。読み取りにくい場合は 付近で読み取りやすい場所を探してください。

■背面、左側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 HDMI 出力端子 (HDMI)

デジタルテレビやデジタル接続の外部ディスプレイを接続します。

Point

▶ 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」(→ P.119) をご覧ください。

2 内蔵無線 LAN・内蔵 Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用アンテナ

無線 LAN・Bluetooth ワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

Point

▶ 無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて、詳しくは「通信」(→ P.134) をご覧ください。

3 USB3.0 コネクタ (• \leftrightarrow) [注]

USB 規格の周辺機器を接続します。

接続した USB 機器の動作は、周辺機器や間に接続されている USB ハブやケーブルの性能に依存します。

4 排気孔 (背面上部の穴)

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

5 CD/DVD 取り出しボタン

ディスクをセットしたり取り出したりするときに使用します (→ P.63)。

6 スロットインBDXL™対応Blu-ray Disc ドライブ

ディスクの読み出し／書き込みをします (→ P.63)。

7 LAN コネクタ (昌)

LAN ケーブルを接続します。

8 DC-IN コネクタ (—)

添付の AC アダプタを接続します。

9 盗難防止用ロック取り付け穴 (锁定)

市販の盗難防止用ケーブルを接続します。

10 吸気孔

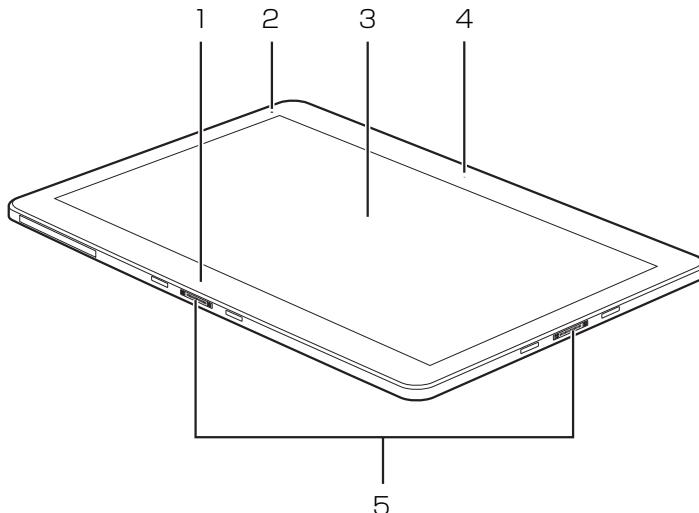
11 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.61)。

注：USB 機器の形状によっては、隣接する USB コネクタと同時に USB 機器を接続できないことがあります。

ワイヤレスディスプレイ部

■前面、右側面、下側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 Windows ボタン

スタート画面を表示したいときに押します。

2 状態表示ランプ

ワイヤレスディスプレイ部の電源やバッテリの状態を表示します（→ P.47）。

3 液晶ディスプレイ

入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。画面に触れて操作することができます（→ P.57）。

次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。

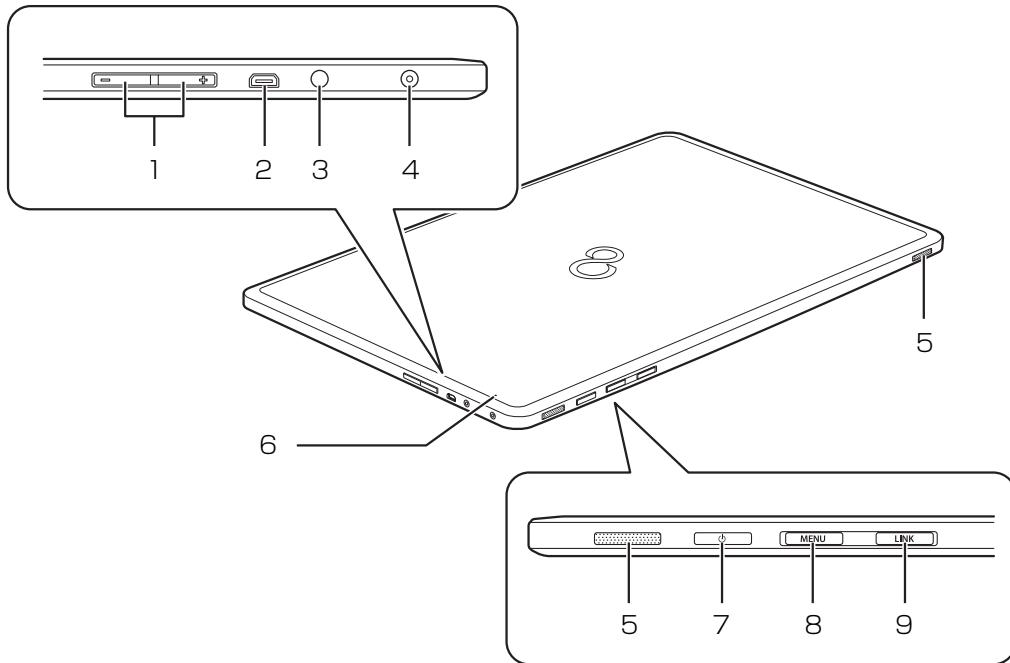
- ・液晶ディスプレイに強い圧力が加わったとき
- ・タッチ操作を行ったとき

4 明るさセンサー（→ P.80）

5 本体接続コネクタ

本体部に接続します（→ P.46）。

■背面、左側面、上側面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 音量調節ボタン (+/-)

音量を調節します。

2 メンテナンス端子

添付のメンテナンスケーブルを使って本体部と接続します (→ P.172)。

3 ヘッドホン端子 (Ω)

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホンを接続します。

4 DC-IN コネクタ (—)

別売のワイヤレスディスプレイ用 AC アダプタを接続します。

重要

このパソコンに添付の AC アダプタは接続できません。

5 スピーカー

パソコンの音声を出力します (→ P.61)。

6 リセットスイッチ

ワイヤレスディスプレイ部の画面が表示されない場合や、リンクボタンを押しても画面が表示されない場合に使用します (→ P.102)。

7 電源ボタン (⊕)

Windows をスタートしたり、画面の表示／非表示を切り替えたりします。

8 メニューボタン (MENU)

状態表示画面を表示します (→ P.47)。

9 リンクボタン (LINK)

ワイヤレスディスプレイ部を本体部に再認識されるときに押します (→ P.48)。

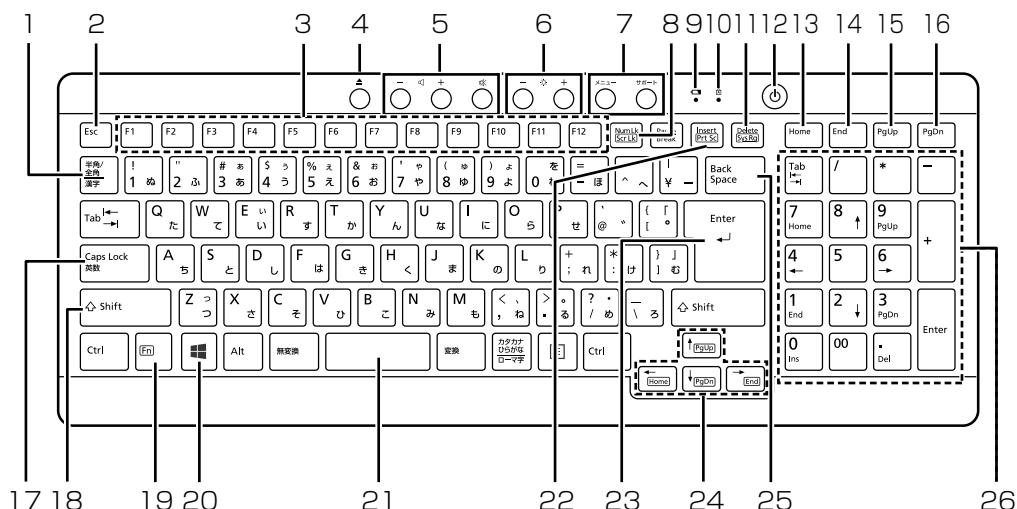
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス

重要

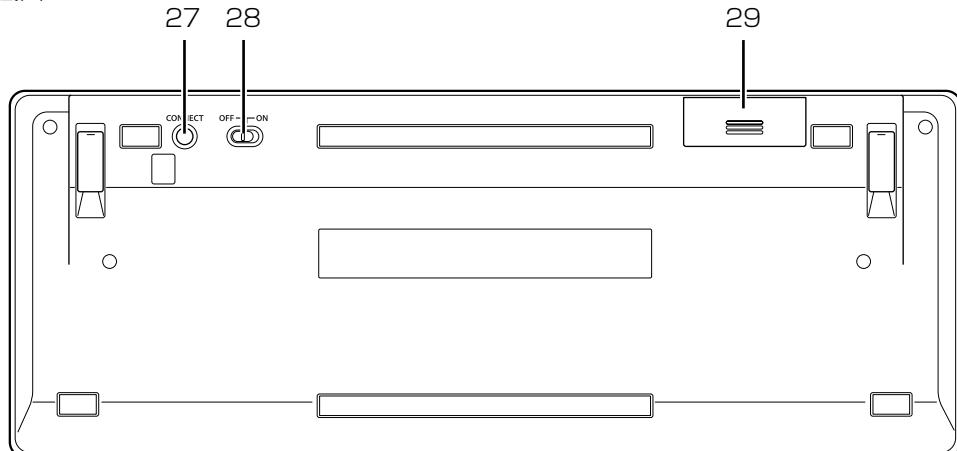
- ▶ ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスは、このパソコン専用です。
誤動作や故障の原因となる場合がありますので、他の機種のパソコンでご使用にならないでください。

■ワイヤレスキーボード

表面



底面



1 半角／全角キー

キーを押すたびに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力にすると、日本語を入力できます。

2 Esc キー

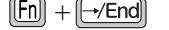
現在の作業を取り消します。

3 ファンクションキー

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。

4 CD/DVD 取り出しボタン

ディスクをセットしたり取り出したりするときに使用します。

- 5 音量調節ボタン**
パソコン本体の音量を調節します（→ P.61）。
- 6 明るさ調節ボタン**
画面の明るさを調節します（→ P.62）。
- 7 ワンタッチボタン**
決められたアプリをワンタッチで起動します。
 - ・メニュー
「@メニュー」を起動します。
 - ・サポート
パソコンの電源を切ったとき（→ P.168）
Windows が起動しないときにも、「ハードウェア診断」や「トラブル解決ナビ」などトラブル解決に役立つサポート機能を使うことができます（→ P.97）。
 - ・パソコンの電源を切ったとき（→ P.168）以外
「@メニュー」を起動し、パソコンのサポートやサービスなどの情報を確認することができます。
- 8 Num LK キー**
テンキーの機能を切り替えます。
- 9 状態表示ランプ**
キーボードの電池の消耗状態やパソコンとの認識状態を表示します（→ P.49）。
- 10 Caps Lock ランプ**
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。点灯時に、キーを押さない状態が約5秒続くと消灯します。その後スリープモードに移ります（→ P.49）。
-  を押すたびにモードが切り替わります。
- 11 Delete キー**
カーソルの右側にある 1 文字を削除します。
- 12 パソコン電源ボタン (○)**
本体部の電源ボタンと同じように使用できます（→ P.55）。
- 13 Home キー**
カーソルを行の最初に移動します。
 を押しながらこのキーを押すと、文章の最初に移動します。
- 14 End キー**
カーソルを行の最後に移動します。
 を押しながらこのキーを押すと、文章の最後に移動します。
- 15 PgUp キー**
前の画面に切り替えます。
- 16 PgDn キー**
次の画面に切り替えます。
- 17 Caps Lock／英数キー**
 を押しながらこのキーを押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。
- 18 Shift キー**
 を押しながら記号の刻印されているキーを押すと、そのキーの上段に刻印されている記号を入力できます。
- 19 Fn キー**
このキーを押しながら  で囲まれたキー ( など) を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。
 カーソルを行の最初に移動します。
 文章の最初に移動します。
  前の画面に切り替えます。
 次の画面に切り替えます。
 カーソルを行の最後に移動します。
 文章の最後に移動します。

- 20 Windows キー**
スタート画面を表示したいときに押します。
- 21 空白 (Space) キー**
文字を入力するときに、空白（スペース）を入力します。
- 22 Prt Sc キー**
 を押しながらキーを押すと、画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。
- 23 Enter キー**
入力した文字を確定したり、改行したりします。
- 24 カーソルキー**
カーソルを上下左右に移動します。
- 25 Back Space キー**
カーソルの左側にある 1 文字を削除します。
- 26 テンキー**
数字や記号を入力します。

27 コネクトボタン

キーボードを本体部に再認識させるときに押します
(→ P.53)。

28 電源スイッチ

キーボードの電源を入れたり切ったりします。

29 電池ボックス

単3形電池を1本入れます。

Point

▶ 「キーボード状態表示ツール」で、【Num Lk】キー、【Caps Lock】キー、【Scr Lk】キーを押したときに、キーの状態を画面右上に表示することもできます。「キーボード状態表示ツール」の起動方法は次のとおりです。

1. スタート画面で「@メニュー」をクリックします。

2. 「@メニュー」の画面で、「パソコン設定」▶「かんたん」▶「目的でさがす」▶「キーボードの状態の表示／非表示を切り替える」▶「実行する」の順にクリックします。

なお、キーの状態を表示する場合は、次の設定も確認してください。

1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックし、「ハードウェアとサウンド」をクリックします。

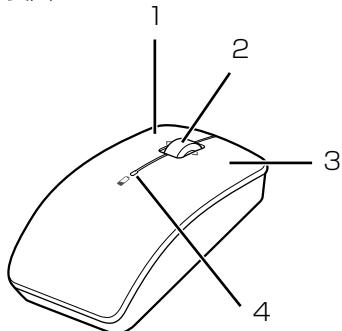
※スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2. 「キーボード状態表示ツール」をクリックします。

3. 「表示する」を選択し、「OK」をクリックします。

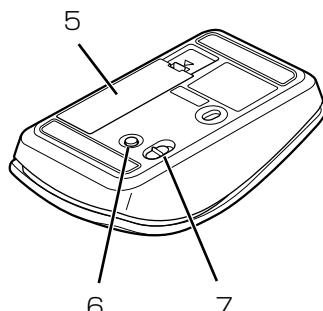
■ワイヤレスマウス

表面



(イラストは機種や状況により異なります)

底面



1 左ボタン

クリックするとき押します。

2 スクロールホイール

- ホイールを回すと、画面を上下にスクロールできます。スタート画面の場合は、左右にスクロールします。
- ホイールを左右に倒すと、「チャームを表示する」や「アプリを切り替える」と同じ動作をします。『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』また、別の動作を設定することもできます
(→ P.83)。

3 右ボタン

右クリックするとき押します。

4 ステータスランプ

マウスの電源を入れたときに、電池が消耗していない場合は、約10秒間緑色に点灯します。電池が消耗している場合は、赤色に点滅します。点滅したら、電池を交換してください (→ P.52)。

5 電池ボックス

単3形電池を1本入れます。

6 コネクトボタン

マウスを本体部に再認識させるときに押します
(→ P.53)。

7 電源スイッチ

マウスの電源を入れたり切ったりします。

このパソコンの取り扱いについて

本パソコンは、本体部とワイヤレスディスプレイ部で構成されています。本体部とワイヤレスディスプレイ部は無線通信で接続されているため、本体部から離れた場所でも、ワイヤレスディスプレイ部で本体部を操作できます。また、本体部とワイヤレスディスプレイ部は5GHz帯（W52チャンネル）の無線通信を使用するため、次のような無線機器も同時に使用できます。

- ・2.4GHz帯を使用する無線LAN機器
- ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器
- ・5GHz帯（W53/W56チャンネル）を使用する無線LAN機器

Point

- ▶ワイヤレスディスプレイ部は、本体部にセットされている場合でも無線機能（5GHz帯W52チャンネル）を使用して接続されています。このため、5GHz帯や無線機能をお使いになれない場所では使用しないでください。

本体部

本パソコンのCPUやメモリ、HDDを搭載しています。各部の名称や働きについては、「各部の名称と働き」（→P.38）をご覧ください。

Point

- ▶本体部にはバッテリは搭載されていません。

■電源ランプの状態

電源ランプは、パソコンの状態によって次のように動作します。

電源ランプの状態	パソコンの状態
白色点灯	パソコンの電源が入っている
点滅	スリープ
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・休止状態 ・パソコンの電源が切れている

スリープや休止状態について詳しくは、「スリープ／休止状態」（→P.144）をご覧ください。

ワイヤレスディスプレイ部

ワイヤレスディスプレイ部は、本体部に取り付けて使うことも、本体部から取り外してタブレットのように使うこともできます。また、本体部に取り付ける場合は、ワイヤレスディスプレイ部を縦に置くこともできます。

各部の名称や働きについては、「各部の名称と働き」（→P.41）をご覧ください。

■ワイヤレスディスプレイ部をお使いになるうえでの注意

- ワイヤレスディスプレイ部を本体部に取り付ける場合は、ワイヤレスディスプレイ部用ACアダプタ（別売）は取り外してください。
- ワイヤレスディスプレイ部の使用範囲は、本体部が見える範囲で最大約30mです。ただし、設置環境や条件によって、使用範囲内でもうまく動かない場合があります。
- 状態表示画面（→P.47）ののアンテナが〇の状態になると、状態表示画面が自動的に表示されます。この状態では、画面の表示が乱れたり、タッチ操作の反応が悪くなったりしますので、早めに本体部に近づけてください。
- 本体部との無線接続が安定しない場合、状態表示画面が頻繁に表示されることがあります。
本体部との距離が離れている場合は、ワイヤレスディスプレイ部を本体部に近づけてご利用ください。また、近くで5GHz帯の無線機器を使用している場合は、無線機器の設置場所を見直すなどしてください。
- 本体部との接続状態に関わらず、画面上にブロックノイズやにじみが一瞬発生する場合があります。
- ワイヤレスディスプレイ部を縦向きにしても、本体部のWebカメラの映像の向きは変わりません。

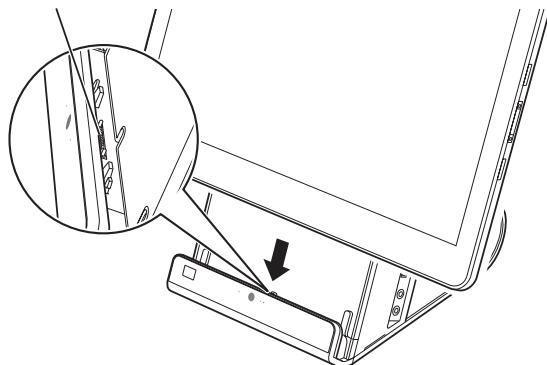
■ワイヤレスディスプレイ部を取り付ける／取り外す

ワイヤレスディスプレイ部を本体部に取り付ける場合は、次のようにします。

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタと、ワイヤレスディスプレイ部の本体接続コネクタ（→ P.17）の位置を合わせて、ワイヤレスディスプレイ部をまっすぐ下ろし、しっかりと取り付けます。

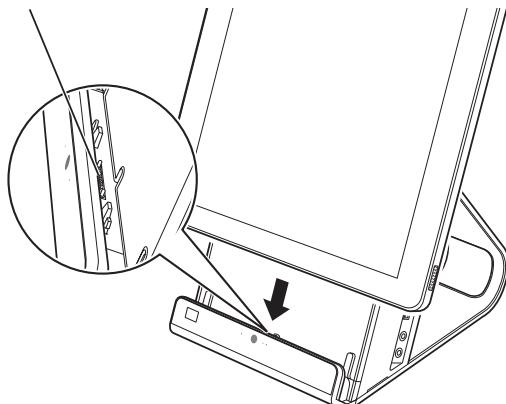
●横置きの場合

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタ



●縦置きの場合

ワイヤレスディスプレイ接続コネクタ



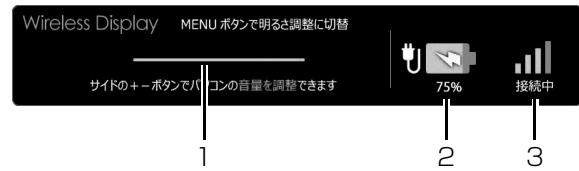
Point

- 添付のスタンドに立てかける場合は、「便利な機能のご紹介」（→ P.37）をご覧ください。

ワイヤレスディスプレイ部を本体部から取り外す場合は、本体部を押さえながら、本体部に沿ってワイヤレスディスプレイ部を持ち上げます。

■ワイヤレスディスプレイ部の状態を表示する

ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを押すと、ワイヤレスディスプレイ部の状態が次のように表示されます。



1 画面の明るさ

ワイヤレスディスプレイ部の画面の明るさが表示されます。画面の明るさの調節方法について、詳しくは「画面の明るさ」（→ P.62）をご覧ください。

2 バッテリ残量と充電状態

ワイヤレスディスプレイ部のバッテリの残量と充電の状態が表示されます。

充電中は が表示されます。

3 本体部との接続状態

ワイヤレスディスプレイ部と本体部との接続状態が表示されます。

■バッテリ

ワイヤレスディスプレイ部は、本体部から取り外したときに、AC アダプタを使わずにバッテリのみで動作させることができます。

重要

- バッテリのみで使用する場合は、バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。

□バッテリの充電

- ワイヤレスディスプレイ部を本体部に接続すると、バッテリの充電を開始します。また、別売のワイヤレスディスプレイ部用 AC アダプタを使用して充電することもできます。
- バッテリ残量が 90% 以上のときに本体部や AC アダプタに接続しても充電は始まりません。バッテリ残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

□充電状態や残量の確認

状態表示ランプで、次の状態を確認できます。

- ・バッテリの充電状態や残量
- ・ワイヤレスディスプレイ部の電源の状態

●本体部または別売のACアダプタ接続時

状態表示ランプ の状態	状態
白色点灯	画面オン [注]
オレンジ色点灯	画面オフでバッテリ充電中
青色点灯	画面オフでバッテリ充電完了

注：液晶ディスプレイのバックライトが点灯しているときを指します。画面に何も表示されていなくてもバックライトが点灯している場合、状態表示ランプは白色点灯します。画面オンのときにバッテリ残量または充電状態を確認したい場合は、ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを押して、状態表示画面を表示させてください（→P.47）。

●本体部または別売のACアダプタ未接続時

状態表示ランプ の状態	状態
白色点灯	画面オン [注]
消灯	・画面オフでバッテリ残量が100～51% ・バッテリ残量がゼロ
オレンジ色点灯	画面オフでバッテリ残量が50～13%
赤色点灯	画面オフでバッテリ残量が12～1%

注：液晶ディスプレイのバックライトが点灯しているときを指します。画面に何も表示されていなくてもバックライトが点灯している場合、状態表示ランプは白色点灯します。画面オンのときにバッテリ残量を確認したい場合は、ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを押して、状態表示画面を表示させてください（→P.47）。

- ・次の場合、状態表示ランプがオレンジ色点滅します。
 - ・内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなった場合
 - ・冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止している場合
- 内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、オレンジ色点灯になり充電を再開します。

・状態表示ランプが短い間隔で赤色点滅する場合は、バッテリが正しく充電できないことを示しています。本体部に正しくセットされているか確認してください。また、別売のワイヤレスディスプレイ部用ACアダプタをお使いの場合には、ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。それでも解消されない場合はバッテリが異常です。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に内蔵バッテリパックの交換を依頼してください（→P.109）。

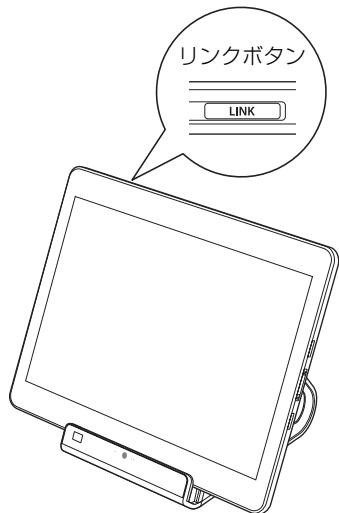
- ・表示されるバッテリの残量は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により実際のバッテリの残量とは異なる場合があります。
- ・バッテリの状態はSystem Utilityの設定画面で確認することもできます（→P.80）。

■ワイヤレスディスプレイ部を本体部に再認識させる

通常お使いの場合は、本体部の電源を入れると、ワイヤレスディスプレイ部は自動的に認識されます。ただし、通常の操作で画面が表示されないなど、ワイヤレスディスプレイ部が正しく動作しないと思われる場合は、ワイヤレスディスプレイ部を本体部に再認識させて、正常に動作するようにしてください。

- 1 本体部の電源が入っていることを確認します。
- 2 ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。ワイヤレスディスプレイ部は横向けに取り付けてください。
- 3 ワイヤレスディスプレイ部の画面に「圈外」と表示されることを確認します。

- 4 ワイヤレスディスプレイ部のリンクボタンを4秒以上押します。



スタンド

添付のスタンドに、ワイヤレスディスプレイ部を立てかけて、お使いになることもできます。

詳しくは、「便利な機能のご紹介」(→ P.37) をご覧ください。

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス

このパソコンに添付のワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスをお使いになるときの注意事項や、電池の交換方法について説明します。

使用に適した配置

このパソコンに添付されているキーボードやマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。

信号を受けるキーボード／マウスアンテナは、本体部に搭載されています。

キーボードおよびマウスは、次のような場所でお使いください。

- 机の上など平らで安定した場所
- 本体部と同じくらいの高さで、操作に充分なスペースがとれる場所
- 本体部が見える範囲で最大約10m(約3m以内を推奨)の範囲
(ただし、設置環境や条件によって、使用範囲内でもうまく動かない場合があります。)

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスをお使いになるうえでの注意

このパソコンに添付されているキーボードとマウスを使うときの注意事項について説明します。

●次のような環境では、周囲からの電波を受けて、キーボードやマウスがうまく動作しないことがあります。設置場所を変えるなど、通信の妨げとなる原因を取り除いてください。

- ・キーボードやマウスと本体部との距離が離れすぎている場合
- ・本体部とキーボードやマウスとの間に、電気・電子機器や金属製のものを置いている場合
- ・本体部をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に載せている場合
- ・周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している場合
- ・本体部周辺に金属製の物（スチール製の机、金属部分がある机）がある場合

- ・周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある場合
(パソコンを複数台でお使いの場合や、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合、または無線局の近隣でお使いの場合など)
 - ・本体部を電子レンジの近くに置いている場合
 - ・ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスを使用したパソコンを近くで使用している場合
- キーボードは、電池の消耗を抑えるため、キーを押さない状態が約10分続くと、スリープモードになります。スリープモードから復帰するとき、最初に押したキーが無効になることがあります。これは故障ではありません。もう一度、最初に押したキーを押してください。

- マウスは、電池の消耗を抑えるため、動かさない状態が約10分続くと、スリープモードになります。スリープモードから復帰すると、ステータスランプが約10秒間緑色に点灯します。

●1.5Vのアルカリ乾電池、または充電式ニッケル水素電池をお使いください。

- ・マンガン乾電池などは、お使いにならないでください。充分な機能・性能で動作しない場合があります。また、電池寿命が極端に短くなったりします。また故障の原因となる場合があります。
- ・充電式ニッケル水素電池をお使いになる場合は、電池に添付されているマニュアルをご覧になり正しくご使用ください。

●ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。

すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい電池に交換してください。

●新しい電池を使用した場合、電池の寿命の目安は、1日3.5時間の使用で、キーボードは約6ヶ月、マウスは約3ヶ月です。

ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。特にマウスの電池の寿命は、お使いの状況によって大幅に変わります。

●パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。

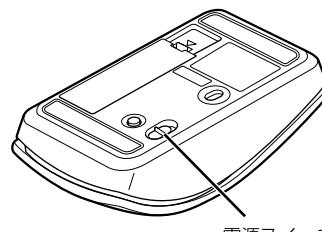
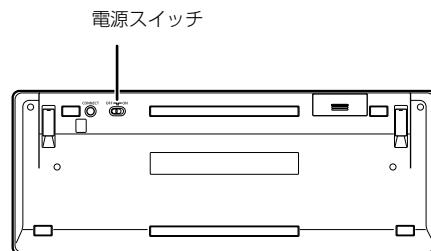
本体部の電源が入っていないなくても、キーボードやマウスが動作していると電池が消費されます。また、キーボードやマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。

●長期間使用しないときは、電池を取り出してください。

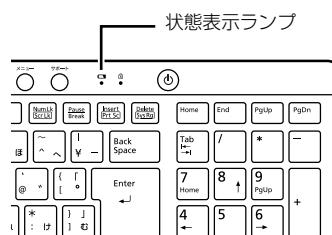
キーボードやマウスは、使用せずに放置しても、電池は消耗します。長期間使用しないときは、電池を取り出してください。

●電池の消耗を抑えるためには

キーボードやマウスを使用しないときは、電源スイッチをOFF側にして電源を切っておくことをお勧めします。



●電池の消耗状態は、状態表示ランプまたはステータスランプをご覧ください。ランプが赤色に点滅した場合はお早めに新しい電池に交換してください（表示は目安です）。



●このパソコンに添付のマウスは、底面からのレーザーにより照らし出されている陰影を検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使うことができます。添付のマウスをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

- ・マウス底面から眼に見えないレーザー光を発しています。直接眼に向けると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ・センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- ・発光部分を他の用途に使わないでください。
- ・次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ・非接触でマウスの動きを検知しているため特にマウスパッドを必要としませんが、マウス本体は接觸しているため、傷が付きやすい机やテーブルの上では、傷防止のためにマウスパッドなどを使うことをお勧めします。

マウスの使い方

ここでは、ご購入時に添付されているマウスの使い方について説明します。

Point

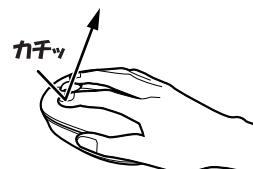
▶ マウスの設定について

マウスの設定は次の手順で表示する設定画面で変更できます。ただし、設定項目によっては設定が反映されない場合があります。

1. 画面左下隅の□を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックし、「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
※ スタート画面ではマウスピントナーを左下隅に合わせると□が表示されます。
 2. 「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックします。
- ▶ スクロール機能やホイールを左右に倒したときの機能は、使用するアプリによって動作が異なったり、お使いになれないことがあります。
 - ▶ スクロールホイールを押したときの動作はお使いの状況により異なります。

■クリック

左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



(イラストは機種や状況により異なります)

■ダブルクリック

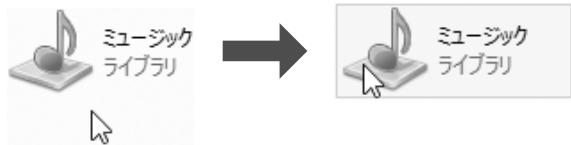
左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。



(イラストは機種や状況により異なります)

■ポイント

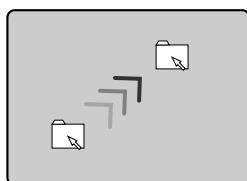
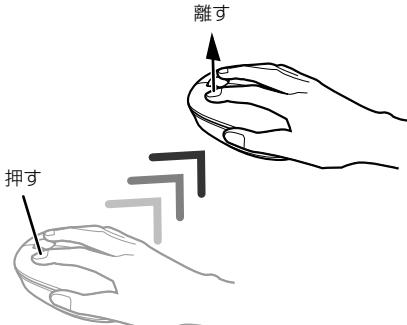
マウスポインター(⇨)をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



■ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター(⇨)で掴むようにして移動させることです。

マウスポインター(⇨)を任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置までマウスを移動し、指を離します。



(イラストは機種や状況により異なります)

■スクロール

スクロールホイールを回して、画面の表示を動かすことです。



■スクロールホイールを左右に倒す

「チャームを表示する」や「アプリを切り替える」と同じ動作をします。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

チャームを表示する



Point

- スクロールホイールを左右に倒したときの動作を変更することもできます(→P.83)。

電池を交換する

△ 注意

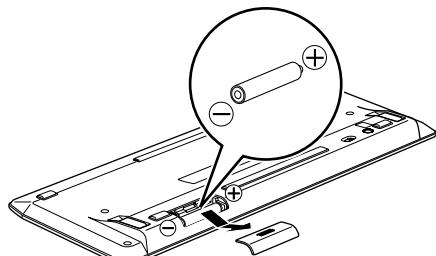
- 電池ボックスに金属物を入れたり、落としたりしないでください。
故障の原因となることがあります。
- 使い切って寿命のなくなった電池はすぐに取り出してください。電池の液もれなどの原因となることがあります。
- 使用済み乾電池を充電して使用しないでください。
液もれ、破裂の原因になります。

- キーボードまたはマウスを裏返して電池ボックスのふたを開け、電池を取り出した後、新しい電池を入れます。

電池を入れるときには、キーボードのキーやマウスのボタンを押さないように注意してください。
正常に動作しなくなる場合があります。

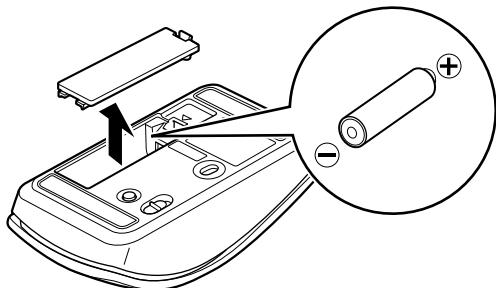
■ワイヤレスキーボード

単3形電池(1本)



■ワイヤレスマウス

単3形電池（1本）



電池を入れたときに、キーボードの場合は状態表示ランプ、マウスの場合はステータスランプが約10秒間緑色に点灯します。

2 電池ボックスのふたを閉めます。

Point

- ▶ 電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

キーボードやマウスをパソコンに再認識させる

通常お使いの場合は、キーボードやマウスをパソコンに一度認識させれば、再認識させる必要はありません。ただし、次のような場合は、キーボードやマウスを再度パソコンに認識させて、正常に動作するようにしてください。

- キーボードやマウスが正しく動作しない場合
 - 近くで使っているパソコンのキーボードやマウスによって、このパソコンが誤動作する場合
 - 2台以上のパソコンを使用している場合
- ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスは、電波の混信や誤動作を避けるため、パソコンと1対1で設定する必要があります。

重要

▶ パソコンに再認識させるときの注意

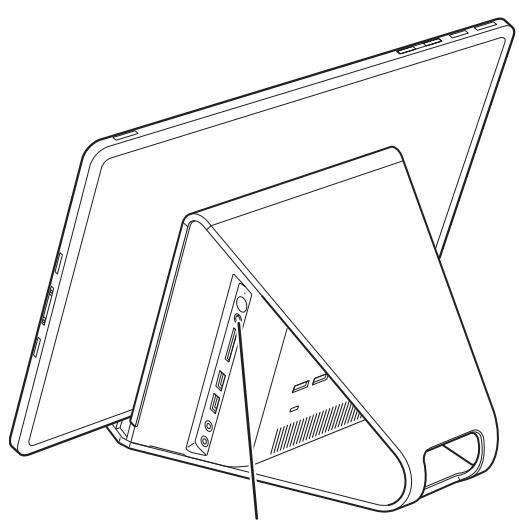
- ・再認識させる前に、キーボードとマウスを本体部に近づけて正しく動作するか確認してください。正しく動作する場合は再認識させる必要はありません。
 - ・パソコンを設置している環境を確認してください。
 - ・キーボードとマウスの両方とも再認識させてください。
- ▶ ACアダプタが正しく接続されていないときは、パソコンにキーボードやマウスを認識させることができません。ACアダプタがパソコンに接続されていること、および電源プラグがコンセントに接続されていることを確認してください。

Point

- ▶ 電池の交換などで電池を取り出した場合は、キーボードやマウスがパソコンに認識された状態になっています。再認識させる必要はありません。

■キーボードをパソコンに再認識させる

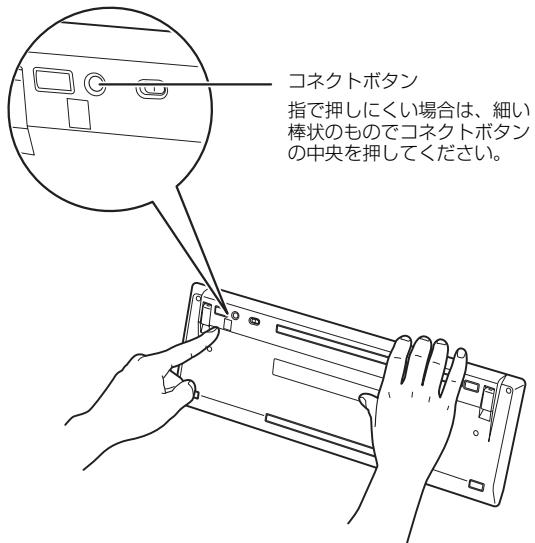
- 1 本体部のコネクトボタンを約1秒間押します。
コネクトボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度コネクトボタンを押してください。



コネクトボタン

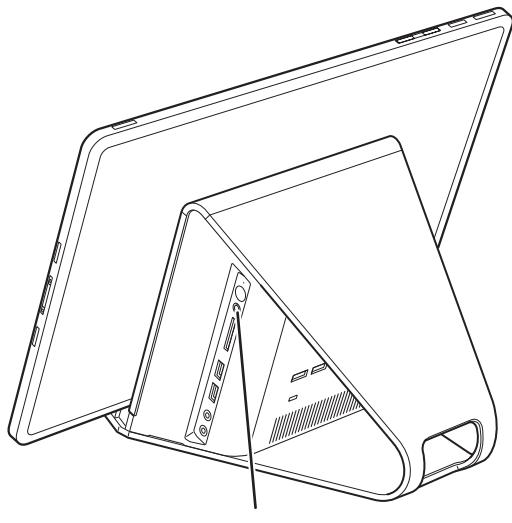
(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

- 2 キーボード底面のコネクトボタンを指で1回押し、すぐに離します。**
コネクトボタンを押すときは、キーボードのキーなどを押さないようにしてください。



■マウスをパソコンに再認識させる

- 1 本体部のコネクトボタンを約1秒間押します。**
コネクトボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度コネクトボタンを押してください。

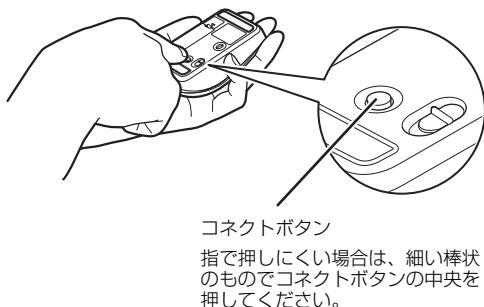


状態表示ランプが点滅から点灯に変わり、約2秒後に消灯します。

点灯に変わらない場合は、いったん電池を出し入れし、もう一度手順1から操作してください。

これでキーボードがパソコンに認識されました。続いて、マウスをパソコンに認識させましょう。

- 2 マウス底面のコネクトボタンを指で1回押し、すぐに離します。**
コネクトボタンを押すときは、左ボタンなどマウスの他のボタンを押さないようにしてください。



ステータスランプが点滅から点灯に変わり、約2秒後に消灯します。

点灯に変わらない場合は、いったん電池を出し入れし、もう一度手順1から操作してください。

これでマウスがパソコンに認識されました。

Windows をスタートする／終了する

Windows をスタートする

⚠ 注意

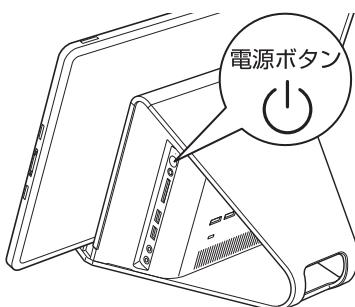
- 🚫 • 落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。
雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
- ❗ • AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

重要

- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、キーボードやマウスなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

1 本体部の電源ボタンを押します。

電源ボタンを 4 秒以上押すと、パソコンの電源が強制的に切れてしまします。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。



電源ボタンを押すときは、ワイヤレスディスプレイ部を傾けたり外したりしないでください。

電源ランプが白色に点灯し、ロック画面が表示されます。

2 [Enter] を押します。

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 パスワードを入力し、➡ をクリックします。

Windows が使える状態になります。

Point

▶ 次の操作で Windows をスタートすることもできます。

- ・ ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押す
- ・ ワイヤレスキー ボードのパソコン電源ボタンを押す

▶ ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンで Windows をスタートする場合は、System Utility の「ワイヤレスディスプレイからパソコン本体を起動」を「ON」に設定してください(→ P.80)。

▶ 手順3で入力するパスワードは、Windows のセットアップのときに入力したパスワードです。パスワードについて、詳しくは「アプリ画面」の「ヘルプとサポート」をクリックして Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して表示される内容をご覧ください。

「アプリ画面」の表示方法は、『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』をご覧ください。

▶ Windows がスタートしないときは、「起動・終了時のトラブル」(→ P.100) をご覧ください。

▶ 「Windows のライセンス認証」の青い画面が表示されたときは、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「Windows・アプリ関連のトラブル」をご覧ください。

重要

- ▶ Windowsを終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、CD/DVD ドライブにディスクが入っている場合は取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切る」(→ P.168) をご覧になり、電源を切ってください。
 - ・トラブル解決ナビを起動する
 - ・BIOS セットアップを起動する
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

- 1 スタート画面を表示させた後、スタート画面の右上にある  をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「シャットダウン」をクリックします。
しばらくすると Windows が終了します。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、「起動・終了時のトラブル」(→ P.100) をご覧ください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから AC アダプタを取り外してください。
 - ・AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類を巻きつけたりしないでください。

スリープにする／復帰させる

スリープとは、Windows を終了せずにパソコンを待機状態にすることです。

スリープにしておくと、次にパソコンを使うときすぐに使い始めることができます。

Point

- ▶ ご購入時は「スリープ（ハイブリッドスリープが有効）」に設定されています。この状態では、スリープにすると、作業中のデータなどをメモリとハードディスクに保存して、パソコンを待機状態にします。

スリープにするときの注意

次の場合は、いったんパソコンの電源を切り、電源を入れ直してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

Point

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しづつ電力を消費しています。
- ▶ Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

スリープにする

- 1 スタート画面を表示させた後、スタート画面の右上にある  をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「スリープ」をクリックします。
ディスプレイの表示が消えスリープになります。

スリープから復帰する

- 1 本体部の電源ボタン (↓) を押します。
ロック画面が表示されます。
電源ボタンは 4 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。
- 2 [Enter] を押します。
パスワードを入力する画面が表示されます。
- 3 パスワードを入力し、→ をクリックします。

Point

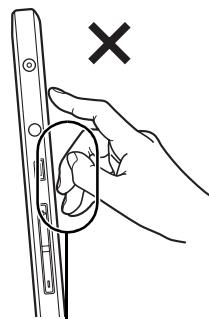
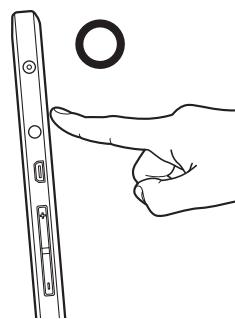
- ▶ スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。
- ▶ 復帰（レジューム）させた後は、必ず 10 秒以上たってから、スリープにするようにしてください。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープからレジュームさせると、Windows の仕様により、画面が表示されない場合があります。
画面が表示されない場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。
- ▶ レジューム後、画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープになります。
- ▶ 次の操作でスリープから復帰することもできます。
 - ・ ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押す
 - ・ ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを押す
- ▶ ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンで復帰する場合は、System Utility の「ワイヤレスディスプレイからパソコン本体を起動」を「ON」に設定してください (→ P.80)。

タッチ機能

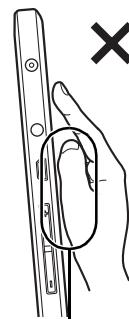
このパソコンは、液晶ディスプレイを直接指先でタッチして操作できるタッチ機能（タッチパネル）を搭載しています。画面を指でタッチするだけで操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

タッチ機能をお使いになるうえでの注意事項

- 液晶ディスプレイを強く押さないでください。
- 液晶ディスプレイ表面をひっかいたり、金属製のものや固いもので突いたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。
- 指のはらでタッチしたり、タッチしない指や手のひらをディスプレイに近づけすぎたりしないでください。タッチした位置が正しく認識されないことがあります。



タッチしない指がディスプレイに触れていたり近づいていたりする



タッチしない指や手のひらがディスプレイに近づいている

(イラストは機種や状況により異なります)

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。液晶ディスプレイは、ときどき清掃してください（→P.74）。
- 状態表示画面（→P.47）の  のアンテナが〇本の状態になると、状態表示画面が自動的に表示されます。この状態では、画面の表示が乱れたり、タッチ操作の反応が悪くなったりしますので、早めに本体部に近づけてください。
- スタンドに立てかけているときは、タッチパネルを操作しないでください。
ワイヤレスディスプレイ部が倒れて、けがや故障の原因になることがあります。

Point

▶「タブレットPC設定」ウィンドウの「画面」タブにある「調整」をクリックして表示される画面で、タッチする位置を調整しないでください。調整してしまった場合は、ご購入時の設定に戻してください。ご購入時の設定に戻す方法は、次のとおりです。

1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
※ スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
2. 「ハードウェアとサウンド」▶「タブレットPC設定」の順にクリックします。
「タブレットPC設定」ウィンドウが表示されます。
3. 「画面」タブで、「リセット」をクリックします。
ご購入時の設定に戻ります。

▶このパソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチして操作することができます。

タッチ機能を使う

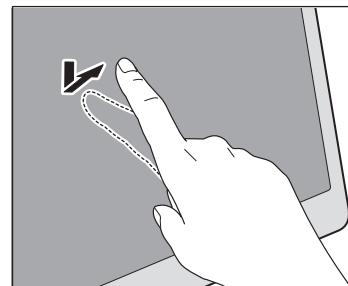
画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）をする場合は、指で操作します。

マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

タッチ機能を使った主な操作は次のとおりです。

■タップ

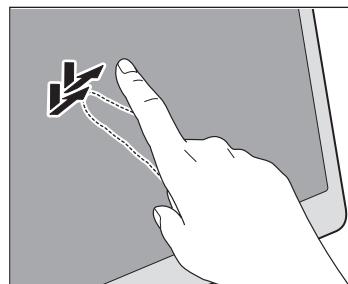
画面を1回軽くたたきます。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

■ダブルタップ

画面を2回連続して軽くたたきます。

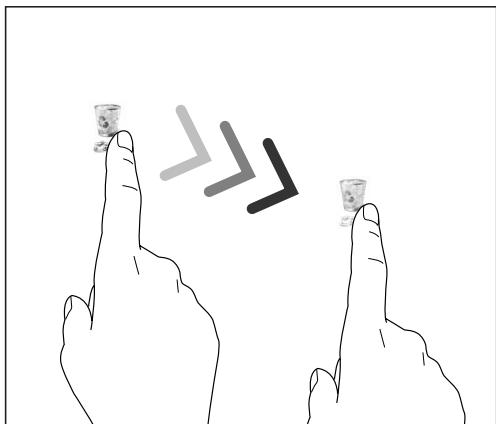


■右タップ

1本指で画面を触れた状態でしばらく待ち、四角い枠が表示されたら画面から指を離します。

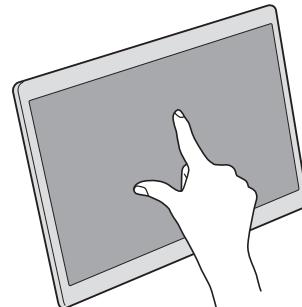
■ ドラッグ

画面に指を軽く押しつけながらなぞります。

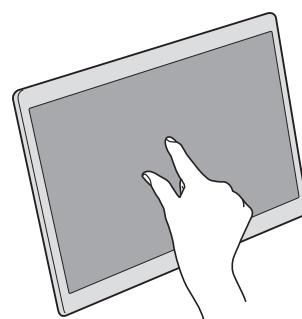


■拡大／縮小

2本指を画面に軽く押しつけながら指をひらいたりつまんだりします。ひらくと画像やウィンドウ内の画面が拡大表示され、つまむと縮小表示されます。



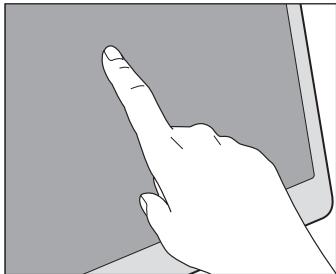
画面の様子



画面の様子

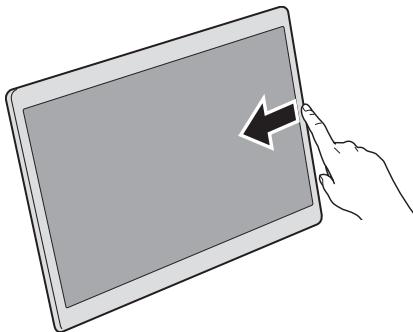
■ポイント

画面に軽く触れます。



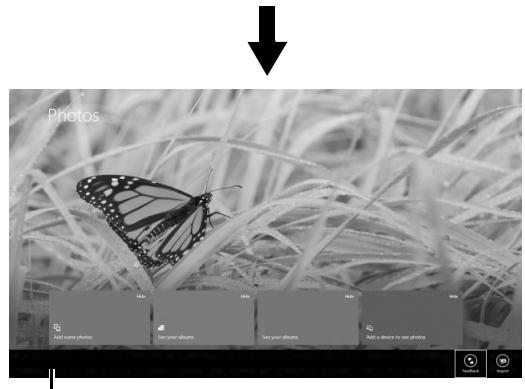
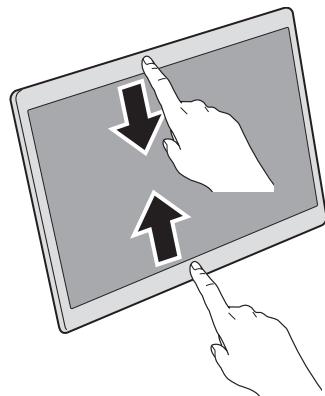
■「チャーム」を表示する

1本指を画面右端の外から中へスワイプすると「チャーム」が表示されます。



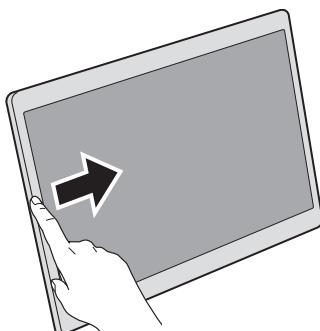
■「アプリバー」を表示する

1本指を画面上端または下端の外から中へスワイプすると「アプリバー」が表示されます。



■アプリを切り替える

1本指を画面左端の外から中へスワイプすると起動中のアプリが切り替わります。



音量

次の方法で音量を調節できます。

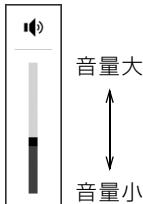
重要

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調節してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

画面上で調節する

●音量を調節する

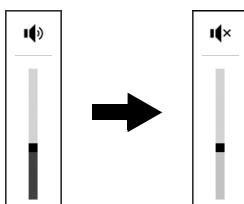
- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 (設定) をタップします。
- 3 をタップします。
- 4 スライダーを上下に動かします。



(イラストは機種や状況により異なります)

●音を消す

- 1 画面右端の外から中へスワイプし、「チャーム」を表示します。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 (設定) をタップします。
- 3 をタップします。
- 4 スライダーの上にある をタップします。



(イラストは機種や状況により異なります)

もう一度タップすると音が出るようになります。

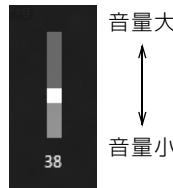
■キーボードで調節する

●音量を大きくする

音量調節ボタン (+) を押します。

●音量を小さくする

音量調節ボタン (-) を押します。



(イラストは機種や状況により異なります)

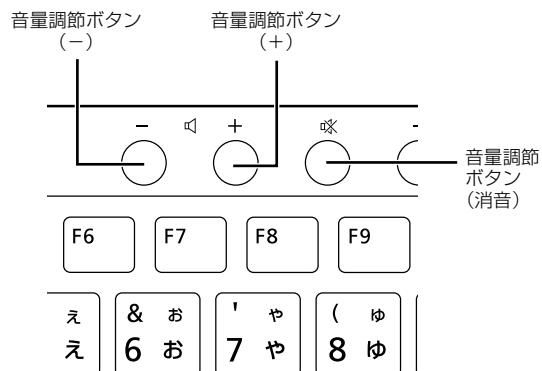
●音を消す

音量調節ボタン (消音) を押します。

もう一度押すと、音が出るようになります。



(イラストは機種や状況により異なります)



(イラストは機種や状況により異なります)

Point

- ▶ 次の方法でも音量を調節できます。

・ワイヤレスディスプレイ部の音量調節ボタン
(→ P.17)

音量調節ボタンの「-」を押すと小さく、「+」を押すと大きくなります。

・デスクトップ画面右下の通知領域にある (スピーカー) をクリックして表示されるウィンドウ

画面の明るさ

次の方法で画面の明るさを調節できます。

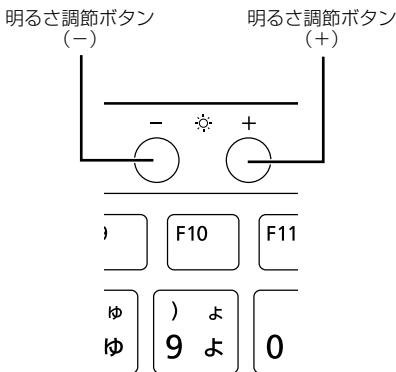
■キーボードで調節する

●明るくする

明るさ調節ボタン (+) を押します。

●暗くする

明るさ調節ボタン (-) を押します。



Point

▶ 明るさ調節ボタンの操作中は、音量を調節するときのようなインジケーターは表示されません。ボタン操作にあわせて画面の明るさが変化しますので、お好みの明るさに調節してください。ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを2回押すと、画面の明るさをインジケーターで確認できます(→P.47)。

▶ 次の方法でも画面の明るさを調節できます。

- ・ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンと音量調節ボタン(→P.17) メニューボタンを2回押した後、音量調節ボタンの「-」を押すと暗く、「+」を押すと明るくなります。

▶ 明るさの設定について

- ・パソコンを再起動したり、スリープから復帰(レジューム)した直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。
- ・ワイヤレスディスプレイ部のメニューボタンを2秒程度長押しすると、周囲の明るさを検知して、画面の明るさを自動的に調節する機能がオンになります。このとき、画面の明るさが暗くなったように感じることがあります。故障ではありません。
画面の明るさを自動的に調節する機能をオフにしたいときは、メニューボタンを短く2回押した後、音量調節ボタンを使って、お好みの明るさに調節してください。

CD/DVD ドライブ

このパソコンでは、CD や DVD、Blu-ray Disc などのディスクの再生や読み出し／書き込みを行うことができます。

著作物の録音や複製に関する注意

- 音楽や画像などの著作物は、著作権法で保護されています。録音・複製（データ形式の変換を含む）などは、お客様個人またはご家庭内で楽しむ目的でのみ、行うことができます。音楽や画像をネットワーク上で配信するなど、上記目的を超える場合は、著作権者の許諾が必要です。
- 著作権を保護されたディスクはコピーできません。ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。このパソコンでは、著作権保護として、デスクランプル機能および相互認証機能が用意されています。著作権を保護されたデータなどをコピーしても、再生できません。

ディスクをお使いになるうえでの注意

- ディスクの再生中や書き込み／書き換え中は、振動や衝撃を与えないでください。
- ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触らないようにしてください。
- ディスクは両面とも指紋やほこり、傷などを付けないでください。
- ディスクは両面ともラベルを貼らないでください。
- ディスクの表面にボールペンや鉛筆などの硬いもので字を書くと、ディスクに傷が付くおそれがあります。
- 汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
このとき、次の点に注意してください。
 - ・ シリコンクロスは使用しないでください。
 - ・ ヘアードライヤーなどで乾燥させたり、自然乾燥をさせたりしないでください。
 - ・ ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
- 使わないときは、ケースに入れて保管してください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 高温・低温の場所に保管しないでください。

ディスクを再生するうえでの注意

- ディスクの再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。
- デジタル放送を録画したDVDを初めて「WinDVD」で再生するときは、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。必ず「はい」をクリックしてください。
- ディスクによっては、正常に再生されない場合や、「WinDVD」の一部の機能が使用できない場合があります。
- 再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- 各ボタンを操作する間隔は、1秒以上あけてください。
- 再生するディスクによっては、コマ落ちする場合があります。
- ディスクを再生する前に、他のアプリは終了させてください。
- ディスクをパソコンに接続されたデジタルテレビでご覧になる場合、お使いのデジタルテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。
- 著作権保護されたコンテンツ（一般的な市販の Blu-ray Disc のタイトルや Blu-ray Disc に録画したデジタル放送、AVCREC 形式で DVD に録画したデジタル放送など）は、アナログディスプレイでは再生できません。

■「WinDVD」の更新をする

このパソコンには、ディスクを再生するアプリ「WinDVD」が用意されています。「WinDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。

「WinDVD」を更新するには、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「ダウンロード」からアップデートプログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。

インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

■AACS キーの更新をする

Blu-ray Disc には、著作権保護技術のキーが働いています。

AACS キーは常に最新の状態に更新してお使いください。

更新方法については、下記の URL をご覧ください。

<http://www.fmworld.net/aacs/lifebook/>

ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意

- ディスクに書き込み／書き換えを行うときは、30℃以上の環境を避けてください。ディスクの書き込み／書き換えが正常に行われないことがあります。
- 書き込み／書き換え中にディスク面に傷を検出した場合、書き込み／書き換えが中止されることがあります。
- ディスクへ正常に書き込み／書き換えができる場合は、書き込み／書き換え速度を落とすことで、できる場合があります。
- DVD プレーヤーで映像を見る目的で、DVD に書き込みをする場合、画像の解像度は 720 × 480 に設定することをお勧めします。
その他の解像度で作成されたファイルを DVD に保存すると、一部の DVD プレーヤーで再生できない場合があります。
- 「Roxio Creator」では DVD-RAM への書き込み／書き換えは行えません。

■書き込み／書き換えを行う前に

ディスクに、書き込み／書き換えを行う前に、次の操作をしてください。

- 他のアプリは終了させてください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にスリープや休止状態にならないように、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「なし」に設定してください。
設定の変更については、「スリープ／休止状態」(→ P.144) をご覧ください。

●ディスクに書き込み／書き換え中にディスプレイがスクリーンセーバーに移行しないように次の設定をしてください。

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
2. デスクトップ画面で何もないところを右クリックします。
3. 表示されるメニューから、「個人設定」をクリックします。
4. 「スクリーンセーバー」をクリックします。
5. 「スクリーンセーバー」の ▾ をクリックし、一覧から「(なし)」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。
7.  をクリックします。

■書き込み／書き換え中にしてはいけない操作

ディスクに書き込み／書き換え中は、次の操作を行わないでください。

書き込み／書き換えに失敗する場合や、時間がかかる場合があります。

- Windows を終了する
- パソコンの電源を切る
- パソコンをスリープや休止状態にする
- 電源ボタンを押す
- CD/DVD 取り出しボタンを押す
-  と  を押しながら  を押す
- ディスクを操作するボタンを押す
- 他のアプリを起動または操作する
- LAN などによるデータ転送をする

■一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは

一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- パケットライト方式でデータが書き込まれたディスクは、このパソコンでは読み込むことはできません。これらのディスクの読み出しや書き込みを行う方法については、ディスクを作成するときに使用したアプリのマニュアルをご覧ください。
- 一度フォーマットや書き込みをした後は、同じアプリを使って書き換え、追記を行ってください。

●DVD+RW や DVD-RW、CD-RW、BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL に保存したファイルは、そのまま編集や更新をすることはできません。編集や更新をする場合は、次の手順で操作してください。

1. デスクトップ画面でハードディスクにファイルをコピーします。
2. ファイルが読み取り専用になっていたら、「読み取り専用」の属性を外します。
「読み取り専用」の属性を外すには、対象のファイルを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
プロパティウィンドウで「全般」タブをクリックし、「読み取り専用」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
3. ファイルの編集や更新をし、再度ディスクへ書き込みを行います。

●このパソコンで書き込みをしたディスクは、別のパソコンやアプリで利用できない場合があります。

使えるディスク／使えないディスク

■使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。



- ▶ お使いになるアプリによって使えるディスクは異なります。ディスクをお使いになるアプリのヘルプをご覧になり、確認してください。

○：対応 ×：非対応

	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD、フォト CD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○[注1]	○[注1]
DVD-Audio	×	×	×
DVD-ROM、DVD-VIDEO	○[注2]	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○	×
DVD-RW	○	○[注1]	○[注1]
DVD-R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD+R (4.7GB)	○	○	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○[注1]	○[注1]
DVD+R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD-RAM (2.6GB・5.2GB)	×	×	×

	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
DVD-RAM (4.7GB・9.4GB)	○	○[注3]	○[注3]
BD-ROM	○[注4]	×	×
BD-R (25GB)	○	○	×
BD-R DL (50GB)	○	○	×
BD-RE (25GB) [注5]	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]
BD-RE DL (50GB) [注5]	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]
BD-R LTH TYPE	○	○	×
BD-R XL (100GB)	○	○	×
BD-RE XL (100GB)	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]	○ [注1] [注3]

注 1 次のディスクに書き込んだデータを削除するには、データをすべて消去する必要があります。

- ・ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータ
- ・ BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL にライティングアプリで書き込んだデータ

注 2 DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに [2] が含まれているか、もしくは [ALL] のものを再生できます。

注 3 購入した DVD-RAM や、Blu-ray Disc (BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL) を使い始めるには、フォーマットを行う必要があります。ディスクのフォーマットについては、「ディスクをフォーマットする」(→ P.68) をご覧ください。

注 4 Blu-ray Disc は、リージョン（地域）コードに [A] が含まれているか、もしくは [FREE] のものを再生できます。

注 5 BD-RE Ver1.0 には対応しておりません。

■推奨ディスク

次のディスクの使用をお勧めします。

次の表に記載のないディスクをお使いになると、書き込み／書き換えるが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

(2015年1月現在)

	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY10SV、 CDR80WPY10BV
CD-RW	Verbatim (バーベイタム)	SW80QU5V1、 SW80QM5V1、 SW80QP5V1、 SW80EU5V1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTY50BNT、 DR-47WWY10SNT、 DR-47WWY50BN、 DVD-R47XY10P
	Verbatim (バーベイタム)	DHR47J10V1、 DHR47JM10V1、 DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim (バーベイタム)	DHR85HP5V1、 DHR85HP10V1、 DHR85HP10SV1
DVD-RW	Verbatim (バーベイタム)	DHW47Y10V1
DVD+R	ソニー	10DPR47HPSH
DVD+R DL	Verbatim (バーベイタム)	DTR85HP5V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47L (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HC47LW5 (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HB94L (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)
BD-R	パナソニック	LM-BR25LDH5 (25GB)、 LM-BR25LDH10 (25GB)、 LM-BR25MDH5 (25GB)
BD-R DL	パナソニック	LM-BR50LDH5 (50GB)、 LM-BR50MDH (50GB)
BD-RE	パナソニック	LM-BE25DH5A (25GB)
BD-RE DL	パナソニック	LM-BE50DHA (50GB)、 LM-BE50DH5A (50GB)

■使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）

このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。

円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。

異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 8cmディスク

- 規格外の厚さのDVD媒体

DVD規格では媒体の厚さを1.14mm～1.5mmと規定しています。

記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。

規格外のDVD媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 規格外の厚さのBlu-ray媒体

規格では媒体の厚さを1.15mm～1.3mmと規定しています。

記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。

規格外のBlu-ray媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。

- 中心に穴のあいていないディスク

- 傷またはヒビの入ったディスク、ゆがんだディスクおよび重心の偏ったディスク

お使いになると、ドライブ内部で破損する場合がありますので、お使いにならないでください。

- カートリッジに入れた状態で使用するタイプのDVD-RAM (Type1)

DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプのDVD-RAMを、カートリッジから無理に取り出してお使いにならないでください。

- BD-RE Ver1.0規格のBlu-ray Disc

- 市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー
- お手入れのときにお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVDドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

⚠ 注意



- ディスクをセットまたは取り出す場合は、CD/DVD ドライブのスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ディスクをセットする

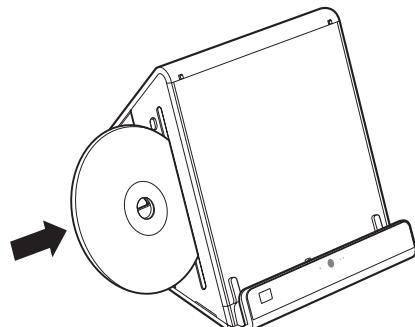
重要

- ▶ ディスクをセットするときの注意
 - ・ ディスク読み取りヘッドが移動する音があります。
- ▶ ディスク使用時の注意
ディスクはデータの読み出しをするときに高速回転するため、使用時には振動や風切音があります。
- ▶ ディスクをセットするときは、ディスクを水平にしてスロットにまっすぐに差し込んでください。ディスクがスロットにまっすぐに入らないと、ディスクに傷がついたり、パソコン本体が故障することがあります。

Point

- ▶ パソコンの電源が切っていても、ディスクのセットが可能です。

- 1 ディスクのラベル面を本体部前面側（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を本体部背面側）にして、ディスクが自動で挿入されるまで、ゆっくりとスロットに差し込みます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

ディスクをセットしてから、パソコンで使えるようになるまで、約 30 秒かかります。ディスクによっては、セットすると自動的に起動するものもあります。

Point

- ▶ Windows が終了した状態で Blu-ray Disc や DVD をセットすると自動で Windows が起動し、「WinDVD」でディスクが再生されます。この機能を使いになる場合は、自動サインイン設定でパスワードを設定する必要があります(→ P.82)。

■ディスクを取り出す

本体部の電源が入っている状態のときのみ取り出すことができます。

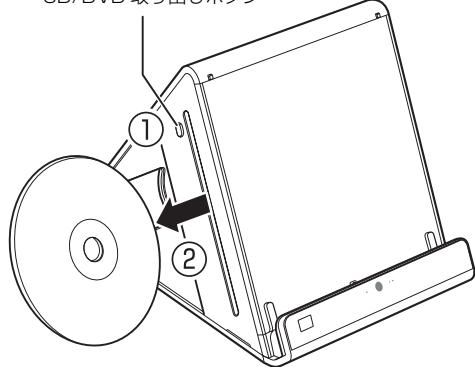
1 ディスクを利用しているアプリがあれば終了します。また、ディスク内のファイルを開いている場合はファイルを閉じてください。

2 ディスクを取り出します。

① CD/DVD 取り出しボタンを押すと、ディスクが少し飛び出します。②ディスクを静かに引き出します。

ディスクは、ディスクの中央の穴と端を指で持つて取り出すことをお勧めします。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。

CD/DVD 取り出しボタン



ディスクが取り出せなくなった場合は、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「CD/DVD のトラブル」をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

次のディスクはお使いになる前にこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

●DVD-RAM

●BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL

ここでは、特定のアプリを使用せずに、「PC」 ウィンドウから DVD-RAM などに直接データを書き込んで使用する場合のフォーマットの方法を説明します。

特定のアプリを使用して、データの書き込み、書き換えをする場合は、お使いになるアプリのマニュアルやヘルプをご覧になり、フォーマット形式を選択してください。

△ 注意



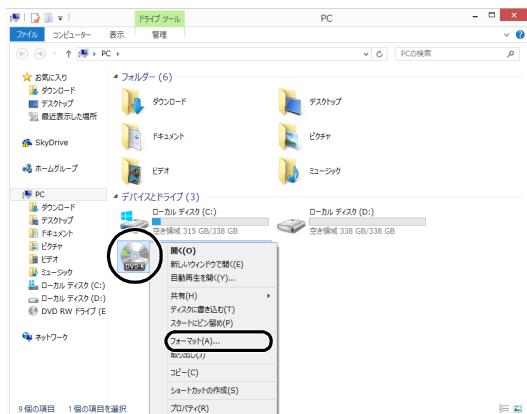
- DVD-RAM ディスクや Blu-ray Disc をセットまたは取り出すときに、CD/DVD ドライブのスロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

重要

- リカバリディスクセットを作成する場合は、Windows の機能でフォーマットをしないでください。ご利用方法は、「リカバリディスクセットを作成しておく」(→ P.165) をご覧ください。

- 1 フォーマットするディスクをセットします。
- 2 デスクトップ画面の (PC) をダブルクリックします。「PC」ウィンドウが表示されます。
- 3 ディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 4 「ファイルシステム」の ▾ をクリックして、フォーマット種別を選びます。



■DVD-RAM の場合

「UDF 2.00」を選びます。

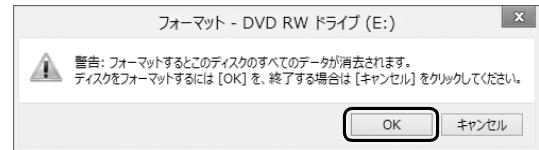
■Blu-ray Disc の場合

「UDF 2.50」を選びます。

Point

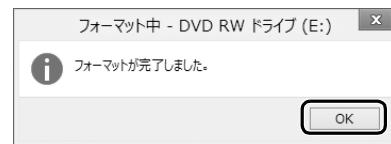
- ▶ 「ボリュームラベル」に入力した文字列がディスクの名前になります。ディスクに好きな名前を付けることができます。
- ▶ 「クイックフォーマット」の を にすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

- 5 「開始」をクリックします。
- 6 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



フォーマットが始まります。

- 7 「フォーマットが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。



- 8 「閉じる」をクリックします。

メモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

お使いになるうえでの注意

●メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

●次のメモリーカードをお使いになる場合はアダプターが必要です。

- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカード

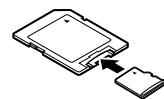
必ずアダプターに差し込んでからお使いください。そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。

また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごと取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

miniSD カードアダプター



miniSD カード

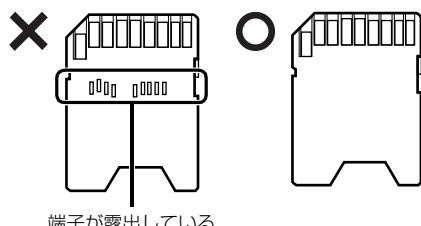


microSD カード
microSDHC カード
microSDXC カード

●端子が露出しているminiSDカードアダプターは使用できません。

ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。

miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



●Windows の ReadyBoost には対応していません。

●メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

●メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードと、その最大容量は次のとおりです。

ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

	<ul style="list-style-type: none">SD メモリーカード (2GB)miniSD カード (2GB)microSD カード (2GB)SDHC カード (32GB)microSDHC カード (32GB)SDXC カード (128GB)microSDXC カード (64GB)
--	--

注：・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
・SDIO カードには対応していません。
・著作権保護機能 (CPRM [シーピーアールエム]) に対応しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す

■メモリーカードを差し込む

⚠ 注意

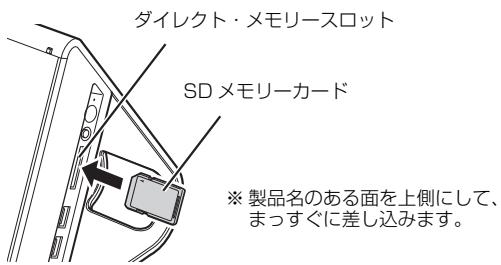


- メモリーカードを差し込む場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしてください。



(イラストは機種や状況により異なります)

メモリーカードは、少し飛び出た状態でセットされます。飛び出た部分に手や指をぶつけたり、引っかけたりしないように注意してください。

重要

- 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、エラーメッセージの表示に時間がかかることや、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されないことがあります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、差し込み直してください。

■メモリーカードを取り出す

⚠ 注意



- メモリーカードを取り出す場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

重要

- ダイレクト・メモリースロットからメモリーカードを取り出す場合は、次のことに注意してください。
 - メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりするおそれがあります。
 - メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
 - ダイレクト・メモリースロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出して、思わぬけがをするおそれがあります。
 - 必ずメモリーカードを一度押して、少し飛び出した状態にしてから引き抜くようにしてください。そのまま引き抜くと誤動作の原因になります。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) をクリックします。メモリーカードによっては、 (ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す) が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧になり、確認してください。

2 「nnn の取り出し」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。

⚠ 警告

- 周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならぬ場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。
- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

●周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください

●弊社純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただかず、富士通ショッピングサイト「WEB MART」(<http://www.fujitsu-webmart.com/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

●一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。

●コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください

●電源オフ USB 充電機能対応のUSBコネクタをお使いになる場合は、次のことに注意してください

- ・ USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタには接続できません。
- ・ 電源オフ USB 充電機能を有効にした場合、USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。

電源オフ USB 充電機能

電源オフ USB 充電機能とは

電源オフ USB 充電機能とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

電源オフ USB 充電機能は、ご購入時には無効に設定されています。

お使いになる場合は、機能を有効にしてください。詳しくは、サポートページから Q&A ナンバー「6708-5851」を検索してご覧ください。

また、お使いになるときは、次の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

電源オフ USB 充電機能をお使いになるうえでの注意

電源オフ USB 充電機能を有効にした場合、USB メモリなどの充電機能をもたない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続しないでください。

※ USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能の有効／無効にかかわらず、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタには接続できません。

※ 電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタ (●●□) の場所については、「各部の名称と働き」(→ P.38) をご覧ください。

●周辺機器によっては、電源オフ USB 充電ができない場合があります。

●スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。

なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。

- ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
- ・「自動再生」ウィンドウが表示される
- ・接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
- ・接続した USB 周辺機器と連携しているアプリが起動する

●本体部の電源ボタンやワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを 4 秒以上押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフ USB 充電はできません。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくため、日ごろのお手入れについて説明します。

⚠ 警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
 - ・プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。



- 清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体、キーボードやマウスのお手入れ

ワイヤレスディスプレイ部の画面のお手入れについては、「液晶ディスプレイのお手入れ」(→ P.74) をご覧ください。

●パソコン本体やマウスなどの汚れを取る場合

- ・爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- ・OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やマウスに水が入らないよう充分に注意してください。
- ・アセトン、シンナー、ベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、除光液、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
- ・ワイヤレスディスプレイ部の汚れを取る場合は、本体部から取り外してください。

- キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合
 - ・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

液晶ディスプレイのお手入れ

- OAクリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- 市販のクリーナー、除光液、化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・アセトン、シンナー、ベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。破損するおそれがあります。

CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVD ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくは、ディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

このパソコンには、次の機能が搭載されています。

これらの機能を使うと、パソコンをもっと便利に活用することができます。

- 「ハンドジェスチャー」(→ P.75)
- 「System Utility」(→ P.80)
- 「自動サインイン設定」(→ P.82)
- 「多機能マウス」(→ P.83)
- 「My Cloud」(→ P.85)
- 「F-LINK (ケータイ連携機能)」(→ P.87)
- 「Skype」(→ P.88)
- 「搭載されているアプリを使う (@メニュー)」(→ P.89)

ハンドジェスチャー

ハンドジェスチャーとは、搭載されている Web カメラに向かって手を動かすことで、パソコンに触れずに操作する機能です。

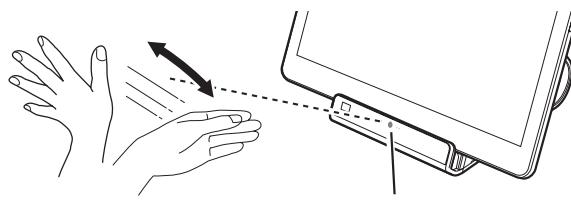
ご購入時の設定では、ハンドジェスチャーは無効になっています。有効にする場合は、「ハンドジェスチャーを使う」(→ P.79) をご覧ください。

ハンドジェスチャーでできること

■画面の横スクロール

画面を横にスクロールできる状態のときに、Web カメラに向かって左右に素早く手を振ると（スワイプ）、画面が左右にスクロールします。

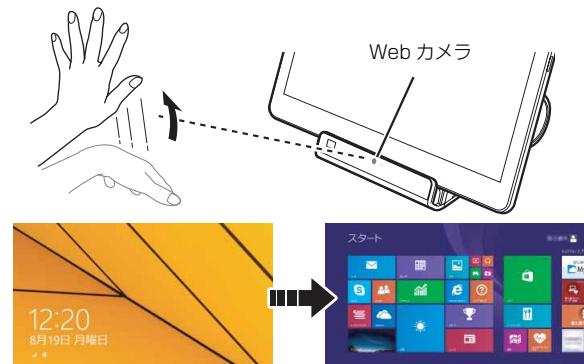
左に振ると画面が左に動き、右に振ると画面が右に動きます。



Web カメラ

■ロック画面の解除

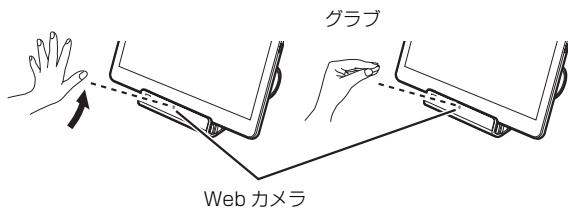
ロック画面で下から上に素早く手を振ると（スワイプ）、ロックを解除できます。パスワードを設定している場合は、パスワード入力画面になります。



■マウスマード

手を開いた状態で、下から Web カメラに映るように手を上げるとマウスマードになります。手の動きに合わせてマウスポインターを動かすことができます。手を掴むような形（グラブ）にして手を開くと、左クリックになります。また、グラブのままにしていると右クリックになります。

はじめに手を認識させるときは、指が真上を向くように手をかざしてください。

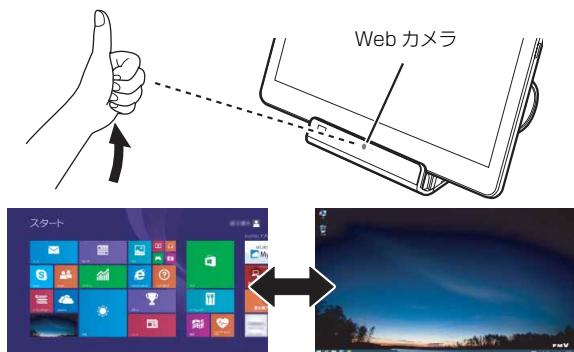


マウスマードのときは、マウスポインターの形が変わります。



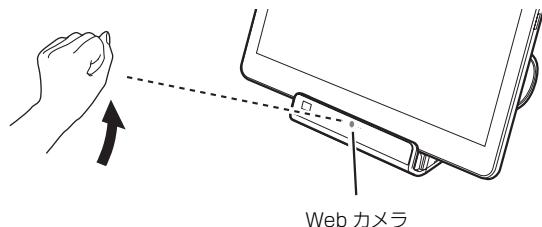
■スタート画面を切り替える

親指を立てて、下から Web カメラに映るように手を上げると（サムアップ）、スタート画面と直前に表示していた画面が切り替わります。

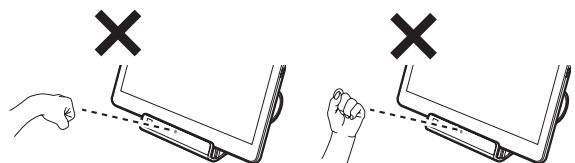


■アプリの最小化

手を握った状態で、下から Web カメラに映るように手を上げると（フィスト）、使用中のアプリを最小化します（デスクトップ画面の場合）。Windows ストアアプリの場合は、スタート画面に戻ります。



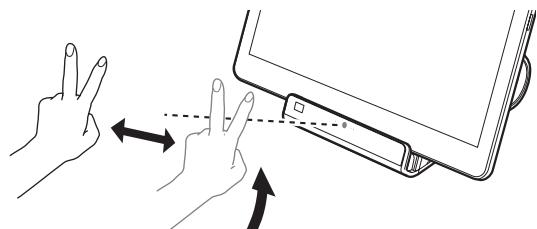
握った手の、手のひら側が Web カメラに向くようにしてください。



■音量を調節する

指を 2 本立てた状態で、下から Web カメラに映るように手を上げて左右に動かすと、音量を調節することができます。

右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音量が小さくなります。

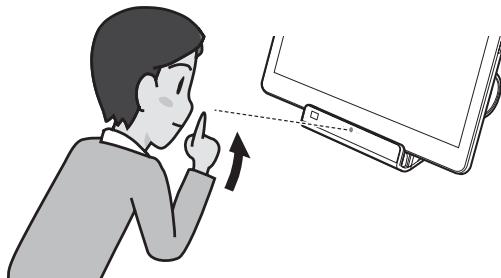


音量調整中は、次のアイコンが表示されます。



■消音（ミュート）にする

指を1本立てた状態で、下からWebカメラに映るように口元まで手を上げると、消音（ミュート）になります。消音の状態で同じ動作をすると、消音が解除されます。

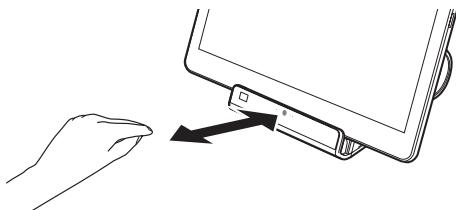


■拡大／縮小する

次のアプリを使用中に、手をWebカメラに近づけたり遠ざけたりすると、拡大／縮小ができます。

- フォト
- 地図
- Internet Explorer
- Windows フォトビューアー

- 1 写真や地図などを表示中に、手を開いた状態で、下からWebカメラに映るように手を上げます。
手が認識されると、手のアイコンが表示されます。
- 2 何かを手で掴むような形（グラブ）にして、手をWebカメラに近づけたり遠ざけたりすると、拡大／縮小ができます。



拡大／縮小中は、次のアイコンが表示されます。



■回転する

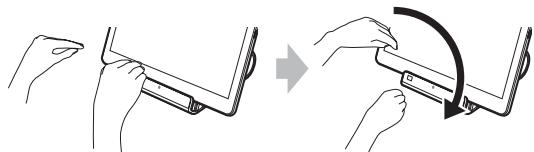
「Windows フォトビューアー」や「フォト」で写真を表示中に、両手を使って回転の操作ができます。

- 1 写真を表示中に、Webカメラに向かって両手をかざします。

手が認識されると、次のアイコンが表示されます。



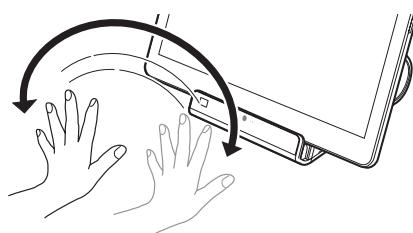
- 2 両手を、何かを掴むような形（グラブ）にして回転させると、画像が回転します。



■スクロールする

手を回転させて画面をスクロールすることができます。

- 1 Webカメラに向かって手をかざします。
- 2 手を円を描くように回転させます。



スクロール中は、次のアイコンが表示されます。

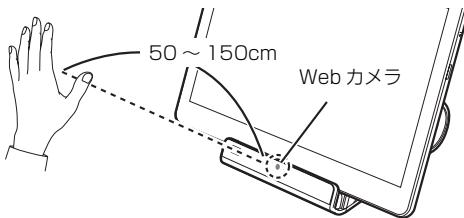


Point

- ▶ 手を回転させる方向を変えると、スクロールする方向が変わります。
- ▶ 画面が上下・左右ともにスクロールできる場合は、上下のスクロールが優先され、左右にスクロールはできません。

ハンドジェスチャーをお使いになるうえでの注意

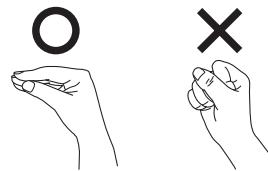
- ハンドジェスチャーを有効にしていると、パソコンが一定時間後に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。自動的にスリープや休止状態にするには、ハンドジェスチャーを無効にしてください。
- ハンドジェスチャーを有効にしていると、「カメラ」や「Skype」などのWebカメラを使用するアプリは使用できません。
これらのアプリを使用する場合は、ハンドジェスチャーを無効にするかハンドジェスチャーを終了してください。
- 本体部のWebカメラと手の距離は50～150cmとなるようにしてください。



(イラストは機種や状況により異なります)

- ワイヤレスディスプレイ部を本体部から取り外しても、ハンドジェスチャーで操作できます。
- 手がうまく認識されない場合は、デスクトップ画面右下のビデオウィンドウを見ながら手の位置を調節します。ビデオウィンドウに手全体が表示されるように手をかざしてください。
ビデオウィンドウが表示されていない場合は次の手順で表示させてください。
 1. デスクトップ画面右下の通知領域にある▲をクリックし、表示されたPを右クリックします。
 2. 「ビデオウィンドウを表示する」をクリックします。
- 本体部の設置場所や向きによっては、手がうまく認識されないことがあります。デスクトップ画面右下のビデオウィンドウに手全体が表示されるように、本体部の設置場所や向きを調節してください。
- 手を開いた操作をする場合、指と指の間を開きすぎないように、手をかざしてください。

- 決定やクリックの操作をするときは、次の図のように何かを手で掴むような形（グラブ）にしてから手を開いてください。このとき手を握らないよう注意してください。



- ハンドジェスチャーに使用する手は、右手でも左手でもかまいません。ただし、一部の両手で行う操作を除き、両手で同時に操作することはできません。
 - デスクトップ画面で次のアプリを起動している間は、ハンドジェスチャーは待機中になります。
 - ・Windows Media Player
 - ・WinDVD
- デスクトップ画面右下の通知領域にある▲をクリックし、表示されたPを右クリックして表示されるメニューから「詳細設定」▶「動画等の再生中も使用する」を選択すると、動画再生中もハンドジェスチャーが有効になります。
- ただし、機種や状況によってはコマ落ちなどが発生する場合があります。
- ハンドジェスチャーの「前／次（スワイプ）」を有効にしている場合、タッチ操作をするときに、意図せず画面が左右にスクロールすることがあります。無効にする場合は「ハンドジェスチャーの設定」(→ P.79)をご覧ください。
 - お使いの環境（部屋の明るさ、着衣、背景、光源など）によっては、手を正しく認識できない場合があります。
 - お使いの蛍光灯によっては、画面がちらつき、手をうまく認識できない場合があります。その場合は、次の手順でWebカメラの設定を変更してください。
 1. デスクトップ画面右下の通知領域にある▲をクリックし、表示されたPを右クリックします。
 2. 「詳細設定」▶「カメラの設定」の順にクリックします。
 3. お住まいの地域の商用電源周波数に合わせて「ちらつき防止」の設定を変更します。東日本にお住まいの場合は「50Hz」を、西日本にお住まいの場合は「60Hz」を選択します。
 4. 「OK」をクリックします。

ハンドジェスチャーを使う

ハンドジェスチャーをお使いになる場合、「PointGrab ハンドジェスチャーコントロール」が起動している必要があります。

次の手順で、「PointGrab ハンドジェスチャーコントロール」を起動してください。

1 スタート画面で「カメラセンサー機能ON/OFFツール」をクリックします。

2 「ハンドジェスチャー」の「ON」をクリックし、「閉じる」をクリックします。

デスクトップ画面右下の通知領域にある が に変わります。

Point

▶ は動作中、 は待機中、 はオフを示します。 の場合は、 を右クリックし、「ジェスチャーを使用する」をクリックしてください。

▶ ハンドジェスチャーを無効にする場合は、デスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリックし、「ジェスチャーを使用しない」をクリックしてください。

▶ ハンドジェスチャーの基本的な操作を、チュートリアルで確認することができます。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された を右クリックします。

2. 「チュートリアル」をクリックします。

ハンドジェスチャーの設定

■ハンドジェスチャーで使用する機能を選択する
ハンドジェスチャーで使用する機能を個別に選択することができます。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された を右クリックします。

2 「使用するジェスチャーを選択」をクリックします。
ジェスチャーを選択するウィンドウが表示されます。



3 ハンドジェスチャーで使用したい機能を選択します。
各機能のマークにある をクリックすると、マークがグレーになり、その機能は使用できなくなります。

をクリックすると、マークに色が付き、使用できるようになります。

Point

▶ 「マウスポインターの移動」をオフになると、「クリック」と「ドラッグ&ドロップ」もオフになります。

4 「完了」をクリックします。

■他の設定を変更する

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  を右クリックします。
- 2 設定したい項目をクリックします。

- ・ 使用するジェスチャーを選択
ハンドジェスチャーで使用する機能を選択できます。
- ・ 音を鳴らさない
ハンドジェスチャーの効果音を消します。
- ・ ビデオウィンドウを表示しない
ビデオウィンドウを消します。
- ・ 詳細設定
次の項目を設定することができます。
 - ・ 動画等の再生中も使用する
 - ・ カメラの設定
 - ・ 全ての設定を規定値に戻す
 - ・ 音量の変更速度
 - ・ マウスポインターの移動速度
- ・ チュートリアル
ハンドジェスチャーのチュートリアルを表示します。

ハンドジェスチャーで困ったら

次の表をご覧になり、発生したトラブルの解決方法がないかご確認ください。

症状	考えられる原因	対処方法
手を振っても、反応しない	ハンドジェスチャーがオフになっている	デスクトップ画面右下の通知領域にある  をクリックし、表示された  を右クリックし、「ジェスチャーを使用する」をクリックしてください。
	手が Web カメラに写っていない	チュートリアルで、手が Web カメラに写るように練習してください。
	部屋が暗い	部屋を明るくしてください。
	Web カメラに逆光があるたっている	Web カメラに逆光があたらないようにしてください。
	Web カメラに手が近づきすぎている	本体部の Web カメラと手の距離は 50 ~ 150cm となるようにしてください。

System Utility

「System Utility (GH series)」では、人感センサーによるパソコンの自動起動やその他の設定を行います。

人感センサー機能

人感センサー機能（本体部の近くに人がいるかどうかを感知する機能）を使うと、本体部に近づいたとき自動的にパソコンを起動することができます。また、自動的に起動したあと、My Cloud が集めた写真を自動再生（スライドショーを起動）することもできます。

■人感センサー機能をお使いになるうえでの注意

- 人感センサーの有効範囲は、本体部前面方向に約 2m です。
- 人感センサーは、ワイヤレスディスプレイ部が本体部にセットされた状態でのみ動作します。
- 人感センサーの前に物を置いたり、人感センサーおよびその周囲にテープやシールなどを貼ったりしないでください。
- 人感センサーは、ペットなどの動物にも反応する場合があります。
- 室温が人の体温と近い場合には、人感センサーが反応しないことがあります。
- 明るさセンサー（→ P.41）と連動し、夜間など部屋が暗い場合には、人感センサーは動作しません。

■人感センサー機能の設定を変更する

- 1 スタート画面左下の  をクリックします。
 が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 表示された画面から、「System Utility (GH series)」をクリックします。
「System Utility (GH series)」ウィンドウが表示されます。

- 3 「電源設定」タブの設定を変更し、「OK」をクリックします。



■人感センサーによる自動起動

「ON」にすると、人感センサー機能によりパソコンを自動的に起動できます。

使用しない場合は「OFF」にします。

- ・人感センサーが有効になる時間

シャットダウンやスリープ後に人感センサーが有効になるまでの時間を設定します。

初期設定値は「10分」です。

- ・自動起動後の動作

自動的に起動した後の動作を設定します。

- Windows を起動

常に、スタート画面が表示されます。

- 自動切替 (Windows / 新規写真がある場合はスライドショー)

My Cloud に新しい写真がある場合は、My Cloud のスライドショーが起動します。

新しい写真がない場合は、スタート画面が表示されます。

- スライドショーの再生

常に、My Cloud のスライドショーが起動します。

- 再生時間

スライドショーの再生時間を設定します。

初期設定値は「10分」です。

- 自動サインイン設定

「自動サインイン設定」ウィンドウが表示されます。この設定により、自動的に起動した後にパスワードの入力を省略することができます。詳しくは「自動サインイン設定」(→ P.82) をご覧ください。

Point

▶「ワイヤレスディスプレイからパソコン本体を起動」については、「本パソコンの設定機能」(→ P.81) をご覧ください。

本パソコンの設定機能

■ワイヤレスディスプレイからパソコン本体を起動（電源設定）

「ON」にすると、ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押して Windows をスタートできます。

使用しない場合は「OFF」にします。

「System Utility(GH Series)」ウィンドウの「電源設定」タブをクリックして設定します。

■オーディオ出力設定

本体部、ワイヤレスディスプレイ部のどちらのスピーカーから音を出すかを設定します。

「System Utility (GH series)」ウィンドウの「オーディオ出力設定」タブをクリックして設定します。

- ワイヤレスディスプレイ／パソコン本体の自動切替

ワイヤレスディスプレイ部を本体部に取り付けているときは本体部、取り外しているときはワイヤレスディスプレイ部のスピーカーから音が出ます。

- ワイヤレスディスプレイに固定

常に、ワイヤレスディスプレイ部のスピーカーから音が出ます。

- パソコン本体に固定

常に、本体部のスピーカーから音が出ます。

- HDMI 機器に固定

HDMI 出力端子に接続した機器から音が出ます。

HDMI 出力端子に何も接続していない場合は、「自動切替」に設定したときと同じように動作します。

- System Utility では設定しない

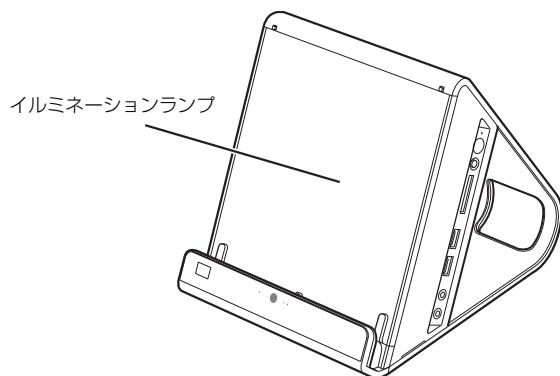
「System Utility (GH series)」では、音の出力先を設定しません。

USB スピーカーや Bluetooth ヘッドフォンなど外付けの再生デバイスを手動で設定したい場合に選択します。

■イルミネーション設定

本パソコンの電源が入っている状態でワイヤレスディスプレイ部を取り外したときに、本体部正面のイルミネーションランプを光らせるかどうかを設定します。

「System Utility (GH series)」ウィンドウの「イルミネーション設定」タブをクリックして設定します。



■自動回転設定

ワイヤレスディスプレイ部の向きを変えたときに、自動的に表示の向きを変えるかどうかを設定します。

「System Utility (GH series)」ウィンドウの「自動回転設定」タブをクリックして設定します。

■メンテナンス

ワイヤレスディスプレイ部のバッテリー情報を表示します。

自動サインイン設定

自動サインイン設定でローカルアカウントまたはMicrosoftアカウントのパスワードを設定しておくと、Windowsをスタートするときに、パスワードの入力を省略します。

自動サインイン設定をお使いになるうえでの注意

●本設定を行うと、Windowsのスタート時に自動でサインインします。このため、パスワードを知らない第三者に本パソコンを使用されるおそれがあります。次の条件に該当するパソコンには本設定をしないでください。

- ・持ち運ぶ可能性のあるパソコン
- ・他人が使用する可能性のあるパソコン
- ・その他、パスワードによる管理が必要なパソコン

●「自動サインイン設定」でパスワードを設定した後にユーザー アカウントのパスワードを変更すると、自動でサインインできなくなります。

「自動サインイン設定」でパスワードを設定し直してください。

●「自動サインイン設定」はロック解除を行いません。スリープ解除時のパスワード保護が有効になっている場合、スリープや休止状態から復帰したときにロックされます。この場合は、パスワードを入力してロックを解除してください。

自動サインイン設定の使い方

1 スタート画面左下の①をクリックします。

①が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

2 表示された画面から、「自動サインイン設定」をクリックします。

- 3** お使いになる設定を選択し、「OK」をクリックします。



- ・自動でサインインしない（標準設定）
Windows をスタートするときに、手動でパスワードを入力する設定です。ご購入時はこの設定になっています。
- ・いつでも自動でサインインする
Windows をスタートするときに、パスワードを入力せずにサインインします。
この設定を行うと、Windows スタート時に、自動でサインインするため、パスワードを知らない第三者に本パソコンを使用されるおそれがあります。ご注意ください。
この設定は、次の場合に自動でサインインします。
 - ・Windows を終了した後、パソコンの電源を入れたとき
 - ・再起動したとき

- 4** 注意事項をよく読み、「上記の注意事項を理解したうえで、自動サインインを設定する」の□を☑にします。

- 5** パスワードを入力し「OK」をクリックします。

- 6** 「OK」をクリックします。

Point

- ▶ 自動サインイン設定を解除する場合は、手順 3 で「自動でサインインしない」を選択してください。
- ▶ 自動サインイン設定でパスワードを設定すると、設定を行ったときのアカウントで自動的にサインインするようになります。
アカウントを変更したい場合は、一度自動サインイン設定を解除してから行ってください。

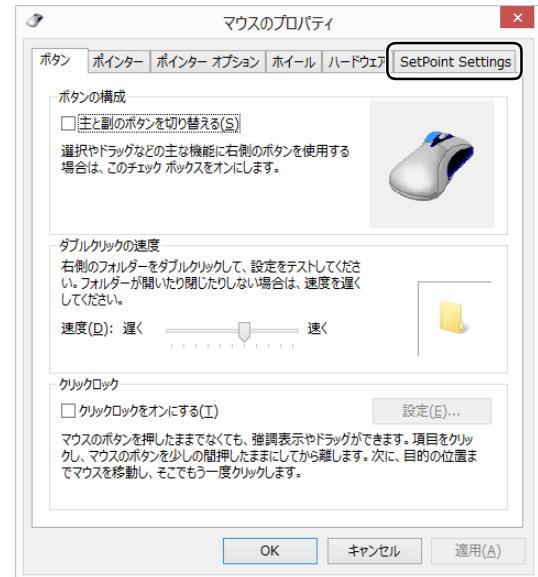
多機能マウス

多機能マウスをお使いの場合、マウスのスクロールホイールを左右に倒す操作に対して、「スタート画面を表示する」、「アプリケーションメニューを表示する」などの操作を設定することができます。

マウス設定ユーティリティを設定する

ここでは、スクロールホイールを左側に倒したときの操作を「スタート画面を表示する」、右側に倒したときの操作を「アプリケーションメニューを表示する」に設定する場合を例として説明します。

- 1** 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを画面左下隅に合わせると が表示されます。
- 2** 「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。
マウスのプロパティが表示されます。
- 3** 「SetPoint Settings」タブをクリックします。



「SetPoint の設定」ウィンドウが表示されます。
※「マウスのプロパティ」ウィンドウは閉じます。

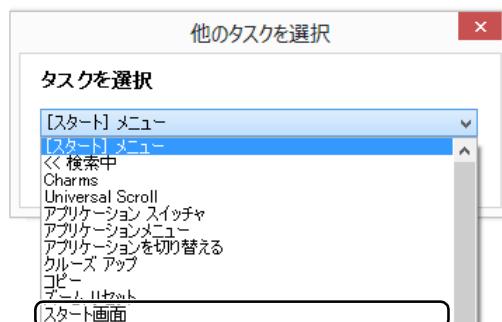
4 まず、スクロールホイールを左側に倒したときの操作を設定します。「ボタンを選択」の「4 nnn」をクリックし、「タスクを選択」の「その他」をクリックします。

「nnn」には現在の設定が表示されます。

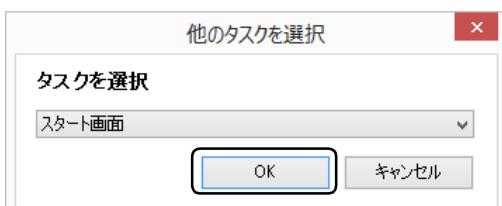


「他のタスクを選択」ウィンドウが表示されます。

5 「タスクを選択」から「スタート画面」を選択します。



6 「OK」をクリックします。



「他のタスクを選択」ウィンドウが閉じます。

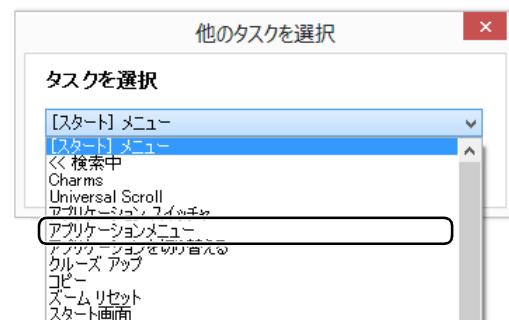
7 次に、スクロールホイールを右側に倒したときの操作を設定します。「ボタンを選択」の「5 nnn」をクリックし、「タスクを選択」の「その他」をクリックします。

「nnn」には現在の設定が表示されます。

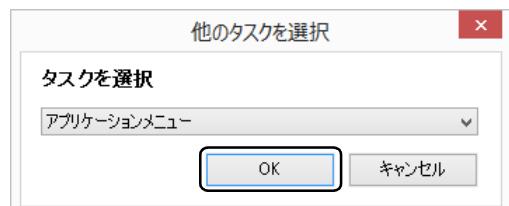


「他のタスクを選択」ウィンドウが表示されます。

8 「タスクを選択」から「アプリケーションメニュー」を選択します。



9 「OK」をクリックします。



「他のタスクを選択」ウィンドウが閉じます。

10 「OK」をクリックします。

「SetPoint の設定」ウィンドウが閉じます。

11 「コントロールパネル」を閉じます。

My Cloud

My Cloud【マイクラウド】は、パソコンを使って日常の生活をもっと楽しく便利にする、富士通の新しい機能とサービスのご提案です。

スタート画面の「My Cloud」(My Cloud ホーム 2.0)のタイルをクリックすると、My Cloud の活用方法などをご紹介するチュートリアルが始まります。

はじめてみよう



My Cloudで使える機能には次のようなものがあります。各機能は、スタート画面左下の①をクリックして表示されるアプリ画面から起動することができます。

My Cloud でできること

■ My Cloud プレイ

パソコンに取り込んだ写真、ビデオ、音楽、ドキュメントなどのデータを一元管理することができます。

写真やビデオを選んでアルバムを作ったり、富士通が運営するクラウドサービス「My Cloud ライブラリー」に写真をアップロードしたりすることができます。また、ご家庭のパソコンやレコーダーに保存した動画やテレビ番組をまとめて管理したり、ネットワーク経由で再生したり、外出先からご家庭のパソコンのデータを閲覧したりすることができます。



■ My Cloud エコ DX

スマートフォンやタブレット端末を使って、外出先から ECHONET Lite 対応家電製品の運転をオン／オフしたり、使用電力を確認したりすることができます。



さらに詳しい説明をご覧になるには…

「My Cloud アプリ」のページ
(<http://azby.fmworld.net/support/mycloudapps/>)
をご覧ください。

『ソフ得』ソフト使い放題

「『ソフ得』ソフト使い放題」は、100種類以上、総額43万円相当のアプリが使い放題になるサービスです。
※ご利用にあたっては、月額540円（税込）の料金がかかります。

■ 「使い放題ツール」をインストールする

「『ソフ得』ソフト使い放題」をご利用になるには、「使い放題ツール」が必要となります。「使い放題ツール」では、アプリのインストールや、インストールしたアプリを管理できます。

※「使い放題ツール」は無料でご利用いただけます。

1 デスクトップ画面の「ソフ得」アイコンをクリックします。

2 インストーラーが起動するので、手順に従ってインストールします。

インストールが終了すると、デスクトップ画面に「ソフ得」アイコンが表示されます。

■ 「『ソフ得』ソフト使い放題」に申し込む

※「『ソフ得』ソフト使い放題」のお申し込みには、インターネットへの接続が必要です。

Point

▶ 「『ソフ得』ソフト使い放題」のお申し込み手続きには、次のものが必要になります。

- ・ My Cloud アカウント（お申し込み手続きの手順3でも取得できます。）
- ・ クレジットカード（ご利用料金のお支払いは、クレジットカードのみとなります。）

- 1 デスクトップ画面の「ソフト使い放題」アイコンをクリックします。
- 2 「使い放題ツール」の画面右上にある「お申し込みWEBサイトはこちら」をクリックします。



- 3 「お申し込み手続き開始」画面で、手順に従って手続きをします。

重要

▶ 「申し込み完了」画面に、本サービスをご利用いただくために必要な「使い放題コード」が表示されます。このコードは、アプリのインストールや、お問い合わせの際に必要になりますので大切に保管してください。

※ 申し込み完了後に送信されるメールでも確認できます。

Point

▶ 手続き開始の際に、My Cloud アカウントの入力画面が表示されます。My Cloud アカウントをお持ちでない場合は、取得してください。

▶ My Cloud アカウントを取得済みでも、追加で情報の入力が必要な場合があります。ご了承ください。

- 4 「使い放題ツール」のメニューから、「認証」▶「使い放題コードを入力してログインする」をクリックします。



- 5 「使い放題コードを入力してログインする」ウィンドウが表示されるので、「使い放題コード」を入力します。

各アプリをインストールできるようになります。



■「使い放題ツール」からアプリをインストールする

* 「使い放題ツール」からアプリをインストールするには、インターネットへの接続が必要です。

- 1 「使い放題ツール」の「アプリ」タブで、使いたいアプリをクリックします。



- 2 詳細画面で動作環境を確認してから、「インストール」をクリックします。



- 3 各アプリのインストール手順に従ってインストールします。

「使い放題ツール」の「起動」をクリックすると、インストールしたアプリが起動します。

Point

- ▶ インターネットへ接続せずアプリを起動した場合、7日以内にインターネットへ接続した状態で「使い放題コード」を入力しないとアプリが起動できなくなります。

■「『ソフ得』ソフト使い放題」を解約する

解約の申し込み翌月1日から、サービスを停止します。

重要

- ▶ サービスを停止すると、インストールしたアプリは使えなくなります。

1 「サービス利用状況」(<https://azby.fmworld.net/history/>) の「月額サービス利用状況」をクリックします。

利用中のサービス一覧が表示されます。

2 「解約」をクリックし、ページの案内に従って解約申し込みをします。

詳しい使い方については…

「『ソフ得』ソフト使い放題」のページ(http://azby.fmworld.net/shopping/dl_soft/detail/unlimited/)をご覧ください。

F-LINK (ケータイ連携機能)

F-LINK は、ネットワークを使ってパソコンやスマートフォン／タブレット端末／携帯電話間でデータのやり取りができる富士通独自の技術です。ケーブルを接続したり、媒体を用意したりする必要がなく、ワイヤレスで手軽にデータの転送ができます。

※ この機能で「ケータイ」と表記する場合、スマートフォン／タブレット端末を含みます。



F-LINK を使うと、次のようなことができます。

- 携帯機器内の写真、動画などのデータや、歩数・活動量を自分のパソコンに自動で取り込みます。
- 無線 LAN 搭載 SDHC メモリーカードから、写真、動画などのデータがワイヤレスで取り込めます。
- F-LINK 対応機器どうして個別にデータのやり取りをします。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) から Q&A ナンバー「6009-8007」を検索してご覧ください。

F-LINK をお使いになるうえでの注意

■携帯機器の対応機種について

F-LINK に対応した携帯機器については、ホームページ (<http://azby.fmworld.net/support/soft/flink/>) をご覧ください。

■注意事項

●このパソコンにあらかじめインストールされているもの以外のセキュリティ対策アプリをインストールしている場合、次のプログラムからネットワークの接続の要求があったときは、接続を許可するように設定してください。

- ・ F-LINK.exe

●送受信したデータを利用するには、送信側／受信側ともにデータを利用できる環境が必要です（例：受信側に送信側と同様のアプリが搭載されていない場合、データは閲覧できません）。

なお、携帯機器によっては扱えるファイル形式やファイルサイズが異なります。携帯機器に添付のマニュアルをご覧ください。

●受信側の空き容量が少ないと全部のファイルが取り込めないことや、送信側からファイルを送れない場合があります。表示されたメッセージに従ってください。

●ルーターで機器間の通信を遮断する設定が行われていた場合、ルーター経由で F-LINK の機能が動作しません。ルーターを経由する場合は、機器間の通信を許可する設定をしてください。設定の方法は、ルーターのマニュアルをご覧ください。

Skype

Skype [スカイプ] ではさまざまな方法で世界中の友達、ご家族、同僚と連絡を取り合うことができます。 Skype を起動する場合は、スタート画面で「Skype」をクリックします。

Point

このパソコンは、本体部にマイク、Web カメラがあります。ワイヤレスディスプレイ部を本体部から取り外して使う場合、本体部と離れすぎると、音声通話、ビデオ通話ができなくなる場合があります。



Skype でできること

■ユーザーどうしの通話

Skype のユーザーどうしなら無料で通話ができます。海外の友人と無料で通話したり、複数人で同時に通話したりできます。

■ビデオ通話

お互いの顔を見ながら通話するなど、1 対 1 のビデオ通話を無料で楽しむことができます。

なお、Web カメラを使用している間は、パソコンが一定時間後に自動的にスリープや休止状態になる機能はご利用になれません。

■インスタントメッセージやファイル送信

リアルタイムにメッセージを送受信することで、複数人と文字で会話をすることができます。また、通話中やメッセージの送受信中に必要となったファイルを転送することができます。

詳しい使い方については…

「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>) から Q&A ナンバー「2009-7938」を検索してご覧ください。

搭載されているアプリを使う (@メニュー)

このパソコンには、搭載されているデスクトップアプリを簡単に探すための、「@メニュー」が搭載されています。

やりたいことがあるけれど、どのアプリを使えば良いかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます。

「@メニュー」の使い方

- 1 スタート画面で「@メニュー」をクリックします。
- 2 次の画面の操作をします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ やりたいことを選択します。
「名前でさがす」をクリックすると、アプリの名称から探すことができます。
- ④ 「実行する」をクリックして、アプリを起動します。

Point

- ▶ アプリを起動する方法は他にもあります。
詳しくは、『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』をご覧ください。
- ▶ このパソコンに搭載されているアプリの一覧は、[富士通製品情報ページ](http://www.fmworld.net/fmv/) (<http://www.fmworld.net/fmv/>) に掲載されています。

詳しい使い方については…

「サポートページ」 (<http://azby.fmworld.net/support/>) から Q&A ナンバー「8107-4567」を検索してご覧ください。

バックアップナビ

Windows が起動しなくなった場合や、データを誤つて紛失してしまった場合に備え、大切なデータのコピーを保存しておくことを「バックアップ」といいます。バックアップは大変重要ですので、忘れずに行うようにしてください。

このパソコンは「バックアップナビ」というバックアップツールを搭載しています。

バックアップナビの機能

2種類のバックアップ方法を組み合わせて効率的にバックアップをとりましょう。

■日々作成するデータをバックアップ

デジタルカメラで撮った写真や、作成した文書などは定期的にバックアップしましょう。

「バックアップナビ」では、マイドキュメントやマイピクチャなどのそれぞれのユーザーが持っているフォルダーのデータを「マイデータ」と呼んでいます。「バックアップナビ」では「マイデータ」をまとめて簡単にバックアップできます。

詳しくは「マイデータ」(→ P.92) をご覧ください。

自動バックアップ

「マイデータ」を定期的にバックアップするよう設定できます。「毎日」または「週に 1 回」など設定しておくと、忘れずにバックアップできて便利です。

このパソコンは毎週月曜日の午前 10 時にバックアップするよう設定しております。必要に応じて、日時の設定を変更してください。

「バックアップする」タブにある「マイデータの自動バックアップ」の「設定」ボタンをクリックすると設定を変更できます。

「バックアップナビ」の起動方法は「「パソコンの状態」をバックアップする」(→ P.93) をご覧ください。

●ご利用になるうえでの注意

- ネットワークテレビチューナー対応機種、テレビチューナー搭載機種およびワイヤレスTV対応機種の場合、テレビ番組の視聴、録画中はバックアップしないでください。

- バックアップデータが増え、D ドライブの空き容量が少なくなってしまったときには、バックアップデータを整理してください。

サポートページから次のQ&Aナンバーを検索してご覧ください。

マイデータを管理する方法「4309-7982」

このほかにも、いくつか注意していただきたい点があります。「自動バックアップの設定」のステップ 2 の画面に表示される「注意事項」の内容をよく読んでから設定してください。

■C ドライブをまるごとバックアップ

トラブルに備えて、パソコンが快適に使用できている状態をまるごとバックアップしましょう。

「バックアップナビ」では C ドライブをまるごとバックアップできます。パソコンのセットアップが完了した後、およびインターネットやメールなどパソコンの設定を変更した後にバックアップすることをお勧めします。詳しくは「パソコンの状態」(→ P.92) をご覧ください。

バックアップナビをお使いになるうえでの注意事項

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

すべてのデータの保存／復元を保証するものではありません。また著作権保護された映像（デジタル放送の録画番組など）や音楽などは保存／復元できない場合があります。

■管理者アカウントでWindowsにサインインしていることを確認してください

セットアップ時に作成したアカウントは管理者アカウントです。

標準アカウントでサインインしている場合は、「ユーザー アカウント制御」ウィンドウで管理者アカウントのパスワードを入力してバックアップしてください。

■「バックアップナビ」以外のアプリはすべて終了させてください

■D ドライブにバックアップしたデータは DVDなどのディスク（マイデータのみ）や外付けハードディスクなどにコピーしてください

パソコンが故障したときは、D ドライブにバックアップしたデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

(LIFEBOOK の約 128GB SSD 搭載機種は、D ドライブに「パソコンの状態」をバックアップすることができません。)

■「トラブル解決ナビ」以外で領域を変更した場合

は、「バックアップナビ」はお使いになれません
市販のアプリなどでハードディスクの領域設定を行った場合は「バックアップナビ」はお使いになれません。

「バックアップナビ」を使える状態にするには、「リカバリ領域を復元する」(→ P.152) をご覧になり、「ハードディスク全体をリカバリ」を実行してください。

■他のパソコンには復元できません

バックアップしたデータを復元できるのは、このパソコンの C ドライブのみです。

■スリープや休止状態にしないでください

バックアップ／復元や、バックアップデータをディスクにコピー中にスリープや休止状態などの省電力状態にすると、データが正常に書き込まれなくなります。パソコンを省電力状態にする操作はしないでください。

マイデータ

バックアップ／復元できる項目

●ユーザーのデータ

ライブラリなどに登録されているフォルダーのデータがバックアップされます。

●自分で指定したフォルダー

「マイデータ」の注意事項

■次のデータは、バックアップできません

●著作権保護された音楽データ、映像データ

デジタル放送の録画番組、インターネット上の音楽配信サイトからダウンロードしたファイルなど、著作権保護された映像データや音楽データなどはバックアップ／復元できない場合があります。

著作権保護された音楽データ、映像データのバックアップ／復元については、お使いのアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。

●テレビ番組を録画したデータ

容量が大きいため、ハードディスクの空き容量が少なくなってしまったときは、個別にDVDなどのディスクにバックアップすることをお勧めします。

「マイデータ」のバックアップ／コピー／復元方法

バックアップ／コピー／復元方法については、サポートページから次のQ&Aナンバーを検索してご覧ください。

●マイデータをバックアップする方法「3309-7979」

●マイデータをコピーする方法「4309-7982」

●マイデータを復元する方法「0609-7981」

パソコンの状態

ハードディスクのCドライブをまるごとバックアップします。パソコンにトラブルが発生した場合、Cドライブをまるごとバックアップしたときの状態に戻すことができます。

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

「パソコンの状態」の注意事項

■必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、本体部にACアダプタを接続してください

■パソコンに不具合が起こっているときは、「パソコンの状態」をバックアップしないでください
「パソコンの状態」をバックアップすると、パソコンのCドライブをそのままの状態で保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。

■保存先の容量を確認してください

「パソコンの状態」のバックアップデータは、前回のバックアップデータを上書きすることなく、バックアップするごとに新規で作成されます。Cドライブで使用している容量より保存先の容量が少ない場合は、「パソコンの状態」のバックアップはできません。
不要になったバックアップデータは削除してください(→P.96)。

重要

- ▶ 「パソコンの状態」をバックアップ、および復元する場合、「バックアップナビ」起動時に外付けハードディスクやUSBメモリを接続しないでください。
 - ・接続したまま「パソコンの状態」のバックアップ、および復元を開始すると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
 - ・外付けハードディスクにバックアップする場合は、「バックアップナビ」起動後に、画面の指示に従って接続してください。
- ▶ メモリーカードなどのその他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。

「パソコンの状態」をバックアップする場所

「パソコンの状態」をバックアップする場所を選択できます。また、作成した「パソコンの状態」のバックアップデータを外付けハードディスクなどにコピーできます。

■D ドライブ

LIFEBOOK の約 128GB SSD 搭載機種を除く外部のドライブなどを接続する手間がなく簡単に「パソコンの状態」のバックアップ、復元できます。ただし、次の場合は、D ドライブのバックアップも含めハードディスクのすべてのデータが使えなくなります。そのような場合に備え、このパソコンのハードディスク以外の場所にバックアップデータをコピーすることをお勧めします。

●このパソコンが故障したとき

パソコンが故障したときは、D ドライブに作成した「パソコンの状態」のバックアップデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

■外付けハードディスク

直接「パソコンの状態」をバックアップできます。外付けハードディスクは USB 接続のものを用意してください。USB 接続以外の接続方式では正常に動作しない場合があります。

■ネットワーク上のドライブ

(LAN コネクタ搭載機種のみ)

直接「パソコンの状態」をバックアップできます。ネットワークの知識が必要です。別のパソコンの共有フォルダーに、「パソコンの状態」をバックアップしたり、そこから復元したりできます。ネットワーク上のドライブを使う方法は、サポートページから Q&A ナンバー「7209-7934」を検索してご覧ください。

「パソコンの状態」をバックアップする

1 スタート画面左下の①をクリックします。

①が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

2 「FUJITSU-バックアップナビ」の「バックアップナビ」をクリックします。

3 「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。

4 「バックアップナビ」の概要を説明するウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。

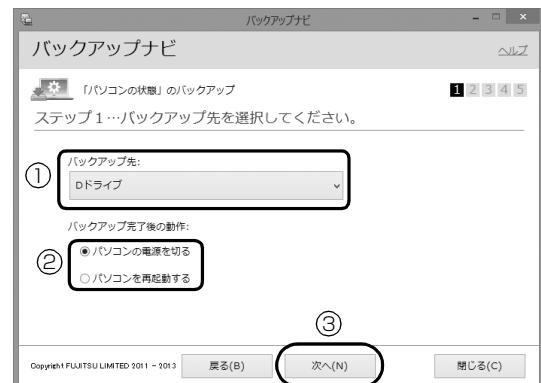
5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

- ①「バックアップする」タブをクリックします。
②「パソコンの状態のバックアップ」をクリックします。

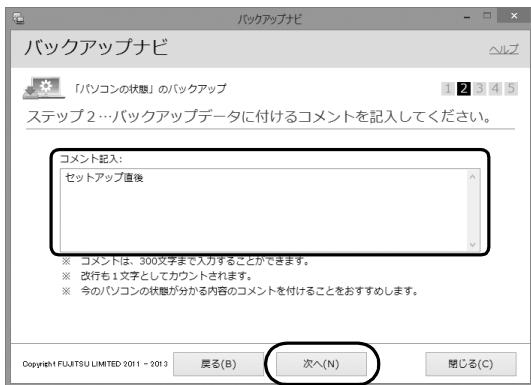
6 次の画面の操作をします。



- ①「D ドライブ」または外付けハードディスクなどにバックアップする場合は「他のドライブ」を選択します。バックアップ先の外付けハードディスクなどは後で接続します。
② D ドライブを選択した場合に表示されます。「パソコンの電源を切る」または「パソコンを再起動する」を選択します。
③「次へ」をクリックします。

7 コメント入力域に、いつの時点の「パソコンの状態」かわかるようなコメントを入力し、「次へ」をクリックします。

- 例) ・セットアップ直後
・インターネット設定変更



8 内容を確認して「次へ」をクリックします。

9 「OK」をクリックします。

■ D ドライブにバックアップする場合
(LIFEBOOK の約 128GB SSD 搭載機種を除く)

再起動して、「パソコンの状態」をバックアップします。その後、パソコンは手順 6 で選択した動作をします。

これで、バックアップは完了です。

Point

▶ バックアップ先に□ドライブを選択した場合、バックアップ後初めてWindowsを起動したときに、デスクトップ画面で「バックアップナビ」が起動し、パソコンのバックアップが完了したというメッセージが表示されます。「閉じる」をクリックして、画面を閉じてください。

■ その他のドライブにバックアップする場合
手順 10 に進んでください。

10 「「パソコンの状態」のバックアップ」という画面が表示されたら、次の操作をします。



① 外付けハードディスクを接続し、認識されるまで 10 秒ほど待ってから、「一覧を更新」をクリックします。

② 「ドライブ一覧」に接続したドライブが表示されたら、保存先のドライブを選択します。

③ 「次へ」をクリックします。

11 画面の内容を確認し、「開始する」をクリックします。

「パソコンの状態」のバックアップが始まります。しばらくお待ちください。終了までの時間表示が増えることがあります。これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。

完了すると「バックアップを終了しました。結果をご確認ください。」と表示されます。

12 「閉じる」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで、指定したドライブに「パソコンの状態」がバックアップされました。

「パソコンの状態」のバックアップデータをコピーする

「パソコンの状態」のバックアップデータは外付けハードディスクなどにコピーできます。

コピー方法については、サポートページから Q&A ナンバー「6909-7980」を検索してご覧ください。

「パソコンの状態」を復元する

C ドライブをまるごと、「パソコンの状態」のバックアップ時点に戻します。

C ドライブの現在のデータは失われてしまいます。D ドライブまたはDVDなどのディスクや別の媒体などにバックアップしてください。

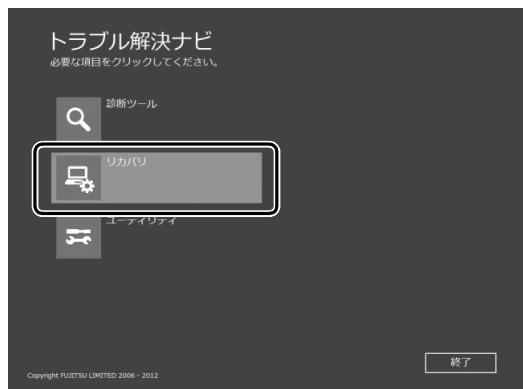
Point

- ▶ Windowsが起動できないときは、「かんたんバックアップレスキュー Light」でバックアップできる場合があります(→ P.100)。

1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

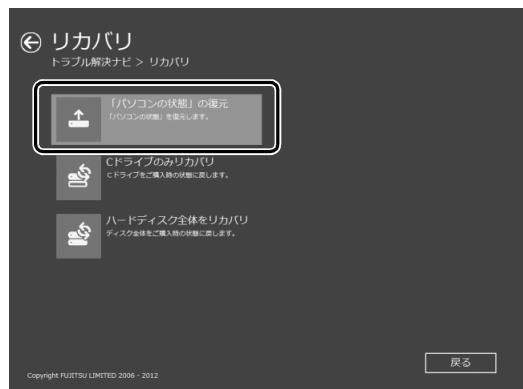
起動方法は「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.105)をご覧ください。

2 「リカバリ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

3 「「パソコンの状態」の復元」をクリックします。



4 画面の内容を確認し、次の操作をします。



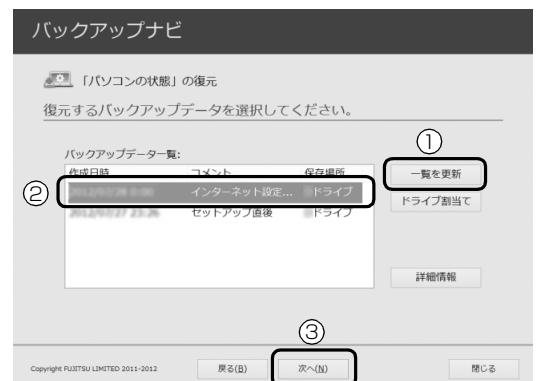
①「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。

「同意する」が選択できるようになります。

②「同意する」をクリックして③にします。

③「次へ」をクリックします。

5 復元したい「パソコンの状態」のバックアップデータを選択します。



① D ドライブ以外に保存したバックアップデータを復元する場合、外付けハードディスクを接続した後、認識されるまで10秒ほど待ってから、「一覧を更新」をクリックします。「バックアップデータ一覧」に「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されます。

② 復元する「パソコンの状態」のバックアップデータをクリックして選択します。

③「次へ」をクリックします。

Point

- ▶ D ドライブに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータが表示されない場合
(LIFEBOOKの約128GB SSD搭載機種を除く)
削除してしまっている可能性があります。ハードディスクの領域設定を変更した場合、C ドライブのデータもD ドライブのデータやバックアップデータも削除されます。

6 「復元開始」をクリックします。



「パソコンの状態」のバックアップデータを使ってC ドライブの復元が始まり、復元の進行状況を示す画面が表示されます。

7 そのまましばらくお待ちください。

終了までの残り時間は正確に表示されない場合や増える場合があります。これは途中で終了時間を計算し直しているためです。

しばらくすると、「復元が正常に終了しました。」と表示されます。

8 「閉じる」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで、「パソコンの状態」のバックアップデータを使った復元が完了しました。

「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する

「バックアップナビ」の「管理」タブで、D ドライブなどに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除できます。画面の指示に従って操作してください。

Point

- ▶ 外付けハードディスクに保存した「パソコンの状態」のバックアップデータを削除する場合は、「バックアップナビ」を起動する前に接続してください。

メールや Office で困ったときは

「Outlook」（メールアプリ）や「Word」、「Excel」などの Office の製品については、アプリ提供元の日本マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

<p>オフィス ホーム ビジネス Office Home & Business Premium オフィス パーソナル Office Personal Premium ・ Microsoft Excel 2013 ・ Microsoft OneNote 2013 ・ Microsoft Outlook 2013 ・ Microsoft PowerPoint 2013 ・ Microsoft Word 2013 ・ Microsoft PowerPoint 2013 楽し もう フォト ウィザード</p>	<p>日本マイクロソフト株式会社 技術サポート窓口 電話：0120-54-2244 受付時間：月～金／9:30～12:00、13:00～19:00、 土・日／10:00～17:00（日曜はインストール サポートのみ） URL : http://support.microsoft.com/contactus/</p>
---	---

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

ウィルス対策アプリなどで困ったときは

マカフィー リブセーフのお問い合わせ先

マカフィー リブセーフ	マカフィー株式会社 URL : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/ ①テクニカルサポートセンター インストール方法、製品削除など技術に関するお問い合わせ窓口 電話 : 0570-060-033 (携帯電話からの場合 : 03-5428-2279) 受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_email.asp ②カスタマーサービスセンター ご契約の更新、ご契約期間の確認など、ご契約に関するお問い合わせ窓口 電話 : 0570-030-088 (携帯電話からの場合 : 03-5428-1792) 受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (祝祭日を除く) お問い合わせフォーム : http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_email.asp 60日間の試用期間中、サポートいたします。
-------------	--

その他のアプリのお問い合わせ先

記号	@nifty でブロードバンド	ニフティ株式会社 @nifty お申し込み受付デスク 電話 : 0120-50-2210 ※携帯電話・PHS からもご利用可 受付時間 : 10:00 ~ 19:00 (年中無休)
D	DigiBook® Browser for FUJITSU	株式会社 DigiBook 電話 : 03-6805-9240 FAX : 03-5468-1250 受付時間 : 10:00 ~ 17:00 URL : https://secure.digibook.net/contact/ Eメール : info@digibook.net
I	i-フィルター® 6.0	デジタルアーツ株式会社 サポートセンター 電話 : 0570-00-1334 受付時間 : 10:00 ~ 18:00 (指定休業日を除く) URL : http://www.daj.jp/faq/ お問い合わせフォーム : http://www.daj.jp/ask/ 90日間の試用期間中、サポートいたします。
S	Skype	日本マイクロソフト株式会社 URL : https://support.skype.com/ja/
か行	学研パーソナル英和辞典 学研パーソナル和英辞典 学研パーソナル現代国語辞典 学研パーソナル版漢字辞典	株式会社学研教育出版 デジタルコンテンツ事業室 電話 : 03-3493-3286 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.109) へお問い合わせください。
	広辞苑第六版	株式会社岩波書店 電子出版編集部 電話 : 03-5210-4082 (辞書データについてのお問い合わせ先) 受付時間 : 13:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く) 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.109) へお問い合わせください。

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

さ 行	新和英中辞典第5版 リーダーズ英和辞典第3版	株式会社研究社 電子出版室 電話：03-3288-7711（辞書データについてのお問い合わせ先） 受付時間：10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く） 辞書のひき方や、「電子辞書」の使い方については「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」（→P.109）へお問い合わせください。
	ソフト使い放題	株式会社オプティム ソフト得 ソフト使い放題サポートセンター 電話：ご契約前のお客様 03-6435-8566 ご契約後のお客様 050-3734-4960 受付時間：10:00～18:00（年中無休） FAQ： http://azby.fmworld.net/monthly/faq.html?unlimitedfrom=unlimitedNavi_faq#unlimited お問い合わせフォーム： http://www.optim.co.jp/contents/12049
は 行	筆ぐるめ 22	富士ソフト株式会社 インフォメーションセンター 電話（ナビダイヤル）：0570-550-211 （IP電話/PHSの場合：03-5638-6139） 受付時間：9:30～12:00、13:00～17:00 （土日、祝祭日、及び弊社休業日を除く／11月1日から12月30日までは無休（12月30日は12:00まで）） URL： http://www.fudegurume.jp/ Eメール：users@fsi.co.jp

※搭載されているアプリはお使いの機種により異なります。

アプリのお問い合わせ先の確認方法

本書に記載されていないアプリのお問い合わせ先は、「@メニュー」で確認することもできます。

- 1 スタート画面で「@メニュー」をクリックします。
- 2 アプリを探し、お問い合わせ先を表示します。



（画面は機種や状況により異なります）

- ① カテゴリを選択します。
- ② ジャンルを選択します。
- ③ 「目的でさがす」をクリックし、やりたいことを選択します。
- ④ 「お問い合わせ先」をクリックします。

よくあるトラブルと解決方法

トラブルが発生した場合、まず次の点を確認してください

- 使用する装置（パソコンや周辺機器）の電源はすべて入っていますか？
- ケーブル類は正しいコネクタに接続されていますか？また、ゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（ハブなど）の接続や電源も確認してください。
- パソコンを再起動するとトラブルが解消される場合があります。パソコンの操作が可能なときは、次の手順で再起動してください。
 1. スタート画面の右上にある  をクリックします。
 2. 表示されたメニューから「再起動」を選択します。

起動・終了時のトラブル

症状	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されていない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されているか確認してください（→ P.20）。
	上記の対処で解決しない	電源ケーブルをコンセントから抜き、2～3 分放置後、再び取り付けてください。
画面に何も表示されない	本体部の電源が入っていない	電源ケーブルや AC アダプタが正しく接続されているか確認して（→ P.20）、ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを押してください。本体部の電源ボタンを押してもかまいません。
	ワイヤレスディスプレイ部のバッテリ残量が少ない	ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押しても、状態表示ランプ（→ P.17）が白色に点灯しないときは、バッテリ残量がありません。ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットして、充電してください。
	外部ディスプレイのみに表示する設定になっている	ワイヤレスキーボードをお使いの場合は、次の手順で表示先を切り替えてください。 <ol style="list-style-type: none">1.  +  +  を押す。2.  を押しながら  を 2 回押す。3.  を押す。
	画面が暗すぎる	ワイヤレスキーボードの明るさ調節ボタン（  +  ）を押して、画面を明るくしてください。
	ワイヤレスディスプレイ部のバックライトが消灯している	ワイヤレスキーボードのいずれかのキーを押してください。
	スリープになっている	ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタン、またはワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを押してください。本体部の電源ボタンを押してもかまいません。

症状	考えられる原因	対処方法
画面に何も表示されない (続き)	本体部とワイヤレスディスプレイ部が正しく接続されていない	「ワイヤレスディスプレイ部を本体部に再認識させる」(→ P.48) をご覧になり、再認識させてください。
	上記の対処で解決しない	<p>次の手順で、本体部とワイヤレスディスプレイ部の再起動や再認識を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを4秒以上押して電源を切る。 ハードディスクに保存されていない作業中のデータは失われます。 ワイヤレスディスプレイ部背面のリセットスイッチを押す(→ P.102)。 ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを押し、電源を入れ直す。 <p>本体部の電源ボタンで操作してもかまいません。</p> <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレスディスプレイ部の画面に「圏外」と表示されることを確認する。 「圏外」と表示されている場合は、ワイヤレスディスプレイ部のリンクボタン(→ P.17)を4秒以上押してください。 <p>画面に何も表示されない場合は、この後は「外部ディスプレイのみに表示する設定になっている」の対処方法をご覧になり、操作してください。</p>
画面に何も表示されず、ワイヤレスディスプレイ部の状態表示ランプが短い間隔で点滅している	本体部が正常に起動していない	ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、再度電源を入れてください。上記で解決しない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に修理を依頼してください(→ P.109)
Windows が起動しない	周辺機器が正しく取り付けられていない	周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けられているか確認してください。
	上記の対処で解決しない	ハードウェアの診断を行ってください(→ P.104)。
本体部の電源ランプが点滅し、Windows が起動しない	—	ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ直してください。
ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスが使えない	ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの電源が入っていない	ワイヤレスキーボードまたはワイヤレスマウスの底面の電源スイッチをON側にしてください。
	ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスが正しく認識されていない	「キーボードやマウスをパソコンに再認識させる」(→ P.53) をご覧になり、再認識させてください。

症状	考えられる原因	対処方法
電源が切れない	Windows が動いていない	<p>ワイヤレスキーボードをお使いの場合は、次の手順で Windows を終了させてください。</p> <p>ハードディスクが動作しているときに電源を切ると、ファイルが失われたり、ハードディスクが壊れたりする可能性がありますので、ご注意ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔Ctrl〕 + 〔Alt〕 + 〔Delete〕 を押す。 〔Tab〕 で画面右下の〔U〕を選択して〔Enter〕 を押す。 カーソルキーで「シャットダウン」を選択して〔Enter〕 を押す。
	マウスが使えない	<p>ワイヤレスキーボードをお使いの場合は、次の手順で、Windows を終了させてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔Win〕 + 〔C〕 を押す。 カーソルキーで「設定」を選択して〔Enter〕 を押す。 カーソルキーで〔U〕を選択して〔Enter〕 を押す。 カーソルキーで「シャットダウン」を選択して〔Enter〕 を押す。
	上記の対処で解決しない	<p>ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。本体部の電源ボタンで操作してもかまいません。</p> <p>なお、ハードディスクに保存されていない作業中のデータは失われます。</p>

Point

- ▶ リセットスイッチについて
ワイヤレスディスプレイ部の画面が表示されない場合や、リンクボタンを押しても画面が表示されない場合は、ワイヤレスディスプレイ部背面のリセットスイッチを使用します（→ P.17）。
- リセットスイッチを使用するときは、次の点にご注意ください。
 - ・ワイヤレスディスプレイ部に手を添えてから押してください。手を添えずにリセットスイッチを押すと、ワイヤレスディスプレイ部が傾いたり、本体部との接続部分に力がかかるて壊れたりするおそれがあります。
 - ・クリップの先などを差し込むときは、できるだけ垂直に、堅い物を押す感覚があるところまで差し込んでください。
- ▶ このパソコンには、Windows が起動しなくなったとき、C ドライブにあるお客様のデータファイル（ドキュメントや画像など）を D ドライブにコピーする「かんたんバックアップレスキュー Light」が搭載されています。
お使いになるには、「トラブル解決ナビ」を起動し（→ P.105）、「ユーティリティ」の「かんたんバックアップレスキュー Light」をクリックしてください。なお、操作については、表示された「必ずお読みください」をご覧ください。

ワイヤレスディスプレイ部のトラブル

症状	考えられる原因	対処方法
ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押しても画面が表示されない	「起動・終了時のトラブル」の「画面に何も表示されない」の項目をご覧ください（→ P.100）。	画面が表示された後、System Utility の「ワイヤレスディスプレイからパソコン本体を起動」を「ON」に設定してください。詳しくは、「便利な機能のご紹介」の System Utility に関する説明（→ P.80）をご覧ください。 上記で解決しない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に修理を依頼してください（→ P.109）
「圏外」と表示された	本体部との距離が遠い	本体部に近づけて、ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを押してください。
	本体部と正しく接続されていない	ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、ワイヤレスディスプレイ部のリンクボタン（→ P.17）を 4 秒以上押してください。
	周囲の電波の影響を受けている	5GHz 帯を使用している機器が周りにないか確認し、その機器との距離を離すか、その機器の電源を切ってください。
音が出ない	消音（ミュート）になっている	ワイヤレスキー ボードの音量調節ボタン（消音）を押して、スピーカーを ON にしてください。詳しくは、「音量」（→ P.61）をご覧ください。
	音の出力先がワイヤレスディスプレイ部以外になっている	System Utility の「オーディオ出力設定」を「ワイヤレスディスプレイ／パソコン本体の自動切替」に設定してください。詳しくは、「便利な機能のご紹介」の System Utility に関する説明（→ P.80）をご覧ください。
	上記の対処で解決しない	ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、ワイヤレスディスプレイ部の電源ボタンを 5 秒以上押してください。

Point

- ▶ ワイヤレスディスプレイ部の取り扱いについて詳しくは、「取り扱い」（→ P.46）をご覧ください。

ここまでで確認でトラブルが解決しない場合

次の手順で表示される説明をご覧ください。

1 [□] を押して、スタート画面を表示します。

2 「富士通アドバイザー」をクリックします。

「富士通アドバイザー」の画面が表示された場合は、内容をよくお読みになり、「同意する」をクリックします。

また、「富士通アドバイザーをバックグラウンドで実行しますか?」と表示された場合は、「許可」をクリックします。

3 「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」をクリックします。

インターネットに接続して上記の操作を行うと、表示される内容が最新の状態に更新されます。

「富士通ハードウェア診断ツール」を使う

Windows が起動しなくなったときに、このパソコンのハードウェア (CPU、メモリ、ディスプレイ、ハードディスク、CD/DVD ドライブ) に問題がないか診断します。

●「トラブル解決ナビ」から起動できます。

●パソコン本体の電源を切り、あらかじめ周辺機器を取り外しておいてください。

●診断したいハードウェアを選択できます。

●診断時間は 5 ~ 20 分程度です。

■「富士通ハードウェア診断ツール」で診断する

1 「トラブル解決ナビ」を起動し (→ P.105)、「診断ツール」▶「富士通ハードウェア診断ツール」の順にクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「情報」ウィンドウが表示されます。

2 表示された注意事項をよく読み、「OK」をクリックします。

「情報」ウィンドウが閉じます。

3 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

診断時間は通常 5 ~ 20 分程度ですが、お使いのパソコンの環境によっては、長時間かかる場合があります。

Point

▶「CD/DVD/BD(E:) ドライブにCD-ROMまたはDVD-ROM をセットしてください。」などと表示された場合は、お手持ちの CD や DVD をセットして「診断開始」をクリックしてください。ただし、データが書き込まれていないディスクや、コピーガードされたメディア (映画などの DVD、およびコピーコントロール CD など) は使用できません。

▶診断を取りやめる場合は「キャンセル」をクリックしてください。

4 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

■エラーコードが表示された場合

メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。

■問題がない場合

診断後、「パソコンを以前の状態に戻す」(→ P.105) に進んでください。

5 「診断結果」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

6 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

7 「はい」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウに戻ります。

8 「終了」▶「シャットダウン」の順にクリックします。

パソコンの電源が切れます。

Point

▶ Windows が起動しなくなったときは、起動メニューから起動できる「診断プログラム」を使用してもハードウェアの障害箇所を診断できます。診断時間は通常 5 ~ 20 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

1. ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。
2. BIOS の設定をご購入時の状態に戻します。
3. 本体部に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
4. パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

5. ワイヤレスキーボードのサポートボタンを押します。
起動メニューが表示されます。
 6. **[↓]** を押して、「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、**[Enter]** を押します。
 7. 「診断プログラムを実行しますか?」または「Do you want to continue?」と表示されたら、**[Y]** を押してハードウェア診断を開始します。
ハードウェア診断が終了すると、診断結果が表示されます(お使いの機種によっては、いったんパソコンが再起動した後で診断結果が表示されます)。
- ・診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、サポートの窓口に伝えてください。
 - ・トラブルが検出されなかった場合
[Enter] を押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「情報」ウィンドウが表示されます。
この後の操作については、「「富士通ハードウェア診断ツール」で診断する」(→ P.104)をご覧ください。
 - ・トラブルが検出された場合
画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。その後、**[Y]** を押してパソコンの電源を切ってください。

パソコンを以前の状態に戻す

ハードウェアに問題がなく、マニュアルやインターネットのQ&Aでも解決できなかった場合は、パソコンが問題なく動作していた時点の状態に戻す、という解決方法があります。

ただし、この解決方法は、今まで作成したCドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまうなど、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。

本当に必要かどうか再度確認してください。

どうしても必要な場合は、注意事項を必ず確認したうえで行ってください。

このパソコンでは2つのやり方でパソコンを以前の状態に戻すことができます。

- 「バックアップナビ」で「パソコンの状態」を復元する詳しく述べ、「バックアップ」(→ P.90)をご覧ください。

「パソコンの状態」のバックアップを作成している場合、バックアップを作成した時点に戻すことができます。

バックアップ後に行った設定や作成したデータなどは削除されます。

- ご購入時の状態に戻す

詳しく述べ、「ご購入時の状態に戻す」(→ P.113)をご覧ください。

「パソコンの状態」のバックアップを作成していない場合は、ハードディスクの「リカバリ領域」のデータを使用し、ご購入時の状態に戻します。

ご購入時の状態に戻るため、再度セットアップが必要です。現在お使いの状態に戻すには、アプリをインストールしたり、データを復元したりなど大変手間がかかります。

「トラブル解決ナビ」を起動する

■ハードディスクから起動する

- 1 ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。
ワイヤレスディスプレイ部は横向きに取り付けてください。

- 2 本体部に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

- 3 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります(→ P.168)。

- 4 ワイヤレスキーボードのサポートボタンを押します。

起動メニューが表示されます。

- 5 **[↓]** を押し、「トラブル解決ナビ」または「Recovery and Utility」を選択して、**[Enter]** を押します。

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビディスク(リカバリ起動ディスク)」から起動する

- ◎「トラブル解決ナビディスク(リカバリ起動ディスク)」または◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」から「トラブル解決ナビ」を起動する方法です。パソコンを廃棄するときやリカバリ領域の削除/復元をするときなど、特別な操作をするときだけ行います。

- 1** ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。
ワイヤレスディスプレイ部は横向きに取り付けてください。
- 2** 本体部に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 3** パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります（→ P.168）。
- 4** ワイヤレスキーボードのサポートボタンを押します。
起動メニューが表示されます。
「アプリケーションメニュー」または「Application Menu」が表示された場合は、[Tab] を押して「起動メニュー」または「Boot Menu」に切り替えます。
- 5** ⑩「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」または⑩「トラブル解決ナビ＆ソフトウェア＆リカバリデータディスク」をセットします。
認識されるまで 30 秒ほど待ってから、次の手順に進んでください。
ディスクをセットする方法については、「ディスクをパソコンにセットする／取り出す」（→ P.67）をご覧ください。
- 6** [↓] を押して「CD/DVD」や「CD/DVD Drive」などを選択し、[Enter] を押します。

Point

- ▶ 「CD/DVD の起動モードを選択してください。」または「Please select CD/DVD boot mode:」という画面が表示された場合は、「UEFI モードで起動」または「UEFI Mode」を選択し、[Enter] を押します。

- 7** そのまましばらくお待ちください。

この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなったりすることがあります。故障ではありません。電源を切らずに、そのままお待ちください。

- 8** 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

■「トラブル解決ナビ」が起動しない場合の解決方法

「トラブル解決ナビ」が表示されない場合は、次のように対処してください。

- BIOS の設定をご購入時の状態に戻すと解決する場合があります（→ P.106）。

- 市販のアプリや、Windows の「ディスクの管理」で領域設定を変更している場合は、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を実行してください。
詳しくは、「ハードディスクの領域について」（→ P.151）をご覧ください。

□ BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

- 1** ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。
- 2** 本体部に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。
- 3** パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります（→ P.168）。
- 4** ワイヤレスキーボードのサポートボタンを押します。
起動メニューが表示されます。
- 5** [↓] を押し、「BIOS セットアップ」を選択して、[Enter] を押します。
BIOS の画面が表示されます。

Point

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、手順 3 から操作をやり直してください。
- ▶ BIOS の画面が表示されず、Windows も起動しない場合は、本体部の電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待った後、手順 4 から操作をやり直してください。

- 6** [←]、[→]、[↑]、または [↓] で「終了」または「Exit」メニュー▶「標準設定値を読み込む」または「Load Setup Defaults」の順に選んで [Enter] を押します。
- 7** 「はい」または「Yes」を選んで [Enter] を押します。
- 8** 「変更を保存して終了する」または「Exit Saving Changes」を選んで [Enter] を押します。
- 9** 「はい」または「Yes」を選んで [Enter] を押します。

BIOS セットアップについて詳しくは、「BIOS の設定」（→ P.153）をご覧ください。

富士通の窓口に相談する

ユーザー登録のご案内

■ユーザー登録とは

ご購入されたパソコンとお客様の情報を、富士通に登録していただくことです（入会費・年会費無料）。ユーザー登録をすると、1年間の無料電話相談などの手厚いサポートや専用の充実したサービスをご利用いただけます。

重要

- ▶ ご登録いただける住所は、日本国内のみとなります。

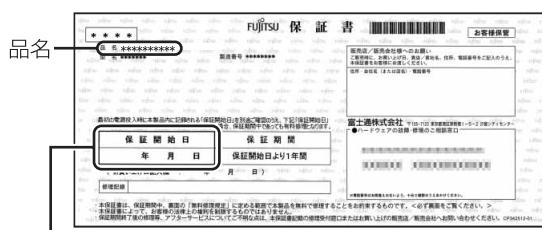
■ユーザー登録をする

ここではインターネットでユーザー登録する方法を説明します。操作できない場合など、ユーザー登録に関するお問い合わせは、「お問い合わせ窓口のご紹介」（→P.109）の「電話で相談する」をご覧ください。

□必要なものを用意してください

●保証書

製品の情報を確認するときに必要になります。
登録後も大切に保管してください。



保証開始日

Point

- ▶ 保証開始日に初めて電源を入れた日を記入してください。
保証開始日は「@メニュー」から確認できます。
「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にクリックし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をクリックしてください。

●筆記用具

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを本マニュアルに控えていただくときに必要になります。

□ユーザー登録方法

セットアップ後に表示された「はじめに行う設定」の「ユーザー登録を表示」のリンクをクリックすると、インターネットのユーザー登録専用ホームページが表示されます。

- 1 画面上の説明をお読みになり、手続きを行ってください。

ユーザー登録時に発行されるユーザー登録番号などを、次の欄に記入して、大切に保管してください。
記入後は第三者に漏れないよう注意してください。



Point

- ▶ ユーザー登録専用ホームページを表示するにはインターネットに接続する必要があります。
- ▶ ユーザー登録にはメールアドレスが必要です。
- ▶ スタート画面で「富士通パソコンユーザー登録」をクリックしてもユーザー登録専用ホームページを表示することができます。



サポート&サービス紹介

富士通のパソコンをより楽しく快適に利用いただくために、インターネット上のサポートページやサービスをご用意しております。

■サポートページ

<http://azby.fmworld.net/support/>

■会員専用サポート

マニュアルや、サポートページなどで確認しても、問題が解決できない場合、電話やメールで技術相談を受けられます。

詳しくは、「お問い合わせ窓口のご紹介」(→ P.109)をご覧ください。

The screenshot shows the FMV Support website interface. At the top, there's a navigation bar with links for 'ホーム' (Home), 'FAQ', '始める役立つ情報' (Useful Information), 'Windows 8.1 Updateの適用について' (About applying Windows 8.1 Update), and 'Windows 8.1へアップデートする前に動作確認情報をチェック' (Check system requirements before upgrading to Windows 8.1). Below the navigation, there's a search bar with placeholder text 'キーワードを入力して探す' (Enter keyword to search) and a '検索' (Search) button. There are several sections of Q&A and troubleshooting tips, each with a title and a link to more details. One section is titled 'Q&A・サポート情報' (Support Information Q&A). Other sections include '新規ユーザー登録' (New User Registration), 'ログイン' (Login), 'Windows 8 スタートガイド' (Windows 8 Start Guide), and 'パソコン活用情報' (Computer Usage Information). A sidebar on the right lists 'よくあるお問い合わせ' (Frequently Asked Questions) and '新着Q&A' (New Q&A). At the bottom, there's a link to the 'FMVサポート公式Twitterアカウント' (Official FMV Support Twitter Account).

(画面は状況により異なります)

富士通パソコンユーザーのためのサポートページです。過去に電話窓口などにお問い合わせいただいたときの履歴をご確認いただくことができます。

富士通からの重要なお知らせなど、役立つ内容があります。

□新着情報

すぐに使えるテクニックや、富士通パソコンユーザー向けのサービス情報などが毎週更新されます。

The screenshot shows the 'New Information' section of the FMV Support website. It features a large image of a person looking at a computer screen with a red 'X' on it, accompanied by the text 'パソコンの寿命ってどのくらい? 壊れてからでは遅すぎる!' (How long is a computer's lifespan? It's too late once it breaks!). To the right, there's a colorful graphic with the word '分散' (Distributed) and 'ミン' (Min). Below the main image, there's a list of new information items, with the first one being '私のスマホやアプリを勝手に仕事で利用していませんか? -【ウイル'.

■お問い合わせ窓口のご紹介

富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口

お客様に合わせた様々な方法でお問い合わせができます。

メール

Twitter

ネットで故障診断

電話予約

電話

が、ご利用できます。

技術相談も、修理相談もワンストップで解決！より便利に簡単にご利用できる窓口になりました。

富士通FMVサポートページ <http://azby.fmworld.net/support/> ※最新の情報はホームページをご覧ください。



“メール”で相談する

メール

ホームページ上の専用の質問フォームから送信いただいたFMVに関するお問い合わせを受け付け、Eメールで回答いたします。
Q&A・パソコン活用情報を検索後にお問い合わせいただけます。

1 Q&Aで調べる

2 質問フォームに入力する

3 メールで回答

各Q&Aページの下の方に質問フォームを表示するボタンがあります。

Q&Aで問題が解決しないときは、下記の方法もお試しください。



詳しい人に聞く
-OKCorporation-



メールサポートを利用する



サポートコール予約を利用する

*ユーザー登録が必要となります。

パソコン スマートフォン



“Twitter”でアドバイスを受ける

Twitter

Twitter のFMV公式アカウントを、ぜひフォローしてください。
お役立ちQ&Aをご紹介します。お困り内容をつぶやくと、担当者からアドバイスが届くことも！（「富士通」「FMV」「My Cloud」などの言葉を交えてツイートしてみましょう）

FMV公式アカウント：@Fujitsu_FMV_QA

*お問い合わせにはTwitterへのログインが必要となります。

*お客様に沿った案内が必要な場合は、メールでの相談をご案内する場合がございます。

*お問い合わせいただいたすべてのご質問にお答えできない場合もございます。

*Twitterの特性を最大限に生かすため、お客様とのやりとりはみなさまに見える状態でツイートいたします。

パソコン スマートフォン



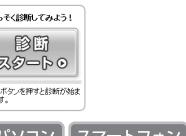
“インターネットで故障を診断”する

ネットで故障診断

画面にしたがって状況を確認したり設定を変更したりするだけでトラブルを診断し、解決方法をアドバイスします。

故障と診断された場合は、その場で修理申し込みができます。

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>



電話予約

電話



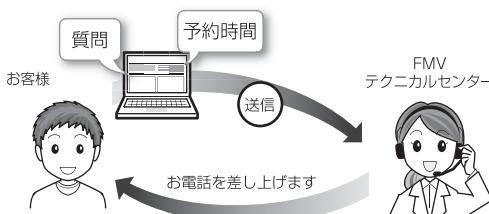
“電話”で相談する

※ご利用料金に関しては、次ページの
「ご利用料金とお支払いについて」をご覧ください。

電話相談の“予約”をする

お客様がホームページより予約された時間帯に、FMVテクニカルセンターのサポート担当者からお電話を差し上げ、ご予約の際に入力されたご質問にお答えします。

<https://azby.fmworld.net/callback/>



*ユーザー登録が必要となります。

*富士通からお電話をかける連絡先は、日本国内に限らせていただきます。
また日本語対応のみとなります。

パソコン スマートフォン

お困りごとのご相談はこちら

通話料無料 0120-950-222

受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら 045-514-2255
(通話料金お客様負担)

受付時間：9:00～17:00

修理受付はこちら

通話料無料 0120-926-220

受付時間：9:00～19:00(注)

携帯電話、PHS、IP電話、海外からはこちら 045-514-2260
(通話料金お客様負担)

受付時間：9:00～17:00

注：受付時間は窓口によって異なります。ガイドラインに従ってご利用ください。

※電話番号はお間違えのないように、十分ご確認のうえおかけください。

※システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。

※音声ガイドライン内容・操作方法・受付時間は、予告なく変更させていただく場合があります。

※ユーザー登録されている電話番号をお客様の発信番号が一致した場合には、ユーザー登録番号の入力が省略できます。

※通知設定による発信や、ユーザー登録されている番号と異なる発信番号等、一部ユーザー登録情報の確認ができない場合は、音声ガイドラインの指示に従ってユーザー登録番号を入力してください。

□ご利用料金とお支払いについて

●ご利用料金

- ・パソコン本体に初めて電源を入れた日（保証開始日）から、**1年間無料**でご利用いただけます。[注]

注：Refreshed PCに関する電話による技術サポートに関しては、1年目もお問い合わせ1件あたり2,060円（税込）となります。
また、受付時間は月～金曜日（祝日を除く）9時～17時となります。

・2年目以降

お問い合わせ1件あたり2,060円（税込）

※ My CloudカードまたはAzbyClubカードでお支払いの場合は、1,540円/件（税込）でご利用いただけます。My CloudカードおよびAzbyClubカードについて詳しくは、(<http://azby.fmworld.net/members/mycloudcard/>)をご覧ください。

※ プレミアムサービスに利用登録されているお客様のご利用料金につきましては、プレミアムサービスの専用ホームページにてご案内いたします。

Point

- ・お問い合わせ1件は、お電話の回数ではなく、技術相談1項目ごとに1件と扱います。同じご相談内容であれば次回お問い合わせいただく際、料金は加算いたしません。（ただし14日以内に限ります）

●お支払い方法

お支払い方法は、音声ガイダンスに従って、次のいずれかを選択してください。

クレジットカード支払い	音声ガイダンスで、クレジットカード番号、有効期限の入力をお願いします。
コンビニ振込	コンビニ振込をご利用の場合は、手数料が別途210円かかります。

□お問い合わせ前に確認してください

●「サポートページ」(<http://azby.fmworld.net/support/>)で解決方法を確認しましたか？

知りたい情報やトラブル解決方法をお調べいただけます。

●ユーザー登録はしましたか？

電話サポートの利用にはユーザー登録が必要です。
ユーザー登録方法は「ユーザー登録のご案内」(→P.107)をご覧ください。

●アプリのお問い合わせ先を確認しましたか？

各アプリ提供会社のお問い合わせ先は、「メールやOfficeで困ったときは」(→P.97)および「ウイルス対策アプリなどで困ったときは」(→P.98)をご覧ください。

●お使いのパソコンをお手元にご用意いただけますか？

お電話中に操作を行っていただく場合がございますので、お手元にご用意ください。

●データのバックアップはしましたか？

大切なデータの予備を保存しておくと、安心です。
バックアップ方法については、「バックアップ」(→P.90)をご覧ください。

■修理を申し込む前の準備

●故障かどうかをもう一度ご確認ください

パソコンのトラブルは、設定の誤りなど、故障以外が原因のこともあります。実際に「故障や修理に関する受付窓口」へのお電話の半数以上は、パソコンの故障ではなく、設定を変更することで問題が解決しています。

「ネットで故障診断」(<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>)で、本当にパソコンが故障しているか確認してください。

●修理規定をご確認ください

お申し込み前に必ず「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」(→P.170)を確認のうえ、同意をお願いします。

●修理料金の目安を確認できます

ホームページで概算修理料金をご覧ください。
<http://azby.fmworld.net/support/repair/syuribin/charge.html>

●保証書をお手元にご用意ください

保証期間は、初めてパソコン本体の電源を入れた日（保証開始日）から1年間となります。保証期間内は無料で修理させていただきます。

ただし、保証期間内でも有料となる場合があります。詳しくは、保証書裏面「無料修理規定」を確認してください。

Point

- ▶ 保証開始日は「@メニュー」から確認できます。「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」の順にクリックし、「パソコンの情報」が表示されたら「実行する」をクリックしてください。

●故障品をお手元にご用意ください

お申し込み時に操作いただく場合があるため、お手元に故障品をご用意ください。

●データのバックアップをおとりください

修理前の診断作業および修理の結果、記憶装置（ハードディスクなど）内に記録されたお客様データが消失する場合があります。弊社ではいかなる作業においても、お客様のデータの保証はいたしかねるため、大切なデータは必ずお客様自身でDVDなどのディスクや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

バックアップの方法については、「バックアップ」（→ P.90）をご覧ください。

また、パソコンの故障などによりお客様がバックアップできない場合には、「PC データ復旧サービス」（有料）もご利用いただけます。

PCデータ復旧サービス（有料）

<http://azby.fmworld.net/datarescue/>

■修理の申し込み

パソコンの修理は、ホームページまたは電話でお申し込みください。

□ホームページで申し込む（ネットで故障診断）

「ネットで故障診断」では、パソコンが故障しているかどうかを調べることができます。

故障と診断された場合は、ホームページから修理を申し込むことができます。

ネットで故障診断

<http://azby.fmworld.net/webpcrepair/>

□電話で申し込む

「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.109）の「修理受付はこちら」をご覧ください。

重要

- ▶ 修理のために交換した故障部品は返却しません。あらかじめご了承ください。
- ▶ 修理のお申し込みの際は、お客様の名前や電話番号をお伺いいたします。お客様の個人情報の取り扱いについては「富士通パーソナルコンピュータ修理規定」（→ P.170）の第13条（個人情報の取り扱い）をご覧ください。

■お引き取りとお届け（パソコン修理便）

弊社指定の宅配業者がご自宅へパソコンをお引き取りに伺います。

お引き取りから修理・お届けまで約7日間です（土・日・祝日を含む）。[注]

注：修理の内容によっては、日数を要する場合があります。
また、離島の場合は船便のための日数がかかります。

□お引き取り日時について

お引き取りは、修理受付の翌日以降、弊社設定の時間帯（9:00～21:00[注]）で指定できます。

注：地域により異なります。お申し込み時にご確認ください。また、交通事情などにより指定日時にお伺いできない場合があります。

□お引き取りについて

宅配業者が指定日時にご自宅へ伺います。

梱包は宅配業者が行いますので、故障品は梱包せずに玄関先にご準備ください。

重要

- ▶ 次の各種パスワードは事前に解除してください。確認のために修理作業が中断し、修理に時間がかかる場合があります。

- ・ BIOS パスワード
- ・ ハードディスクパスワード

●保証書を用意してください（保証期間中の場合）。宅配業者が故障品といっしょに梱包いたします。

●宅配業者がお渡しする「お預かり伝票」を大切に保管してください。

●お引き取り後のキャンセルについては、診断料を申し受けます。あらかじめご了承ください。

●「修理状況確認サービス」

（<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>）
で携帯電話やスマートフォン、パソコンのメールアドレスをご登録ください。故障品の当社への到着、お見積もり発行時の連絡、修理完了品の発送、お届け予定日などをメールでお知らせします。

□お届けとお支払いについて

修理完了品を玄関先までお届けします。有料の場合は代金引換払いとなりますので、宅配業者に現金でお支払いください。

●修理料金について

- ・保証期間内（保証開始日より1年間）：無料（保証書記載の「無料修理規定」による）
 - ・保証期間外：有料（修理にかかる部品代、技術料等）
- ※ 交通事情などにより、ご指定の日時にお伺いできない場合があります。

■修理状況の確認

ホームページや電話で、修理状況を確認できます。

- ホームページで確認する（修理状況確認サービス）
パソコン、スマートフォン、携帯電話（iモード、Ezweb、Yahoo!ケータイ）で「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）を入力して、修理状況を確認できます。

修理状況確認サービス

パソコン・スマートフォン・携帯電話から
<http://azby.fmworld.net/support/pcrepair/>



バーコード読み取り機能付きのスマートフォンや携帯電話では、右のバーコードからアクセスいただけます。

※ 携帯電話、スマートフォンの操作方法については、お使いの機種のメーカーにお問い合わせください。

□電話で確認する

音声ガイダンスに従ってダイヤルを押してください。「お預かり伝票」の「修理お問合せ番号」（8桁の番号）と、修理お申し込み時にご登録されたお電話番号を入力してください。

富士通修理お問い合わせダイヤル

キューニーロク ニーニーマル

0120-926-220

➡ ダイヤル **3** をプッシュ

通話料無料 / 受付時間：24時間365日

携帯電話、PHS、海外からはこちら

ゴーアイチヨン ニーニーロクマル

045-514-2260

（通話料金お客様負担）

受付時間：9:00～17:00

※ システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合があります。

■訪問修理サービス（有料）

弊社指定の修理サービス会社がご自宅に伺い、その場で修理を行う有料サービスです。

ご利用料金は、修理作業完了後に、修理担当者に現金でお支払いください。

●訪問修理の料金体系

	訪問料金	修理料金
保証期間内 (保証開始日より 1年間)	有料	無料 (保証書記載の「無料修理規定」による)
保証期間外	有料	有料

※ 離島の場合は、訪問料金とは別に、訪問に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をご負担いただく場合があります。

訪問修理サービスの詳細は、「お問い合わせ窓口のご紹介」（→ P.109）の「修理受付はこちら」にお問い合わせください。

■PC引取点検サービス（有料）

パソコンを安心して長く使っていただくために、ハードウェア・アプリの点検や、パソコン内部の清掃を行う有料サービスです。

PC引取点検サービス

<http://azby.fmworld.net/support/repair/tenken>

ご購入時の状態に戻すリカバリとは

リカバリとは、パソコンを以前の状態に戻す操作です。

「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.100) と「富士通アドバイザー」のトラブル解決をご覧になり、すべて対処しても解決しなかった場合のみ行います。

ここではCドライブをご購入時の状態に戻すリカバリについて説明します。

●ご購入時の状態に戻すリカバリの仕組み

Cドライブをご購入時の状態に戻すリカバリは、ハードディスクの「リカバリ領域」という場所に保存されているデータを使用します。

「リカバリ領域」のデータでCドライブをまるごと上書きします。

Point

- ▶ 「リカバリ領域」を削除している場合や「リカバリ領域」が破損してしまった場合にのみ、「リカバリディスクセット」を使用してリカバリします。詳しくは「ディスクが必要な場合」(→ P.114) をご覧ください。

●現在のCドライブのデータについて

Cドライブをまるごとご購入時の状態にするため、今まで作成したCドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまいます。そのためリカバリ後には、セットアップを行ったり、必要に応じてアプリをインストールしたり、現在お使いの状態に戻すには大変手間がかかります。

重要

- ▶ リカバリする場合は必ず、バックアップをとつてください。

ご購入時の状態に戻すリカバリの準備

ご購入時の状態に戻すリカバリの注意

■必ずバックアップをとってください

リカバリを行うと、Cドライブのデータはすべて削除されます。

必要なデータはバックアップしてください。

- Windowsが起動できるときは、「バックアップ」(→ P.90) をご覧ください。

- Windowsが起動できないときは、「かんたんバックアップレスキューLight」でバックアップできる場合があります(→ P.100)。

■必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、本体部にACアダプタを接続してください

■外付けハードディスクやUSBメモリは必ず取り外してください

リカバリを行う前に必ず取り外してください。接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

■ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス以外の周辺機器（プリンター、デジタルカメラ、スキャナーなどの装置、HDMI入力／出力端子、USBコネクタに接続しているすべての周辺機器）は取り外してください

アンテナケーブルやLANケーブルなどもすべて抜いてください。接続したままだとマニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■メモリーカードは取り出してください

メモリーカードをセットしていると、マニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

■ファイルコピー中は他の操作をしないでください

むやみにクリックせず、しばらくお待ちください。他の操作をすると、リカバリが正常に終了しない場合があります。

■時間に余裕をもって作業しましょう

リカバリ実行からアプリのインストール終了まで、早く終了する機種でも2～3時間はかかります。半日以上は時間をとり、じっくりと作業することをお勧めします。

- 「リカバリディスクセット」はハードディスク全体をリカバリする場合などにも使用します。詳しくは「ハードディスクの領域について」の「リカバリ領域を復元する」(→P.152)をご覧ください。

作業中に起こる可能性のあるトラブルの解決方法

■画面が真っ暗になった

画面が真っ暗になった場合は、省電力機能が働いた可能性があります。

マウスを動かして数秒待つか、マウスのボタンを1回押してください。または、キーボードの
↑ ↓ ← → や Shift を押してください。
それでも復帰しない場合は、ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンをポチッと押してください。本体部の電源ボタンで操作してもかまいません。

■電源が切れない

ワイヤレスキーボードのパソコン電源ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。本体部の電源ボタンで操作してもかまいません。

ディスクが必要な場合

- リカバリ領域を削除している場合、リカバリ領域が破損してしまった場合は、「リカバリディスクセット」が必要です

- ディスクがない場合や破損してしまった場合、弊社のホームページから購入できます

「リカバリディスク有償サービス」

<http://azby.fmworld.net/support/attachdisk/>

ただし、富士通ショッピングサイト「WEB MART」で購入したモデルの「リカバリディスクセット」は電話で申し込んで購入してください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
0120-950-222（通話料無料）

- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種でディスクを使ってリカバリする場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください

- ・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。
- ・リカバリを開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。

ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する

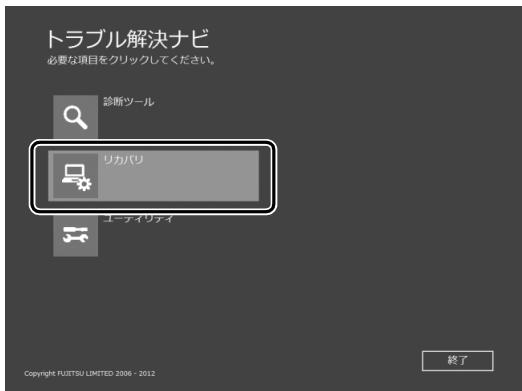
準備ができたらリカバリを実行します。ハードディスクのCドライブの内容がいったんすべて消去され、リカバリ領域（または「リカバリディスクセット」）からWindowsやアプリがインストールされてご購入時の状態に戻ります。

Cドライブを初期状態に戻す

1 「トラブル解決ナビ」を起動します。

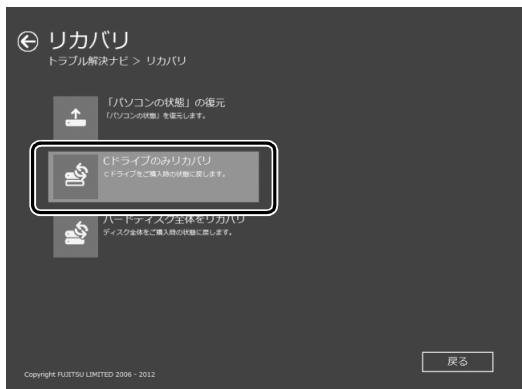
「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.105)をご覧ください。

2 「リカバリ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

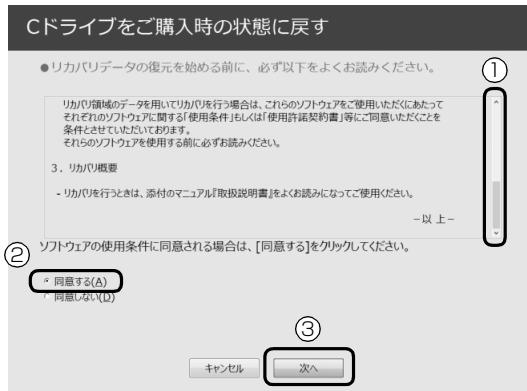
3 「Cドライブのみリカバリ」をクリックします。



4 「次へ」をクリックします。



5 「ご使用上の注意」の内容を確認し、次の画面の操作をします。



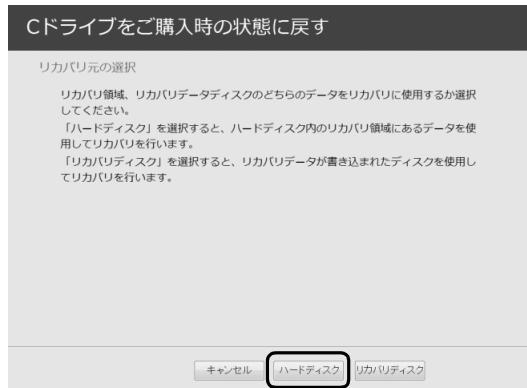
①「ご使用上の注意」を下までスクロールして確認します。

「同意する」が選択できるようになります。

②「同意する」をクリックして④にします。

③「次へ」をクリックします。

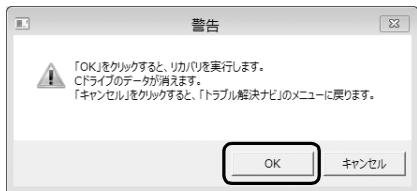
6 「ハードディスク」をクリックします。



Point

- ▶ ハードディスクにリカバリデータがない場合など、リカバリディスクセットを使用してリカバリする場合、「リカバリディスク」をクリックしてください。ディスクを用意し、画面の指示に従って操作してください。

7 警告画面で、「OK」をクリックします。



復元の進行状況を示す画面が表示され、ご購入時の状態に戻すリカバリが始まります。

リカバリ途中で計算し直しているため、終了までのパーセンテージは正確に表示されない場合や増える場合があります。

8 そのまましばらくお待ちください。

しばらくすると、「ディスクの復元が完了しました。」と表示されます。

9 「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

Windows のセットアップをする

これで Windows がご購入時の状態に戻りました。この後、ご購入後初めて電源を入れたときと同じように、Windows のセットアップが必要です。「セットアップする」(→ P.19) をご覧になり、セットアップしてください。

なお、電源は 30 秒以上待ってから入れてください。

Point

- ▶ 「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、「地域と言語」の画面が表示されるまで 30 分以上かかることがあります。ご了承ください。

■セットアップ時の注意事項

- ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- すでに Microsoft アカウントを取得されているため、「Windows のセットアップをする」の手順 13 では Microsoft アカウントを入力し、「次へ」をクリックしてください。その後は画面の指示に従って操作してください。

Point

- ▶ Office搭載機種で、「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、Office がインストールされた状態にリカバリされません。

セットアップ後に、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。

インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

ディスプレイ

本体部をパソコン本体、ワイヤレスディスプレイ部をパソコン本体の液晶ディスプレイとして説明しています。

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次のディスプレイやテレビにも表示することができます。

■接続できるディスプレイ

- パソコン本体の外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ（外部ディスプレイコネクタ搭載機種のみ）
- パソコン本体のHDMI出力端子に接続したデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）（HDMI出力端子搭載機種のみ）

Point

- ▶パソコン本体に外部ディスプレイコネクタはありませんが、別売のVGA変換ケーブルを使って接続することもできます。ただし、VGA変換ケーブルを使って外部ディスプレイをアナログ接続した場合、著作権保護されたBlu-ray Disc（Blu-ray Discドライブ搭載機種のみ）やDVDの映像の視聴はできません。

■注意事項

ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。

- アプリによっては、解像度の設定により、正常に動作しないことがあります。アプリの動作環境を確認し、解像度を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイやデジタルテレビの場合、最大解像度は、パソコン本体の液晶ディスプレイまたは接続したディスプレイの、どちらかの最大解像度の小さい方に設定されます。

- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→P.119）の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のアプリや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。
- HDMI出力端子で出力した場合、出力先のデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」などに変更してください。
- 詳しく述べ、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

解像度（ピクセル）	発色数 ^{〔注〕}
1024 × 768	
1280 × 720	
1280 × 800	
1280 × 1024	
1360 × 768	
1366 × 768	
1440 × 900	
1600 × 900	
1680 × 1050	
1920 × 1080	約1677万色

注 摘似的に色を表示するディザリング機能を利用

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する とできること

パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2つのディスプレイに同時に表示する。
- 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。
- 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。

Point

- ▶ HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、System Utilityの「オーディオ出力設定」で設定が必要な場合があります（HDMI出力端子搭載機種のみ）（→P.80）。

■必要なものを用意する

□外部ディスプレイやデジタルテレビ

外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれ次のコネクタなどに接続します。接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

●外部ディスプレイをアナログ接続する場合

外部ディスプレイコネクタに接続します。

Point

- ▶ パソコン本体に外部ディスプレイコネクタはありませんが、別売のVGA変換ケーブルを使って接続することもできます。ただし、VGA変換ケーブルを使って外部ディスプレイをアナログ接続した場合、著作権保護されたBlu-ray Disc（Blu-ray Discドライブ搭載機種のみ）やDVDの映像の視聴はできません。

●デジタルテレビや外部ディスプレイでHDMI対応の ものを接続する場合

HDMI出力端子に接続します。

□ケーブル

外部ディスプレイやデジタルテレビとパソコンを接続するケーブルです。

●ディスプレイケーブル

外部ディスプレイコネクタとの接続時に使用します。

●HDMIケーブル

HDMI出力端子との接続時に使用します。

●別売のVGA変換ケーブル

別売のVGA変換ケーブルとディスプレイケーブルを使用することで、パソコン本体のHDMI出力端子に、外部ディスプレイをアナログ接続することができます。

□外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル

外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

■外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する

⚠ 警告



- 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体にケーブルを接続します。

接続するコネクタにより使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、「必要なものを用意する」（→P.118）をご覧ください。

また、コネクタの場所については、「各部の名称と働き」（→P.38）をご覧ください。

3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

- 5** パソコン本体の電源ケーブルをコンセントに差し、電源を入れます。
必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイやデジタルテレビに CD-ROM などで必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。

Point

- ▶ 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしていても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ▶ パソコン本体の液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度については、「解像度と発色数についての注意」(→ P.117)をご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数

□ HDMI出力端子に接続したデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）の場合（HDMI出力端子搭載機種のみ）

接続したデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）がサポートしている次の解像度を表示できます。デジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）がこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）のマニュアルをご覧ください。

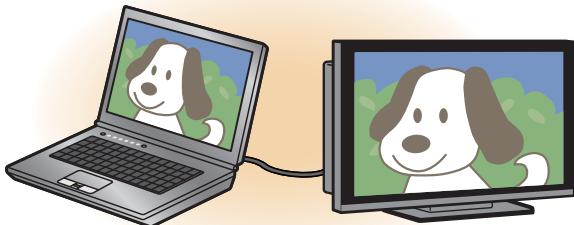
解像度（ピクセル） <small>〔注1〕</small>	発色数
1024 × 768	
1280 × 720	
1280 × 800	
1280 × 1024	
1360 × 768	
1366 × 768	
1440 × 900	
1600 × 900	
1600 × 1200	
1680 × 1050	
1920 × 1080	
1920 × 1200	
1920 × 1440	
2560 × 1440	
2560 × 1600	
3840 × 2160 <small>〔注2〕</small>	約 1677 万色
4096 × 2160 <small>〔注3〕</small>	

注 1 接続したデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）の解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2 リフレッシュレートは 30Hz になります。

注 3 リフレッシュレートは 24Hz になります。

□パソコン本体の液晶ディスプレイとデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）の同時表示の場合



●同時表示を行う場合、ワイヤレスディスプレイ部の画面が回転すると外付けディスプレイ（デジタル）の画面も同期して回転します。

●ワイヤレスディスプレイ部を回転した後、HDMIケーブルを抜くと、画面表示の向きが変わってしまう場合があります。その場合はワイヤレスディスプレイ部を回転させて表示の向きを変えてください。

●パソコン本体の液晶ディスプレイとデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）に同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

・パソコン本体の液晶ディスプレイ

メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook、デジタルテレビ [ディスプレイ型名]）

・デジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）
2番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：デジタルテレビ [ディスプレイ型名]（またはデジタルテレビ2）

接続したデジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）がサポートしている次の解像度を表示できます。

解像度（ピクセル）	発色数 ^[注]
1024 × 768	
1280 × 720	
1280 × 800	
1280 × 1024	
1360 × 768	約 1677 万色
1366 × 768	
1440 × 900	
1680 × 1050	
1920 × 1080	

注 パソコン本体の液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用

□マルチモニターの場合



●マルチモニター機能をお使いになる場合、ワイヤレスディスプレイ部の画面表示を回転させても、デジタルテレビや外部ディスプレイ（デジタル）の画面表示は回転しません。

●マルチモニター機能をお使いになるとときは、表示するディスプレイを次のように設定してください。

・パソコン本体の液晶ディスプレイ
メインディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook、デジタルテレビ [ディスプレイ型名]）

・外部ディスプレいやデジタルテレビ
2番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PC モニター [ディスプレイ型名]（または PC モニタ、デジタルテレビ、デジタルテレビ2）

お使いのディスプレイなどに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

重要

- ▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて
解像度を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。

1 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。



2 デスクトップ画面の何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

3 解像度を変更します。

「解像度」の▼をクリックし、表示される画面で解像度を選択します。



➡ をドラッグします。

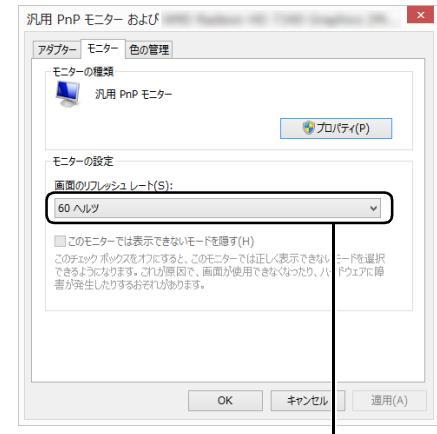
接続した外部ディスプレいやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、「ディスプレイ表示の変更」でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレいやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックします。

■リフレッシュレートの変更

- 1.「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。
- 2.リフレッシュレートの▼をクリックし、表示されるメニューからリフレッシュレートを変更します。



▼をクリックして選びます。

3.「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックし、「OK」をクリックします。

5 「OK」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。

ここでは、切り替え方法について説明しています。



■ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。なお、お使いのパソコンにより搭載されているコネクタが異なります。

●1つのディスプレイで表示する

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイ
- ・外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイ
- ・HDMI出力端子に接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで同時に表示する

- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
- ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したデジタルテレビ
- ・外部ディスプレイコネクタに接続したアナログディスプレイと、HDMI出力端子に接続したデジタルテレビ

●2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する



2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」(→P.124)をご覧ください。

重要

- ▶ 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。
- ▶ Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) の映像は、パソコン本体の液晶ディスプレイおよび HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイにのみ表示できます。

Point

- ▶ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイには、BIOS セットアップの画面を表示することはできません。
- ▶ Windowsが起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。
ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、パソコン本体の液晶ディスプレイのみの表示になります。
- ▶ お使いのテレビによってはテレビの解像度がパソコン本体の液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

■デスクトップ画面から切り替える

Point

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
 - ・何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ほどで表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻ります。表示先がパソコン本体の液晶ディスプレイに戻らないときは、[□] + [P] を押して、表示先を切り替えてください。
 - ・正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。

- スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
- 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- デスクトップ画面の何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィックス・プロパティ...」をクリックします。
「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。
- 「ディスプレイ」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

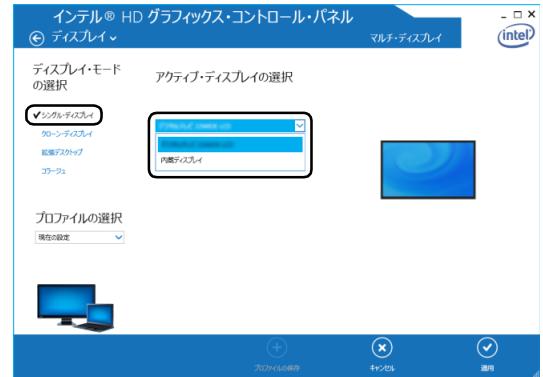
- 「ディスプレイ」をクリックし、「マルチ・ディスプレイ」をクリックします。



- 表示するディスプレイを選択します。

■ 1つのディスプレイで表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「シングル・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の▼をクリックし、表示するディスプレイを選択します。



■ 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「ディスプレイ・モードの選択」の「クローン・ディスプレイ」をクリックした後、「アクティブ・ディスプレイの選択」の▼をクリックし、表示するディスプレイを選択します。このとき、最上段は「デジタルテレビ [ディスプレイ型名]」に設定してください。



■マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。



□マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコン本体の液晶ディスプレイをメインディスプレイ（プライマリデバイス）、接続したディスプレイを2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）に設定してください。
- マルチモニター機能の使用中のご注意
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
 - ・2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）のみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）の使用を終了しないでください。アプリおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- メインディスプレイ（プライマリデバイス）のみで表示されるもの
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・一部のスクリーンセーバー
 - ・動画再生画面の全画面表示
 - ・アクセラレーター機能を使用しての動画再生画面

□マルチモニター機能を設定する

- 1 外部ディスプレイをパソコンに接続します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 3 デスクトップ画面の何もないとこを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。
- 4 「複数のディスプレイ」の▼をクリックして「表示画面を拡張する」を選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

- 5 「適用」をクリックします。

- 6 確認のウィンドウが表示されたら「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

□ディスプレイの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのディスプレイの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 マルチモニター機能を設定します。
- 2 スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 3 デスクトップ画面の何もないとこを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

■マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを左右に並べます。



左右に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

■マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。



上下に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

5 「適用」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

■キーボードで切り替える

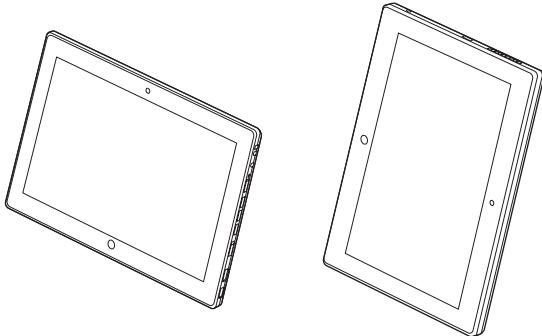
キーボードで表示する画面を切り替えるには、**[Alt]** + **[P]** を押し、カーソルキーで表示方法を選んで、**[Enter]** を押してください。



- ▶ プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「デスクトップ画面から切り替える」(→ P.122) をご覧ください。
- ▶ キーボードで切り替える場合には、クローンディスプレイのメインディスプレイの変更はできません。メインディスプレイは、自動的に以前に設定したディスプレイになります。

画面表示の回転

横向きでも縦向きでもパソコンを操作できます。画面表示の向きは手動で変更したり、ワイヤレスディスプレイ部の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます。



■注意事項

画面表示の向きの設定は、Windows が起動している場合にのみ有効です。

■状態が変わったときの動作を設定する

□System Utility で設定を変更する

ワイヤレスディスプレイ部の向きを変えたときに、自動的に表示の向きを変えるかどうかを設定できます。「System Utility (GH series)」ウィンドウの「自動回転設定」タブで ON / OFF を切り替えます。詳しくは「System Utility」(→ P.80) をご覧ください。

インテル WiDi を使う

この項目は、インテル WiDi 搭載機種の方のみお読みください。

ここでは、インテル WiDi を使うために必要なものや、接続方法について説明しています。

■インテル WiDi とは

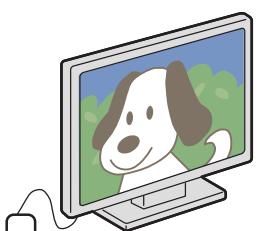
インテル WiDi (ワイダイ) とは、このパソコンに搭載されている無線 LAN 機能を利用して、パソコンの画面やパソコンに保存している動画などをワイヤレスでテレビや外部ディスプレイに表示する機能です。

インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能なテレビや外部ディスプレイ（別売）

本パソコン



インテル WiDi 用受信アダプター（別売）



■お使いになるうえでの注意

- インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものが必要です。
 - ・別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
 - ・インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能な、別売のテレビや外部ディスプレイ (1280 × 720 ドット以上の解像度をサポートしたもの)
- 同時に使用できるディスプレイは、パソコン本体の液晶ディスプレイと、インテル WiDi で表示しているディスプレイの2つまでです。
- BIOS セットアップの画面、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面はテレビや外部ディスプレイに表示できません。
- インテル WiDi で接続するときは、System Utility で、音の出力先を「設定しない」に設定してください (→ P.80)。音声は接続したテレビや外部ディスプレイからの出力に切り替わります。
- インテル WiDi で表示した画面では、マウスカーソルやウィンドウの移動、入力した文字などの表示には遅延が生じます。

- 動画コンテンツを表示する場合、再生する映像によっては、パソコンの画面やスピーカーで再生する場合に比べて画質や音質が低下し、なめらかな映像が視聴できない場合があります。
- 特に、AVCHD 形式の動画などは、映像再生の負荷が高いため、映像が乱れたり音声が途切れたりする場合があります。
- ご利用のインテル WiDi 用受信アダプター（別売）によっては、著作権保護機能が使用されている動画を再生するときに、アダプターのアップデートが必要になる場合があります。
- 高ビットレートの動画を再生すると、なめらかに再生されない場合があります。
- インテル WiDi は無線 LAN を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因でテレビや外部ディスプレイに画面が表示されない場合があります。無線 LAN について、詳しくは「無線 LAN」（→ P.137）をご覧ください。
- インテル WiDi は無線 LAN を使用しますが、Web サイト閲覧など、通常のインターネット接続と同時にご利用いただけます。
- インテル WiDi と無線 LAN でのインターネット接続を同時に使いになる場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続を完了させてから、インテル WiDi の接続を行ってください。

■必要なものを準備する

インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものが必要です。

- 別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
- 別売の、インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能なテレビや外部ディスプレイ
インテル WiDi 用の受信アダプターに添付されているマニュアルをご覧になり、対応したものをご用意ください。

■インテル WiDi を使う

- 1 テレビや外部ディスプレイに、別売のインテル WiDi 用の受信アダプターを接続します。
接続方法については、お使いのテレビや外部ディスプレイと、受信アダプターのマニュアルをご覧ください。
- 2 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、□（デバイス）をクリックします。

- 3 「デバイスチャーム」から「表示」をクリックします。

この後は、状況により操作が異なります。お使いの状況にあわせてご覧ください。

□お使いのディスプレイを初めて接続する場合

- 1 「ワイヤレスディスプレイの追加」をクリックします。



「デバイスの追加」の画面が表示されます。

- 2 接続対象のディスプレイをクリックします。



- 3 「テレビの WPS PIN を入力してください」と表示されたら、接続対象のディスプレイに表示されている 8 衔の数字を入力し、「次へ」をクリックします。
表示されるまでに時間がかかる場合があります。



- 4 接続対象のディスプレイに画面が表示されます。
表示されるまでに時間がかかる場合があります。

□接続しているディスプレイを切斷する場合

1 「切斷」をクリックします。



〔Windows〕+〔P〕を押した後に「切斷」を選ぶことで切斷することもできます。

□切斷した後に再度接続する場合

1 接続対象のディスプレイをクリックします。



Point

▶ 表示するディスプレイを切り替えるときは 〔Windows〕+〔P〕を押します。2つのキーを押すごとに、「複製（パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

なお、テレビや外部ディスプレイに表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.119）をご覧ください。

サウンド

Point

▶ 本体部、ワイヤレスディスプレイ部のどちらのスピーカーから音を出すか System Utility で設定することができます。詳しくは、「System Utility」（→ P.80）をご覧ください。

再生時／録音時のサウンドを調節する

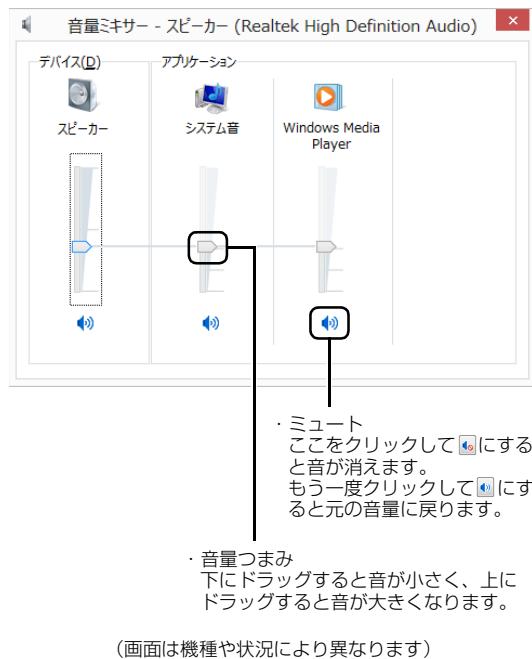
このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

■デスクトップアプリごとに音量を調節する

デスクトップアプリは「音量ミキサー」ウィンドウでアプリごとに音量を調節できます（一部のデスクトップアプリには個別に調節できないものもあります）。

- 1 音量を調節したいデスクトップアプリを起動します。
- 2 画面左下隅の□を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると□が表示されます。
- 3 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックし、「システム音量の調整」をクリックします。
「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。

- 4 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



・デバイス

このパソコンのスピーカーから出る音量です。デスクトップ画面右下の通知領域の「音量つまみ」で設定した音量と同じです。

HDMI 出力端子に接続したテレビから音を出す場合は、「HDMI デバイス」と表示されます (HDMI 出力端子搭載機種のみ)。

・アプリケーション

起動しているデスクトップアプリごとに音量を調節できます。「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

・音量つまみ

下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

・ミュート

ここをクリックして [音] になると音が消えます。もう一度クリックして [音] になると元の音量に戻ります。

- 5 (閉じる) をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

■再生や録音する機器ごとに音量を調節する

Point

次の手順で音声の出力先を変更しても、本体部とワイヤレスディスプレイ部を取り外したり取り付けたりすると、System Utility の設定によっては、音声の出力先が変更されてしまうことがあります。

□再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出したい場合も、次の手順で再生する機器を選択してください (HDMI 出力端子搭載機種のみ)。

- 1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

- 2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

- 3 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。



選択した機器にチェックマークが付きます。

- 4 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

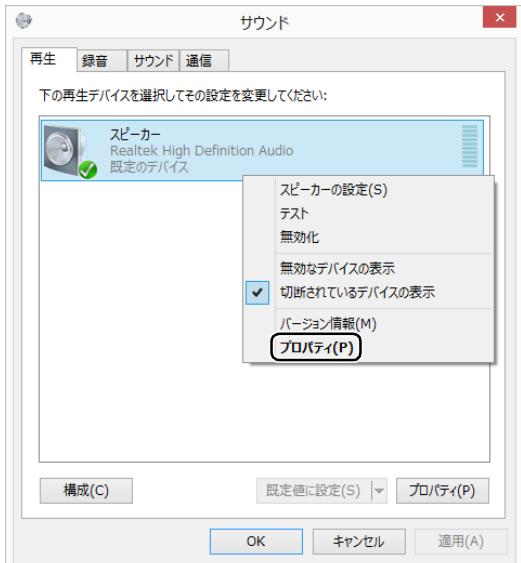
1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

3 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

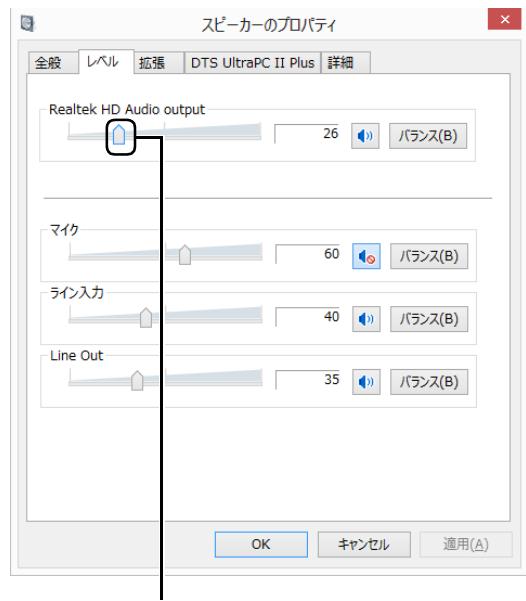


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「レベル」タブをクリックします。

5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ

- : スピーカーから音が聞こえます。
- : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- ・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

6 「OK」をクリックします。

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

2 「ハードウェアとサウンド」▶「サウンド」の順にクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

- 3 「録音」タブの「マイク」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

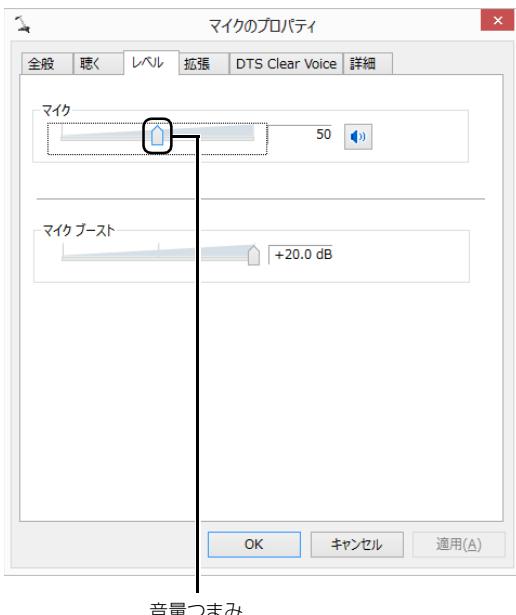


(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをクリックします。

- 5 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- スピーカーから音が聞こえます。
- スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。

- 6 「OK」をクリックします。

「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

- 7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■スピーカーの音質を調節する

(ドルビーデジタルプラス搭載機種)

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるサラウンド効果や、重厚感のある低音を実現します。

重要

ドルビーデジタルプラスの音質の調節は、本体部の内蔵スピーカーと本体部に接続したヘッドホンが対象となります。

- 1 デスクトップ画面右下の通知領域にある ▲ をクリックし、表示された □ (Dolby Digital Plus) をダブルクリックします。

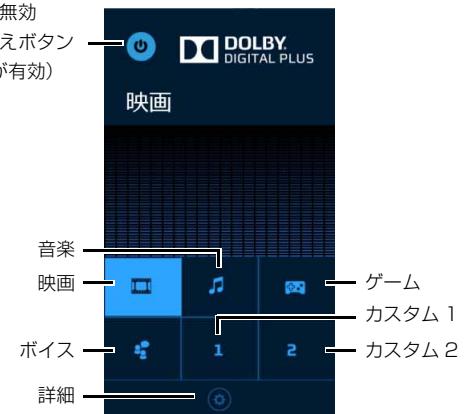
- 2 ドルビーデジタルプラスの設定画面が表示されたら、「有効／無効切り替えボタン」をクリックして有効にし、再生する音のジャンルをクリックして選択します。

「映画」、「音楽」、「ゲーム」、「ボイス」の各ジャンルごとに適切な設定が用意されています。

有効／無効

切り替えボタン

(水色が有効)



3 必要に応じて、各ジャンルの設定を変更します。

「詳細」をクリックすると、詳細設定画面が表示され、各ジャンルの設定を調整したり、「カスタム1」、「カスタム2」にお好みの音質設定を登録することができます。

変更したいジャンルを選択してから、設定を変更します。



■インテリジェントイコライザー

再生中の音声をリアルタイムに解析し、常にバランスの取れた最適な音質に調整します。

各アイコンは左から、「オープン」、「リッチ」、「フォーカス」、「マニュアル設定」モードです。クリックすると、モード選択できます。

選択したモードのアイコンが示す周波数特性に自動的にイコライザを調整します。

「マニュアル設定」モードではイコライザをマニュアル設定することも可能です。

※「マニュアル設定」モードでは「インテリジェントイコライザ」ではなく「グラフィックイコライザ」と表示されます。

■サウンドバーチャライザ

スピーカーやヘッドフォンから出力される音声をリアルなサラウンドサウンドに拡張します。

■ダイアログエンハンサー

映画を見るときなど、会話音声を明瞭にし、聞き取りやすくなります。

■ボリュームレベラー

コンテンツやメディアが変わっても、マスター ボリュームレベルを基準にして、常に音量を一定に整えます。

兼用端子の機能切り替え

兼用端子搭載機種のみ

お使いの機種に搭載されている兼用端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。

オーディオの入出力端子の種類と場所については、「各部の名称と働き」(→ P.38) をご覧ください。

ご購入時の端子は次のように機能します。

- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子：ヘッドホン
 - マイク・ラインイン兼用端子：マイク入力
 - マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
 - ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
 - ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン
- 設定を変更することにより、「ライン出力」「ライン入力」「マイク入力」「ヘッドセット」として機能させることができます。

これらの設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

▶ 次の兼用端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

- ・マイク・ラインイン兼用端子
- ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
- ・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子
- ・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子

1 機能を切り替えたい端子に外径3.5mmのミニプラグに対応した機器を接続します。

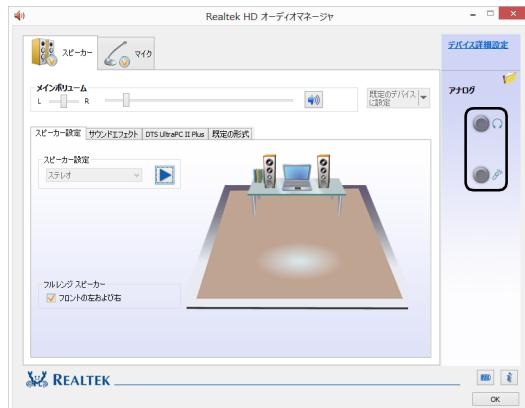
機器を接続していないときは、切り替えられません。

2 画面左下隅の□を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると□が表示されます。

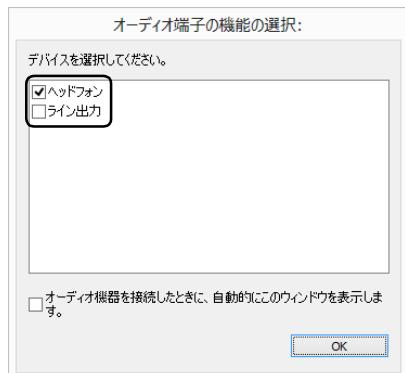
3 「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

- 4 切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- デバイスを選択するウィンドウが表示されます。
- 5 使用するデバイスを☑にします。



(画面はヘッドホン・ラインアウト兼用端子の設定画面です)

- 「ヘッドフォン」：ヘッドホン出力として動作します。
内蔵スピーカーから音が出なくなります。
- 「ライン出力」：ライン出力として動作します。
内蔵スピーカーからも音が出ます。
- 「マイク入力」：マイク入力として動作します。
- 「ライン入力」：ライン入力として動作します。
- 「ヘッドセット」：マイク入力、およびヘッドホン出力として動作します。
内蔵スピーカーから音が出なくなります。

Point

- ▶ 各端子に機器を接続するとデバイスを選択する
ウィンドウが表示されるように設定する場合
「オーディオ端子の機能の選択」ウィンドウで
「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこの
ウィンドウを表示します。」の□を☑にします。

- 6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じ
ます。

有線 LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→ P.137）をご覧ください。

重要

▶ ネットワーク設定時のご注意

TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。

▶ セキュリティ対策をしてください

初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。

このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウィルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

■必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

●ネットワーク機器

ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。

- ・ダイヤルアップルーター
- ・ブロードバンドルーター
- ・ブロードバンドモ뎀
- ・ハブ

●LAN ケーブル

ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

●ネットワーク機器のマニュアル

お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■LAN ケーブルを接続する

⚠ 警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。

感電の原因となることがあります。

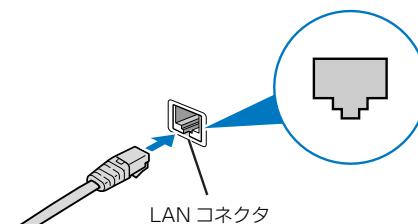


- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切ります。

電源プラグをコンセントから抜きます。

2 LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



LAN ケーブルをコネクタの向きに合わせてしっかり差し込みます。

- 3** ネットワーク機器の電源を入れます。
- 4** パソコン本体の電源ケーブルをコンセントに差します。
- 5** パソコン本体の電源を入れます。

Point

- ▶ スリープ／休止状態の解除をお勧めします
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.146）をご覧になり、自動的にスリープにしない設定に変更してください。
- ▶ LAN ケーブルを取り外すときは
LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

■ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

□TCP/IP の設定

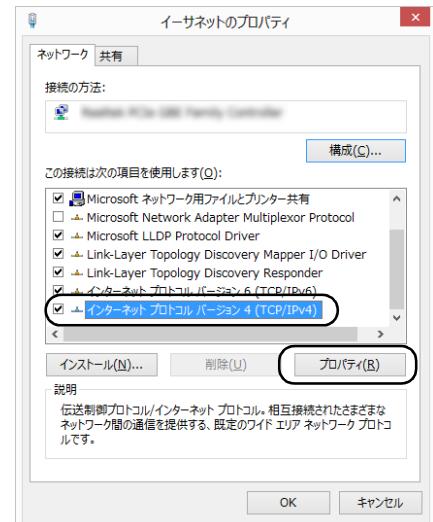
Point

▶ TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に管理者アカウントでサインインしてください。

- 1** 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「ネットワーク接続」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。
- 2** 一覧から「イーサネット」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



- 3** 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。

4 IP アドレスの設定をします。



■ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

- 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が になっていることを確認します。
- になっている場合は、 をクリックして にします。

■ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

- 「次の IP アドレスを使う」の をクリックして にします。
- 「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
- 「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

Point

- IP アドレスの重複にご注意ください

パソコン本体のIPアドレスをブロードバンドモジュラーやルーター、お使いのネットワーク上にある他のパソコンやタブレットと重複しないように設定してください。IPアドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

5 「OK」をクリックします。

6 「OK」をクリックします。

7 画面右上の をクリックし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピューター名、ワークグループを確認します。

□フルコンピューター名とワークグループの確認

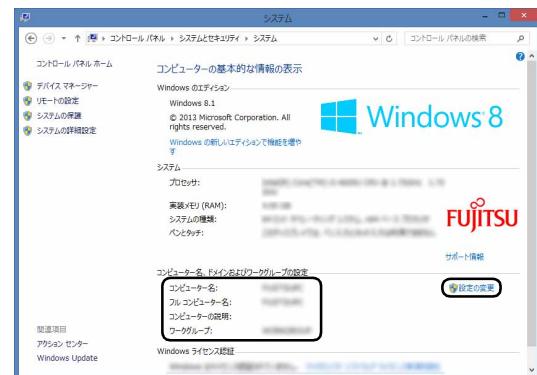
Point

- フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、管理者アカウントでサインインしてください。

1 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「システム」をクリックします。

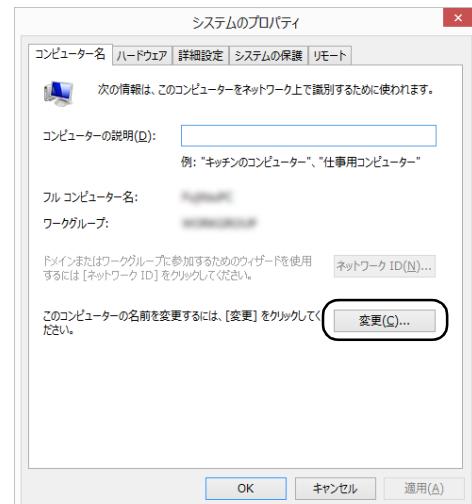
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。

2 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピューター名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。



■フルコンピューター名

ネットワーク上で、パソコンやタブレットを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンやタブレットと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンやタブレットの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

■ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンやタブレットの集まりを表します。複数のパソコンやタブレットと共に通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンやタブレットに同じワークグループを設定してください。

4 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN 搭載機種のみ

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、「インターネットに接続する」(→ P.162) をご覧ください。

重要

- このパソコンは無線 LAN の電波を停止することはできません。

■無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンやタブレットなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

●通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

●不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためにには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.38）をご覧ください。

□無線 LAN による通信を行うための注意

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11g と IEEE 802.11b が混在する環境では、IEEE 802.11g は IEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.38）をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。

- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

□良好な通信を行うために

- 本体部と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類 [注]	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し半径 15m 以内
IEEE 802.11b、 IEEE 802.11g 準拠	見通し半径 25m 以内
IEEE 802.11n、 IEEE 802.11ac 準拠	見通し半径 50m 以内

注 お使いの機種により搭載されていない種類もあります。

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- 本体部は、他の電気機器から離して設置してください。本体部と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。

- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、本体部の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。

- このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯 (2.4GHz 帯) を使用するため、本体部の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。

- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と本体部との間は 10m 以上離して使用する。
- ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切るか、電波を停止する。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧になり、電源を切るか、電波を停止してください (単独で電源を切れないものを除く)。

■無線 LAN の仕様

項目	仕様 [注 1]
ネットワークの種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠 (Wi-Fi® 準拠) [注 2]
転送レート	IEEE 802.11b 準拠 : 11 ~ 1Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11g 準拠 : 54 ~ 6Mbps (自動切り替え) IEEE 802.11n 準拠 : 300 ~ 6Mbps (自動切り替え、HT20/40 対応) [注 3] [注 4]
使用周波数	2,400MHz ~ 2,483.5MHz
チャンネル [注 6]	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 : 1 ~ 13ch IEEE 802.11n 準拠 : 2.4GHz モード 1 ~ 13ch
セキュリティ [注 7]	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 64/128 ビット) [注 5] WPA- パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2- パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA- エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2- エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP)

注 1 アドホック通信には対応していません。

注 2 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 3 IEEE 802.11n では HT20/40 に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

注 4 IEEE 802.11n を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5 WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

注 6 このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ~ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ~ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 7 IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ (PSK) を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

重要

- ▶ このパソコンはBluetoothの電波を停止することはできません。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンやタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

重要

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。
セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1 マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
 『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 「設定チャーム」から「PC 設定の変更」▶「PC とデバイス」▶「Bluetooth」の順にクリックします。「Bluetooth デバイスの管理」の画面が表示されます。

Point

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。それらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従って設定してください。

■Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。

なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

●出力 Class2、Bluetooth v4.0 + HS に準拠しています。Bluetooth v4.0 + HS およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。

●最大通信速度は 24Mbps (Bluetooth v4.0 + HS の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■必要なものを用意する

●Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- ・キーボード
- ・マウス
- ・プリンター
- ・ヘッドセット
- ・携帯電話

●Bluetoothワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

- ▶ ペアリングコード（PIN またはパスコード）について
パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペアリング）設定をするときには、機器によっては「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」については、後述の「Windows ヘルプとサポート」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ プロファイルについて
Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。
このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。
 - ・ HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIP、HOGP

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンやタブレットとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

● 不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンやタブレットに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンやタブレットがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンやタブレットは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためにには、周辺機器や他のパソコンやタブレットに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

●このパソコンのBluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、本体部に内蔵されています。このパソコンの使用中、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。

また、本体部を設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「各部の名称と働き」（→ P.38）をご覧ください。

●本体部と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2 の最大値）です。

ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプローチ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

●本体部は、他の電気機器から離して設置してください。本体部と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。

●放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、本体部の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。

●Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE 802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンやタブレットなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。

●無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。

- ・無線 LAN 機器と本体部との間は 10m 以上離して使用する。
- ・無線 LAN 機器の電源を切る。
- ・無線 LAN 機器の電波を停止する。

●このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□ 電波放射の環境への影響

●このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりもはるかに低く抑えられています。

●このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。

●ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。

- ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用

●特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に入間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じことがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・本体部と受信機の距離を離す
 - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

スリープ／休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。

Point

- ▶ ご購入時は「スリープ（ハイブリッドスリープが有効）」に設定されています。この状態では、休止状態にすることはできません。休止状態にするには、ハイブリッドスリープを無効にしてください。
- 1. 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。
- 2. 選択したプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 3. 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 4. 「スリープ」▶「ハイブリッドスリープを許可する」の順にダブルクリックし、「設定」を「オフ」にします。
- 5. 「OK」をクリックします。

スリープ／休止状態とは

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。手動でスリープにする操作については、「スリープにする／復帰させる」（→ P.56）をご覧ください。

■スリープ（ハイブリッドスリープが有効）

作業中のデータなどをメモリとハードディスクに保存してパソコンを待機状態にすることです。

スリープ中に電源が切れた場合は、ハードディスクからデータを読み出します。そのため、電源プラグがコンセントから抜けても、元の状態に復旧することができます。

■スリープ（ハイブリッドスリープが無効）

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。そのため、電源プラグがコンセントから抜けると、元の状態に復旧することができません。

■休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。そのため、電源プラグがコンセントから抜けても、元の状態に復旧することができます。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰（リジューム）したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

□休止状態にする

- 1 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。



- 2 「電源」▶「休止状態」の順にクリックします。

ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

▶「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。

1. 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。
スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。
2. 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側にある「スリープ解除時のパスワード保護」をクリックします。
3. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
4. ウィンドウの下部にある「休止状態」の をクリックして にします。
5. 「変更の保存」をクリックします。
6. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。

▶ 電源ボタンを押したときに休止状態に切り替わるよう設定を変更することができます（→ P.146）。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（リジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（リジューム）しないでください。必ず、10秒以上たってから復帰（リジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（リジューム）させた後、必ず10秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープや休止状態に移行するまでの間、USBマウスやUSBキーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰（リジューム）した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（リジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中にDHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。
この場合は、IPアドレスの有効期間を延長するか、DHCPの使用を中止して固定IPをお使いください。
- 次の場合は、自動的にスリープや休止状態になりません。
 - ・DVD-VIDEOなどの動画再生時
 - ・テレビ機能をお使いの場合（テレビチューナー搭載機種のみ）

- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。

- ・Windows の起動処理中または終了処理中
- ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
- ・ハードディスクにアクセス中
- ・オートラン CD-ROM/DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM）を使用中
- ・ビデオ CD や Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）、DVD-VIDEOなどを再生中
- ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
- ・ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
- ・ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
- ・マルチモニター機能を使用中
- ・ネットワークに接続して通信中
- ・デジタルテレビに表示しているとき
- ・マウスの操作中
- ・LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。本体部の電源ボタンとワイヤレスキーのボードのパソコン電源ボタンの設定を変更できます。

■電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

□ご購入時の設定

●電源ボタンを押す

スリープ状態に切り替わる

□設定を変更する

- 1 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポンターを左下隅に合わせると  が表示されます。

- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、「電源ボタンの動作の選択をする」をクリックします。



・電源ボタンの動作の選択

電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、クリックします。

- 3 必要に応じて電源ボタンの項目を変更します。



（画面は機種や状況より異なります）

Point

- ▶ パソコンがスリープから復帰（リジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必要とすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。
 1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
 2. 「パスワードを必要とする（推奨）」の左の をクリックして にします。
- ▶ 手順 3 のウィンドウで「スリープボタンを押しとくの動作」という項目が表示された場合 このパソコンにはスリープボタンが搭載されていません。このため、この項目は利用できません（設定を変更しても無効です）。

- 4 「変更の保存」をクリックします。

■スリープになるまでの時間を変更する

- 1 画面左下隅の□を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると□が表示されます。
- 2 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。



- 4 「変更の保存」をクリックします。

Point

▶ 設定を元に戻す

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. 「電源オプション」ウィンドウ左側の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
2. 「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. □をクリックします。

電源プラン

パソコンの利用状況に応じた設定に変更することで、消費電力を抑えることができます。

ご購入時は次の3つの電源プランが用意されています。

●バランス

ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと消費電力のバランスをとります。

●省電力

可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。

●高パフォーマンス

パフォーマンスを優先しますが、消費電力が増える可能性があります。

- 1 画面左下隅の□を右クリックし、表示されたメニューから「電源オプション」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると□が表示されます。

- 2 お使いになる状況に適した電源プランの○をクリックして●にします。



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加プランの表示」の○をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

(画面は機種や状況により異なります)

- 3 □をクリックします。

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各電源プランの設定を変更することができます。

アプリ

このパソコンには、あらかじめたくさん のアプリがインストールされています。

一度削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリの動作がおかしくなったとき、アプリをインストールし直すことができます。

Windows 8.1 には、Windows 8.1 のスタート画面で動作する Windows ストア アプリと、デスクトップ画面で動作するデスクトップアプリの2種類があります。

Windows ストア アプリ

Windows 8.1 専用のアプリです。

■インストール

ストアからインストールします。ストアの利用には Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

1 スタート画面で「ストア」をクリックします。

ジャンルごとにアプリが表示されます。

2 インストールしたいアプリをクリックします。

インストールしたいアプリが見つからない場合は、画面下のスクロールバーの ▶ を数回クリックし、隠れている画面を表示してください。

Point

▶ 画面右上にある入力フォームから検索することもできます。検索したいアプリの名前を入力して、 をクリックします。

この後は画面の指示に従って操作してください。

■更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済のストアアプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

□自動更新を無効にする

1 「ストア」画面で、マウスポインターを右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。

2 「アプリの更新」をクリックします。

3 「アプリの更新プログラム」の「アプリを自動的に更新する」の  (はい) をクリックして  (いえ) にします。

■アンインストール

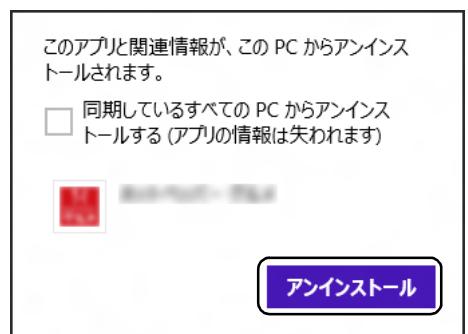
スタート画面およびアプリ画面の操作でアンインストールできます。アンインストールした Windows ストア アプリはストアから再インストールすることができます。

『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』

1 スタート画面またはアプリ画面でアンインストールしたいアプリのタイルを右クリックします。

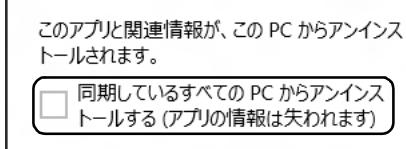
2 「アンインストール」をクリックします。

3 次の画面が表示されたら「アンインストール」をクリックします。



Point

▶ 「同期しているすべてのPCからアンインストールする (アプリの情報は失われます)」が表示された場合、クリックして にすると、お使いの Microsoft アカウントで他のパソコンやタブレットにサインインしたときもアンインストールされた状態になります。



デスクトップアプリ

Windows 7で使用していたものがほとんどそのまま使用できます。

■デスクトップアプリをインストール／アンインストールするうえでの注意

●デスクトップアプリをインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する

●インストールし直す場合は、元のアプリを削除する

●管理者アカウントでサインインする

ユーザー アカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はアプリの削除ができません。管理者アカウントでサインインしてください。ユーザー アカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1. 画面左下隅の を右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると が表示されます。

2. 「ユーザー アカウントとファミリーセーフティ」をクリックします。

3. 「ユーザー アカウント」をクリックします。

「ユーザー アカウント」ウィンドウが表示されます。

4. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。

「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

●起動しているデスクトップアプリをすべて終了する
他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。

- ・起動しているアプリをすべて終了する

- ・タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する

- ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する

1. デスクトップ画面のなにもないところを右クリックし、表示されたメニューから「個人設定」をクリックします。

2. 画面右下の「スクリーンセイバー」をクリックします。

3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

●共有ファイルは削除しない

アプリの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。

共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のデスクトップアプリが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

■インストール

□搭載デスクトップアプリをインストールする
次の手順で、ハードディスクのリカバリ領域からアプリをインストールすることができます。

1 スタート画面左下の をクリックします。

が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。

『Windows 8.1 基本操作 クイックガイド』

2 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」をクリックします。

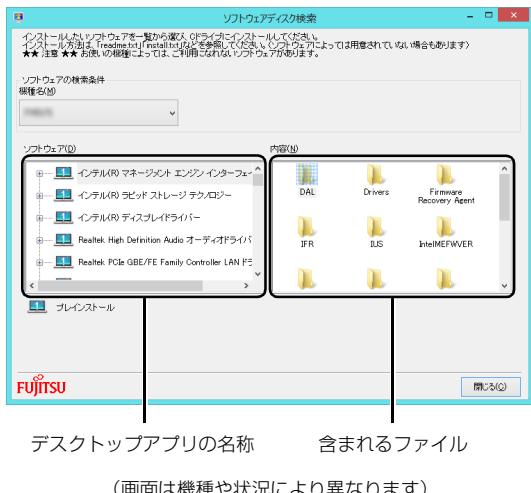
「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」が見つからない場合は、画面下のスクロールバーの を数回クリックし、隠れている画面を表示してください。

3 「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

4 「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

5 「機種名」欄の右側の をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

6 「ソフトウェア一覧」からインストールするアプリの名称をクリックしてインストールします。
デスクトップアプリの名称をクリックすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



7 デスクトップアプリのインストール方法は、各デスクトップアプリによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

Point

- リカバリ領域を削除している場合や破損してしまった場合は、⑩「ソフトウェアディスク」から、デスクトップアプリをインストールしてください。
- ⑩「ソフトウェアディスク」は「リカバリディスクセットを作成しておく」(→ P.165) をご覧になり作成してください。また、購入することもできます(→ P.114)。

□「Office」をインストールし直す

「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

□ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

□お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

●各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーが、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。

サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

●ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

●ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

- スタート画面左下の①をクリックします。
①が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
【Windows 8.1 基本操作クイックガイド】
- 「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」をクリックします。「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」が見つからない場合は、画面下のスクロールバーの▶を数回クリックし、隠れている画面を表示してください。
- 「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
- 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をクリックして選択します。
- 「ソフトウェア」の一覧から更新したいドライバーをクリックして選択します。
選択したドライバーが格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■アンインストール

□デスクトップアプリのアンインストール機能を使う

Windows に対応したデスクトップアプリには、アンインストール機能（デスクトップアプリを削除する機能）が用意されているものがあります。デスクトップアプリによって操作方法が異なります。詳しくは、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

□「プログラムのアンインストール」機能を使う

- 1 起動しているデスクトップアプリをすべて終了します。
- 2 画面左下隅の  を右クリックし、表示されたメニューから「プログラムと機能」をクリックします。スタート画面ではマウスポインターを左下隅に合わせると  が表示されます。
- 3 一覧から削除したい項目をクリックします。
- 4 「アンインストールと変更」（または「アンインストール」）をクリックし、画面の指示に従ってアプリを削除します。
- 5 デスクトップアプリの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、  をクリックします。

Point

- ▶ 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないデスクトップアプリについては、デスクトップアプリのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ハードディスクの領域について

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

リカバリ領域を削除する

リカバリ領域を削除して、その分 C ドライブで使用できる容量を増やすことができます。

■注意事項

- リカバリ領域の削除後に、ご購入時の状態に戻すリカバリを行う場合は、「リカバリディスクセット」が必要です

リカバリ領域の削除前に「リカバリディスクセット」を必ず作成してください。リカバリディスクセットの作成方法は、「リカバリディスクセットを作つておく」（→ P.165）をご覧ください。

購入することもできます。購入方法は「ディスクが必要な場合」（→ P.114）をご覧ください。

- 外付けハードディスクや USB メモリは必ず取り外してください

接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種の場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。

・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。

- 必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、本体部に AC アダプタを接続してください

■リカバリ領域の削除手順

- 1 ①「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」または②「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。

「「トラブル解決ナビ」を起動する」（→ P.105）をご覧ください。

- 2 「ユーティリティ」をクリックします。

- 3 「リカバリ領域の削除」をクリックします。

4 「リカバリ領域の削除」の説明が表示されたら、「次へ」をクリックします。

「ご使用上の注意」が表示されます。

5 内容をよくお読みになり、同意する場合は「同意する」をクリックして○にし、「次へ」をクリックします。

「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認

2. リカバリ領域の削除

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従って操作を進めてください。

「リカバリ領域の削除が完了しました。」と表示されたら手順 7 に進んでください。

7 「完了」をクリックします。

8 トラブル解決ナビの最初の画面が表示されたら、ディスクを取り出します。

ポータブル CD/DVD ドライブを接続している場合は取り外します。

9 「終了」をクリックします。

10 「再起動」をクリックします。

Windows が起動します。

11 デスクトップ画面で (PC) をダブルクリックします。

ハードディスクの容量が増えていることを確認します。

以上でリカバリ領域の削除は完了です。

リカバリ領域を復元する

リカバリ領域を復元するためには「ハードディスク全体をリカバリ」を行います。リカバリ領域のみ復元することはできません。

「リカバリディスクセット」を用意してください。

重要

▶ 次の場合でも、「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を行うとハードディスクの内容はすべて削除されます。D ドライブの内容もすべて削除されます。

- ・ハードディスク 2 台搭載機種
- ・SSD + ハードディスク搭載機種

■ 注意事項

● ハードディスクの内容はすべて削除されます

リカバリ領域を復元するときに、ハードディスクの領域が設定し直されます。このためハードディスクの内容はすべて削除されます。あらかじめ必要なデータをDVDや外付けのハードディスク、microSDカードなどにバックアップしておいてください。

● 「リカバリディスクセット」が必要です

リカバリ領域の復元には、「リカバリディスクセット」が必要です。「リカバリディスクセット」を作成していない場合や、紛失・破損された場合は購入できます。購入方法は「ディスクが必要な場合」(→ P.114) をご覧ください。

● 外付けハードディスクやUSBメモリは必ず取り外してください

接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

● CD/DVD ドライブが搭載されていない機種の場合、ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください

- ・ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。

- ・操作を開始する前のパソコンの電源が切れた状態のときに、あらかじめ接続してください。

● 必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、本体部に AC アダプタを接続してください

■ リカバリ領域の復元手順

1 ○「トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）」または○「トラブル解決ナビ＆ソフトウェア＆リカバリデータディスク」を使って「トラブル解決ナビ」を起動します。

「「トラブル解決ナビ」を起動する」(→ P.105) をご覧ください。

2 「リカバリ」をクリックします。

3 「ハードディスク全体をリカバリ」をクリックします。

「ハードディスク全体をリカバリ」の説明が表示されます。

4 「次へ」をクリックします。

「ご使用上の注意」が表示されます。

5 「ご使用上の注意」をよく読み、同意する場合は「同意する」をクリックして○にし、「次へ」をクリックします。

6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. リカバリディスクセットの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリデータをコピーする
4. リカバリを実行する
5. リカバリ領域を復元する
6. 最終処理を実行する

の順に進んでいきます。画面のメッセージに従つて操作を進めてください。

7 「ディスクの復元が完了しました。」と表示されたら、ディスクを取り出します。

8 「完了」をクリックします。

パソコンの電源が自動的に切れます。

ポータブル CD/DVD ドライブを接続している場合は取り外します。

以上で「リカバリ領域を復元する」は終了です。

続けて、「セットアップする」(→ P.19) をご覧になり、セットアップを行ってください。

Point

- ▶ ユーザー登録は再度行う必要はありません。
- ▶ すでに Microsoft アカウントを取得されているため、「セットアップする」(→ P.19) の手順 13 では、そのアカウントでサインインしてください。
- ▶ Office 搭載機種で、「リカバリディスク有償サービス」で購入したリカバリディスクセットを使い、ご購入時の状態に戻すリカバリを行った場合、Office がインストールされた状態にリカバリされません。セットアップ後に、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。
<http://www.office.com/jppipcsetup/>

BIOS の設定

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

BIOS セットアップの操作

■ BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき

- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

ワイヤレスディスプレイ部を本体部に横向きにセットして、キーボードで操作します（タッチでは操作できません）。

Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。

- ▶ BIOS セットアップ画面の表示について
HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには BIOS セットアップ画面は、表示されません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test) といいます。

- ・ 起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。

- ・ POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

- ・ パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

■BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

Point

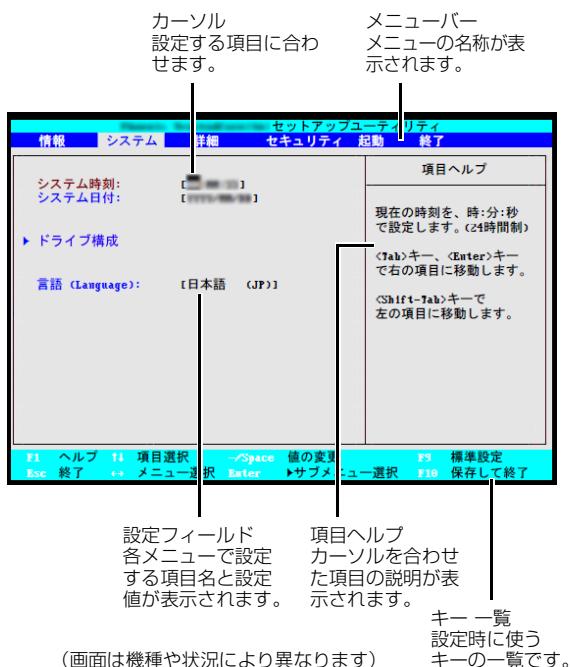
- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

1 ワイヤレスキーボードのサポートボタンを押します。

2 起動メニューが表示されたら、**[↓]** を押し、「BIOS セットアップ」を選択して、**[Enter]** を押します。
BIOS セットアップ画面が表示されます
(→ P.154)。

■BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



■設定を変更する

重要

▶ BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。

このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 **[←] または [→]** でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 **[↓] または [↑]** でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。

項目名にカーソルを移動して **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは **[Esc]** を押します。

3 **[Space]** キーまたは **[F2]** を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

Point

▶ 設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- ・ **[↓] 、 [↑]**

設定する項目にカーソルを移動します。

- ・ **[←] 、 [→]**

メニューを切り替えます。

- ・ **[Enter]**

「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

- ・ **[Space]** キー

キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

■変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 **[Esc]** を押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」(「Exit」)メニューが表示されるまで、**[Esc]** を2~3回押してください。

2 **[↓]** または **[↑]** を押して「変更前の値を読み込む」(「Discard Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」(「Load previous configuration now?」)というメッセージが表示されます。

3 **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

BIOSセットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

▶ 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存せずに終了する」(「Exit Discarding Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか?」(「Setup Warning」)というメッセージが表示されます。

2. **[←]** または **[→]** で「いいえ」(「No」)を選択し、**[Enter]** を押します。すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

■BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

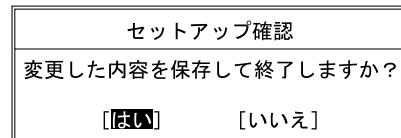
次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]** を押します。

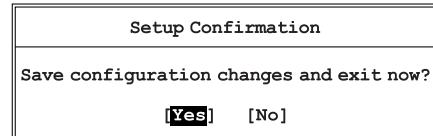
「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]** を2~3回押してください。

2 **[↓]** または **[↑]** を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

次のいずれかの確認メッセージが表示されます。



または



(画面は機種や状況により異なります)

3 **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

▶ BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する

次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

「変更した内容を保存しますか?」(「Save configuration changes now?」)というメッセージが表示されます。

2. **[←]** または **[→]** で「はい」(「Yes」)を選択し、**[Enter]** を押します。

■BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 [Esc] を押します。

「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。

3 [↓] または [↑] を押して「標準設定値を読み込む」(「Load Setup Defaults」)を選択し、[Enter] を押します。

確認のメッセージが表示されます。

4 [←] または [→] で「はい」(「Yes」)を選択し、[Enter] を押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 [↓] または [↑] を押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、[Enter] を押します。

確認のメッセージが表示されます。

6 [←] または [→] で「はい」(「Yes」)を選択し、[Enter] を押します。

読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

●パソコンの電源を入れたとき

●パソコンを再起動したとき

●BIOS セットアップを始めるとき

●休止状態からリジュームするとき

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

■BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

●パスワード設定時に必ず行うこと

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れる、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。

そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。

- ・「パスワードを変更する」(→ P.158) および「パスワードを削除する」(→ P.159) を印刷しておく
- ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかる修理は有償となります。

●パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

■パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

●管理者用パスワード (Supervisor Password)

このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

●ユーザー用パスワード (User Password)

「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

- ハードディスク用パスワード (HDD Password)
このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

■ パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」)または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」)を選択して [Enter] を押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

- ・ 入力できる文字種はアルファベットと数字のみです。なお、アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
- ・ 入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
- ・ ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます。

4 パスワードを入力したら [Enter] を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

- 6 [Enter] を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。[Enter] を押して、手順3からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

7 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「起動時のパスワード」(「Password on Boot」)を「使用しない」(「Disabled」)以外に設定します。パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

- ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security)」
▶ 「ドライブ [ドライブ番号] 用パスワード設定 (Set Drive [ドライブ番号] HDD Password)」([ドライブ番号] には機種により異なる数字が入ります。)を選択して [Enter] を押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら [Enter] を押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して [Enter] を押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 [Enter] を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」([Setup Warning])と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」([Passwords do not match. Re-enter password.])というメッセージが表示されます。
[Enter] を押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] を押してください。

■パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、[Enter] を押してください。
●設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」([Invalid Password])というメッセージが表示されます。その場合は、[Enter] を押し、正しいパスワードを入力してください。

●誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」([System Disabled])というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力
パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、[Enter] を押してください。

●BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」で、パソコンを指定時刻に起動させたり LAN を使って起動させたりする場合に、BIOS のパスワード入力を要求するかどうかを設定することができます。

□ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。



- ▶ 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

■パスワードを変更する／削除する

□パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」([Security]) メニューで変更したいパスワード設定を選択して[Enter] を押します。

- ・管理者用パスワード設定 (Set Supervisor Password)
- ・ユーザー用パスワード設定 (Set User Password)
- ・ハードディスクセキュリティ (Hard Disk Security) ▶ ドライブ*用パスワード設定 (Set Drive * HDD Password)
(*には機種により異なる数字があります。)

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 設定してあるパスワードを入力し、[Enter] を押します。

新しいパスワードの入力を求められます。

4 新しく設定したいパスワードを入力し、[Enter] を押します。

新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

▶ パスワード設定時に必ず行うこと

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。

そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。

- ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
- ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく

また、これらは安全な場所に保管しておいてください。

管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

▶ パスワードを忘れるときのデータの取り扱い

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して

〔Enter〕を押します。

「変更が保存されました。」(「Change has been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 〔Enter〕を押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。〔Enter〕を押して、手順4からやり直してください。パスワードの設定を中止するときは、〔Esc〕を押してください。

Point

▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを4秒以上押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

□ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順4～5で何も入力せずに、〔Enter〕を押してください。

Point

▶ 管理者以外の方がユーザー用パスワードを削除できるのは、「セキュリティ」メニューの「ユーザー用パスワード文字数」が0に設定されているときだけです。0以外に設定されている場合は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。ユーザー用パスワード文字数の設定については、「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード文字数」の項目ヘルプをご覧ください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■ メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順2に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードや、メモリ交換可能な機種でメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらを取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。

このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、「サポート&サービス紹介」(→P.108)をご覧ください。

■メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

●< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。

(Press <F1> to Continue or <F2> to Enter Setup または Press <F1> to resume, <F2> to Enter Setup)

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前にこのメッセージが表示されます。
[F1] を押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

●リアルタイムクロックのエラーです。日付と時刻の設定を確認してください。

(Real Time Clock Error - Check Date and Time settings)

日付と時刻の設定値が正しくありません。

設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

次のメッセージが表示された場合は、各項目ごとに記載されている対応を行い、再起動してください。なお、再起動しても同じメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●前回の起動中にファンエラーが発生しました。

(Fan Error occurred during previous boot.)

前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。

●Invalid system disk

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[Space] キーなどを押してください。

●Non-System disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[Space] キーなどを押してください。

●NTLDR is missing

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[Space] キーなどを押してください。

●Remove disks or other media.

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、[Space] キーなどを押してください。

●NVRAM データが正しくありません。(Invalid NVRAM Data)

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。

●セキュアブートに失敗しました。** アクセス拒否 **

Secure boot is failed **ACCESS DENIED**

セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。

セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」 – 「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」 – 「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。

●選択したデバイスから起動できませんでした。

Boot Failure.

起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。

起動デバイスが正しく接続されているか確認してください。また、セキュアブートに対応していないOSから起動する場合は、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「セキュアブート設定」 – 「セキュアブート機能」を「使用しない」、「詳細」メニューの「起動設定」 – 「互換性サポートモジュール」を「使用する」に変更してください。

次のメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

●ファンエラー。システムの電源が切れます。(Fan Error has occurred)

冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。

●起動可能なデバイスが見つかりませんでした。

(Bootable Device was not found)

起動可能なデバイスが見つからなかった場合に表示されます。[Enter] を押すと起動メニュー (Boot Menu) が起動しますので、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。

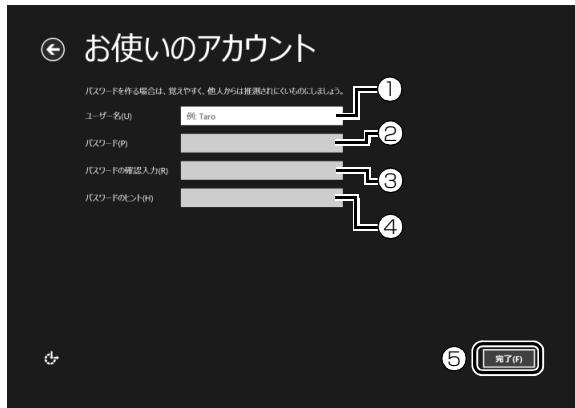
インターネットに接続せずにセットアップしたときは

ここでは、セットアップ中にインターネットに接続しなかった場合、どのようにセットアップを完了したら良いか説明します。操作の流れは次のようになります。

- 1 Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する (→ P.162)
- 2 インターネットに接続する (→ P.162)
- 3 Microsoft アカウントに切り替える (→ P.164)
- 4 Windows を終了する
「Windows のセットアップをする」手順 20 (→ P.33)
- 5 パソコンを快適にお使いいただくための準備をする (→ P.34)

Windows セットアップ時にローカルアカウントを取得する

「Windows のセットアップをする」の手順 13 で次のような画面が表示された場合の操作方法です。



①「ユーザー名」を入力します。

- ・「Windows のセットアップをする」の手順 9 で入力した PC 名と同じ名前は入力できません。
- ・12 文字以内の半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) でお好きな名前を入力してください。

②「パスワード」を入力します。

- 12 文字以内の半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) でお好きなパスワードを入力してください。

③④で入力したものと同じものを入力します。

④自分がパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。かなも漢字も使用できます。

⑤「完了」をクリックします。

Windows のセットアップが完了しました。

スタート画面が表示されるまでお待ちください。

インターネットに接続する

このパソコンをお使いになるときは、有線 LAN または無線 LAN でインターネットに接続してください。

インターネットの設定方法については、ご契約のプロバイダーの指示に従ってください。

Point

- ▶ データ通信カードやアダプター、モバイルWi-Fiルーターなどのデータ通信機器をお使いになりインターネットに接続する場合、設定および使用方法については、データ通信機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ▶ データ通信機器に関しては、ご契約のデータ通信サービス会社にお問い合わせください。

■有線 LAN でインターネットに接続する

有線 LAN をお使いになる場合は、LAN ケーブルを LAN コネクタに接続します。

■無線 LAN でインターネットに接続する

ここでは、無線 LAN アクセスポイントと内蔵無線 LAN を使って、無線 LAN でインターネットに接続する方法を説明します。

Step1 無線 LAN アクセスポイントを設定する

別売の無線 LAN アクセスポイントを用意し、インターネットに接続する設定を行ってください。設定方法は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ 無線 LAN アクセスポイントは、セキュリティの設定をしてお使いになることをお勧めします。
- セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

無線 LAN アクセスポイントに設定した情報を、次の欄に記入してください。

記入後は第三者に漏れないよう注意してください。

ネットワーク名 (SSID)	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>

Step2 パソコンの設定をする

Windows 8.1 の標準機能を使って無線 LAN の設定を行う方法を説明します。

- 1 無線 LAN アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。
無線 LAN アクセスポイントの電源の入れ方については、無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルをご覧ください。
- 2 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、(設定) をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 3 「設定チャーム」で「利用可能」アイコンをクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 4 次の画面の操作をします。



- ①「Wi-Fi」がオフになっていたら、(オフ) をクリックして (オン) にします。
- ②Step1 で記入した無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をクリックします。
- ③「自動的に接続する」の をクリックして にします。
- ④「接続」をクリックします。

- 5 次の画面の操作をします。



①Step1 で記入した無線 LAN アクセスポイントのパスワードを入力します。
「ルーターのボタンを押しても接続できます。」と表示されていたら、無線 LAN アクセスポイント(ルーター)のボタンを押して接続できる場合があります。
詳しくは、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

- ②「次へ」をクリックします。

- 6 正しく設定できたか確認します。
正しく設定できると、「接続済み」と表示されます。



Point

- ▶ 「接続済み」と表示されなかった場合は、もう一度、Step1 で記入した無線 LAN アクセスポイントの設定情報と、手順 5 で入力したパスワードを確認してください。
- ▶ 無線 LAN アクセスポイントで設定した内容と同じ情報をパソコンに設定しないと、ネットワークに接続できません。無線 LAN アクセスポイントの設定がわからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- ▶ プロバイダーから提供されるインターネット接続に必要な情報が正しく設定されているか確認してください。設定する情報がわからない場合は、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

これで無線 LAN を使ったインターネット接続は完了です。

Microsoft アカウントに切り替える

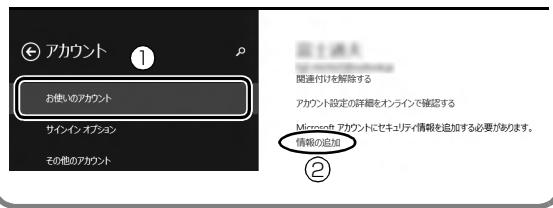
Windows 8.1 では Microsoft アカウントでサインインすることで、様々な機能やサービスを快適に利用できます。インターネットに接続したら、ローカルアカウントを Microsoft アカウントに切り替えてください。

Microsoft アカウントに切り替える方法については、サポートページから Q&A ナンバー「8209-9156」を検索してご覧ください。

この PC で本人確認を行う

Microsoft アカウントに切り替えた後など、このパソコンを快適にお使いになるために、本人確認を行う必要がある場合があります。

- 1 「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
『Windows 8.1 基本操作クイックガイド』
- 2 「設定チャーム」で「PC 設定の変更」をクリックし、「アカウント」をクリックします。
- 3 ①「お使いのアカウント」をクリックし、②「情報の追加」または「確認する」と表示されている場合は、本人確認を行う必要があります。
クリックし、その後は画面の指示に従って操作してください。



- この後は、「Windows のセットアップをする」の手順
20、および「パソコンを快適にお使いいただくための準備をする」(→ P.34) を行ってください。

インターネットを安心してお使いいただくために

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやりとりをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。

特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

・アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）

- ・他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ・出会い系サイト・犯罪を助長するようなサイト
- ・暴力残虐画像を集めたサイト
- ・毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他の人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術です。100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。

「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の 2 つの方法があります。

- 「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。
- ・パソコンにフィルタリングの機能をもつアプリをインストールする
 - ・インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用するこれらのアプリのインストール方法やご利用方法については、それぞれのアプリの説明書またはヘルプをご確認ください。なお、アプリやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルタ」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

[参考情報]

- ・社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料「パソコン・サポートとつきあう方法」
- ・デジタルアーツ株式会社 (i-フィルター® 6.0 提供会社)
「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

■i - フィルター® 6.0」について

このパソコンには、フィルタリング機能をもつ「i - フィルター® 6.0」が用意されています。使い方については、「i - フィルター® 6.0」を使う」(→ P.164) をご覧ください。

■i - フィルター® 6.0」を使う

このパソコンに用意されている「i - フィルター® 6.0」はご利用期間 90 日間のお試し版となっています。ぜひお試しください。初めてお使いになるときは、次の手順で初期設定を行ってください。

- なお、お試し版を登録するにはメールアドレスが必要です。
- 1 インターネットに接続します。
 - 2 デスクトップ画面上の  (i - フィルター 6.0 のセットアップ) をダブルクリックします。

3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。

「有害サイトフィルタリングソフト「i - フィルター 6.0」のご紹介」の画面が表示されます。

4 「[i - フィルター 6.0] をインストールする」をクリックします。

「i - フィルター® 6.0」の使用許諾の画面が表示されます。この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Point

▶ 次のような画面が表示された場合は、「i - フィルター® 6.0」はインストール済みです。

「OK」▶「完了」の順にクリックして、画面を閉じてください。



5 「i - フィルター 6.0」の画面が表示されたら、インターネットに接続していることを確認して、「90 日の無料お試し付き「i - フィルター 6.0」【お申込み】」をクリックします。

この後は画面の指示に従って登録を進めてください。登録が完了すると「i - フィルター® 6.0」が利用できるようになります。

次回使うときは、デスクトップ画面右下の通知領域に表示された①アイコンから、設定を行うことができます。



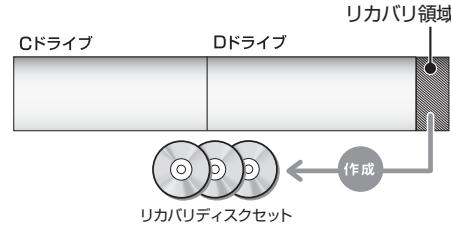
利用開始から 90 日間を超えてご利用になる場合は、継続利用の登録（有償）を行ってください。別のフィルタリングアプリをご利用になる場合は、市販のアプリをご購入のうえ、ご利用ください。

リカバリディスクセットを作成しておく

このパソコンには、トラブルに備えて、本体のディスクの「リカバリ領域」という場所に、ご購入時の C ドライブの中身が保存されています。パソコンにトラブルが起こったときは、このリカバリ領域から C ドライブをご購入時の状態に復元できます。

リカバリ領域のデータのバックアップディスク（リカバリディスクセット）を 1 回に限り作成することができます。

リカバリ領域のデータを利用できなくなる場合に備え、パソコンご購入後できるだけ早く作成してください。



（機種や状況によって領域設定が異なる場合があります。）

Point

▶ リカバリディスクセットの作成には長時間かかります。時間に余裕をもって作業をしてください。またリカバリディスクセットは購入できます。購入方法については「ディスクが必要な場合」（→ P.114）をご覧ください。

▶ 「リカバリディスクセット」は、次の場合に使用します。

- ・ リカバリ領域を削除しているときに C ドライブをリカバリする
- ・ リカバリ領域を破損してしまったときに C ドライブをリカバリする
- ・ ハードディスク全体をリカバリする
- ・ 詳しくは、「リカバリ領域を復元する」（→ P.152）をご覧ください。

■リカバリディスクセットとは

「バックアップナビ」を使って作成する次のディスクです。

□BD-R、BD-R DL、BD-R XL で作成した場合

・ トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク [注]

注：1 回に限り作成可能です。

Point

▶ BD-R、BD-R DL、BD-R XL でリカバリディスクセットを作成したり、使用したりできるのは、Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみです。

▶ リカバリディスクセット添付機種では「トラブル解決ナビ&ソフトウェア&リカバリデータディスク」は作成できません。

□DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL で作成した場合

・ トラブル解決ナビディスク（リカバリ起動ディスク）

・ リカバリデータディスク n [注 1] [注 2]

・ ソフトウェアディスク n [注 2]

注 1：1 回に限り作成可能です。

注 2：複数枚（2～4 枚程度、機種によって異なる）のディスクが作成されます。n には数字がります。

リカバリディスクセットを作るうえでの注意

- LIFEBOOK および ARROWS をお使いの方は、必ず AC アダプタを接続してください
(LIFEBOOK GH シリーズを除く)
- LIFEBOOK GH シリーズをお使いの方は、必ずワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットし、本体部に AC アダプタを接続してください
- ディスクを用意してください
 - ・お使いになれるディスクDVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL、BD-R、BD-R DL、BD-R XL
 - ・DVD-R、DVD-R DL、DVD+R DL のうちの、どのディスクを使用しても、作成枚数は同じになります。
 - ・BD-R、BD-R DL、BD-R XL をお使いになれるのは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみです。どのディスクを使用しても、必要枚数は 1 枚になります。

■ 「Roxio Creator」が必要です

「Roxio Creator」はこのパソコンに用意されています。
「Roxio Creator」を削除すると、リカバリ領域のデータをディスクに書き込むことができなくなります。

- CD/DVD ドライブが搭載されていない機種の場合、
ポータブル CD/DVD ドライブを用意してください
ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット (FMV-NSM54)」をお勧めします。作成を始める前に接続してください。
ポータブル CD/DVD ドライブでお使いになれるのは DVD-R のみです。
- リカバリデータディスクおよびソフトウェアディスクではパソコンは起動できません

リカバリディスクセットの作成手順

- 1 スタート画面左下の ① をクリックします。タッチパネルの場合は、スタート画面でまっすぐ上にスライドします。
① が表示されていない場合は、マウスポインターを動かすと表示されます。
- 2 「バックアップナビ」をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
「続行するには管理者アカウントのパスワードを入力して、[はい] をクリックしてください。」と表示されている場合は、そのアカウントのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。
- 4 「バックアップナビ」の概要を説明する画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。

5 次の画面の操作をします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります。)

- ①「管理」タブをクリックします。
- ②「リカバリディスクセットの作成」をクリックします。

6 次の画面の操作をします。



- ①クリックして、お使いになるディスクの種類を選択してください。
- ②必要なディスクの枚数を確認します。
- ③「次へ」をクリックします。

7 次の画面の操作をします。



①作成するディスクを選択します。

手順 6 で BD-R、BD-R DL、または BD-R XL を選択した場合、一覧には「トラブル解決ナビゲーション&ソフトウェア&リカバリデータディスク」1枚のみ表示されます。

②用意した空きディスクのラベル面に作成するディスクの名前を記入します。

ラベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆などの先の硬いものは使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

③「次へ」をクリックします。

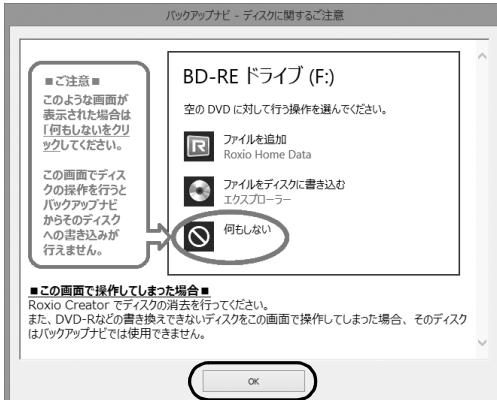
重要

- リカバリデータディスク n を作成するときは、すべて選択し、作業を中断しないでください。

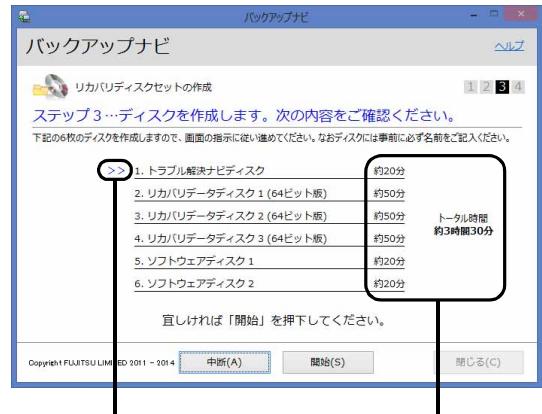
Point

- リカバリディスクセット添付機種では「リカバリデータディスク」または「トラブル解決ナビゲーション&ソフトウェア&リカバリデータディスク」を作成できません。そのため、文字がグレーで表示され選択できません。

8 内容を確認して「OK」をクリックします。



9 ステップ 3 の画面が表示されたら、作成するディスクの名称を記入した空きディスクをセットします。



作成中のディスクに
印が付きます。

所用時間のめやす

Point

- ディスクをセットしたとき、「空のDVDに対して行う操作を選んでください。」というメッセージが表示されることがあります。「何もしない」をクリックすると、そのまま操作を続けることができます。
- ディスクの作成所用時間はめやすです。実際の時間とは異なる場合があるのでご了承ください。

10 ディスクが認識されるまで 30 秒ほど待ってから、「開始」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。しばらくお待ちください。

11 書き込みが完了し CD/DVD ドライブが開いたら（またはスロットからディスクが飛び出したら）、次のように操作します。

■次のディスクを作成する場合

ディスクを取り出して、次に作成するディスクをセットし、手順 9 の画面で「開始」をクリックします。同様の操作を、すべてのディスクを作成するまで繰り返してください。

■すべてのディスクの作成が終了した場合

「リカバリディスクセットの作成に成功しました。」というメッセージが表示されたら、ディスクを取り出して「完了」をクリックします。

手順 5 の画面に戻ります。これでリカバリディスクセットの作成は完了です。

重要

- リカバリディスクは1回しか作成できませんので、大切に保管してください。

パソコンの電源を完全に切る

日常的なパソコンの使用では、この方法で電源を切る必要はありません。

重要

- ▼ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・トラブル解決ナビを起動する
 - ・BIOS セットアップを起動する
- 上記以外にも、操作前にパソコンの電源を完全に切る必要のある場合があります。
- 詳しくは、「Windows を終了する」(→ P.56) をご覧ください。

- 1 マウスポインターを画面の右上隅に合わせて「チャーム」を表示し、 (設定) をクリックします。
【Windows 8.1 基本操作クイックガイド】
- 2 「PC 設定の変更」をクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「保守と管理」をクリックします。
- 4 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。
- 5 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をクリックします。
- 6 「オプションの選択」画面が表示されたら、「PC の電源を切る」をクリックします。

富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内

個人でご使用のお客様が本製品を廃棄する場合は、次のお申し込みホームページよりお申し込みください。

リサイクルの流れや注意事項などの最新の情報は、お申し込みホームページをご確認ください。

お申し込み ホームページ	http://azby.fmworld.net/recycle/ ※スマートフォンからもお申し込みできます。
お問い合わせ 電話番号	03-5715-3140 (通話料金お客様負担) 受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および弊社指定休日を除く)

PC リサイクルマークについて

PC リサイクルマークは、メーカーとユーザーのみなさまが協力し合って、ご使用済み家庭用パソコンを資源に変えるためのマークです（法人（個人事業主を含む）、企業は除く）。PC リサイクルマークが付いた使用済み当社製パソコンは、新たな料金負担なく回収・再資源化いたします。ご使用済み家庭用パソコンのリサイクル活動に、ぜひご協力ををお願いいたします。

PC リサイクルマークの付いていない当社製パソコンについては、有償で回収・再資源化をうけたまわります。料金など詳しくは、お申し込みホームページをご確認ください。

PC リサイクルマーク



注1:装置銘板は機種により異なります。

注2:パソコン本体にカバーなどがある機種は、PC リサイクルマークが隠れている場合があります。

重要

- ▶ 法人（個人事業主を含む）、企業のお客様へお申し込みホームページは、個人のお客様を対象にしています。
- 法人、企業のお客様向けパソコンリサイクルについては、弊社ホームページ 「IT 製品の処分・リサイクル」 (<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

パソコンを廃棄あるいは譲渡する際、ハードディスクに記録されたお客様のデータが流出して、再利用される可能性があり、結果的にデータが流出してしまうことがあります。原因として、パソコンのハードディスクに記録されたデータは、削除したり、ハードディスクを再フォーマットしたりしても、データが消えたように見えるだけで、特殊なソフトウェアを利用することで、読み取ることができるからです。また、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合もあります。

そのため、パソコンを廃棄あるいは譲渡する際は、ハードディスク上のデータが第三者に流出しないよう全データの消去の対策をお願いいたします。対策として、専用ソフトウェアやサービス（有償）のご利用をお勧めいたします。

詳しくは、サポートページの「パソコン廃棄・譲渡前の常識！データを消去しよう」 (<http://azby.fmworld.net/usage/special/erasedata/>) をご覧ください。

■ハードディスクデータ消去

パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の1つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。

「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

「ハードディスクデータ消去」の使用方法については、サポートページからQ&Aナンバー「6604-6237」を検索してご覧ください。

付属品の廃棄について

■ 使用済み乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、リモコンなどには乾電池を使用しており、火中に投じると破裂のおそれがあります。使用済み乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

□個人のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則に従ってください。

□法人、企業のお客様へ

使用済み乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。

■ 使用済みバッテリの取り扱いについて

バッテリパックを交換できる機種のみ

- ・リチウムイオン電池のバッテリパックは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- ・使用済みバッテリは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- ・バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

□個人のお客様へ

使用済みバッテリは廃棄せずに充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクル BOX に入れてください。詳しくは、一般社団法人 JBRC [ジェイビーアールシー] のホームページ (<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>) をご覧ください。

弊社は、一般社団法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。



Point

- ▶ リサイクルにお申し込みいただく場合は、バッテリパックは外さずに、パソコンといっしょにリサイクルにお出しください。パソコンのリサイクルについては、「富士通パソコンの廃棄・リサイクルに関するご案内」(→ P.168) をご覧ください。

□法人・企業のお客様へ

法人・企業のお客様は、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

液晶ディスプレイが添付または内蔵されている機種をお使いのお客様へ

LED パックライト付ではない液晶ディスプレイの蛍光管には水銀が含まれております。

廃棄を予定しているパソコンの仕様を確認してください。環境配慮のため、お申し込みホームページからリサイクルをお申し込みください (→ P.168)。

富士通パーソナルコンピュータ修理規定

最新版はホームページに掲載しています。

<http://azby.fmworld.net/support/repair/syurikitei/>

第1条（本規定の適用）

- 富士通株式会社（以下「富士通」といいます）は、お客様が富士通の「故障や修理に関する受付窓口」にて修理の依頼をされた場合、または富士通の専用ホームページ「<http://azby.fmworld.net/support/repair/index.html>」（以下「専用ホームページ」といいます）にて修理の依頼をされた場合、本規定に定める条件により修理を行います。なお、お客様が日本国外から修理の依頼をされる場合および販売店または販売会社経由で修理の依頼をされる場合は、本規定は適用されないものとします。
- 前項に基づき富士通が本規定に定める条件により修理を行う場合は、本規定の内容が、次条に定める対象機器に同梱されている保証書（以下「保証書」といいます）裏面の無料修理規定（以下「無料修理規定」といいます）の内容に優先して適用されるものとします。なお、本規定に定めのない事項については、無料修理規定の内容が効くに適用されるものとします。

第2条（対象機器）

本規定に基づく修理の対象となる機器（以下「対象機器」といいます）は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ（詳細は本規定末尾記載、以下同じ）および当該日本国内向け富士通製パーソナルコンピュータ用の富士通製周辺機器（ただしプリンタは除きます）とします。

第3条（修理の形態）

- 富士通は、お客様より対象機器の修理をご依頼いただいた場合、現象や使用状況等を伺ながら簡単な切り分け診断を行い、修理の必要があると富士通が判断した場合には、次のいずれかの形態により修理を行います。ただし、対象機器の機種または離島等の一部地域等、修理の形態が限定される場合があるものとします。
 - 引取修理（パソコン修理便）
お客様のご自宅から故障した対象機器を引き取り、修理完了後ご自宅までお届けします。
 - 訪問修理
訪問修理が可能な製品について、お客様が訪問修理を希望された場合は、富士通指定の修理サービス会社の担当者がお客様のご自宅を訪問し、修理作業を行います。なお、訪問料は、保証書で特に無料と定められている場合を除き、保証期間の内外を問わず、別途有料となります。また、離島の一部地域では、訪問料とは別に訪問に要する実費（フェリー代、宿泊代等）をお客様にご負担いただく場合があります。
- 前項にかかわらず、当該切り分け診断の結果、故障の原因が外付けキーボード、マウス、ACアダプタにあると富士通が判断した場合は、富士通は、原因部品の良品をお客様のご自宅に送付いたします。なお、故障部品については、お客様から富士通に送付していただきます。

第4条（保証期間内の修理）

- 保証期間内に、取扱説明書、対象機器添付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で対象機器が故障した場合には、富士通は、無料修理規定に従い、無料で修理を行います。
- 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
 - 保証書が対象機器に添付されていない場合
 - 保証書に必要事項の記入がない場合、または字句を書き替えられた場合、その他事実と異なる記載がされていた場合
 - ご使用上の誤り（水などの液体こぼれ、水没、落下等）、または改造、誤接続や誤挿入による故障・損傷の場合
 - 火災、地震、水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害（硫化ガス等）、異常電圧や指定外の電源使用による故障・損傷の場合
 - 富士通指定の有寿命部品、消耗品（バッテリ、乾電池等）または定期交換部品の自然消耗、磨耗、劣化等により部品の交換が必要となった場合
 - 接続している他の機器、非純正品、不適な消耗品またはメディアのご使用に起因して対象機器に生じた故障・損傷の場合
 - お買い上げ後の輸送や移動または落下等、お客様における不適なお取り扱いにより生じた故障・損傷の場合
 - 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合（例：対象機器にブレンストールまたは添付されたソフトウェア製品に起因する不具合、ウイルス感染による不具合等をいい、以下同じとします）の場合
 - お客様が設定されたパスワードの忘却やお客様が施錠された鍵の紛失により、メインボード、本体カバーその他の部品の交換が必要になった場合
 - お客様のご使用環境や維持・管理方法に起因して生じた故障・損傷の場合（例：埃、錆、カビ、虫・小動物の侵入および糞尿による故障等）
- 第1項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、保証期間内であっても、別途それぞの料金が発生するものとします。

- 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
- 対象機器のハードウェア部分に起因しない不具合で、ソフトウェアの再インストールにより復旧する場合であって、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフトウェア再インストール料

第5条（保証期間外の修理）

- お客様による修理のご依頼が保証期間外の場合、富士通は、有料で修理を行います。
- 次の各号のいずれかに該当する場合は、修理料金の他にそれぞれの料金が発生するものとします。
 - 第3条第1項第(2)号に基づき訪問料が発生した場合は、当該訪問料
 - ハードウェア部分に起因する故障ではなく、ソフトウェアの再インストールで復旧する場合で、お客様が当該再インストールを希望された場合は、ソフト再インストール料
 - お客様による修理のご依頼が保証期間外の引取修理の場合であって、お客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要がないと富士通が判断した場合は、その診断作業に対して診断料が発生するものとします。また、対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされた場合（第6条第2項および第3項に定める場合を含みます）であっても、診断料が発生するものとします。
 - お客様による修理のご依頼が保証期間外の訪問修理の場合であって、富士通指定の修理サービス会社の担当者が、訪問先でお客様に伺った故障の現象が確認できず、修理の必要ないと判断した場合は、当該診断作業に対して訪問料と診断料が発生するものとします。また、担当者がお客様ご指定の場所に訪問し、修理作業に入る前に修理のご依頼をキャンセルされた場合は、訪問料が発生するものとします。

第6条（修理料金の見積もり）

- 修理が有料修理の場合であって、お客様が修理のご依頼時に修理料金の見積もりを希望された場合、富士通は、引取修理の場合は対象機器のお預かり後に診断作業を行い、見積金額をお知らせするものとし、訪問修理の場合は訪問前にお客様から現象や使用環境等お伺いした内容に基づき診断を行い、概算の見積金額をお知らせするものとします。富士通もしくは富士通指定の修理サービス会社の担当者は、当該見積金額での修理について、お客様にご了承いただいたうえで、修理を行います。ただし、お客様から修理のご依頼時に修理料金の上限金額をご提示いただいた場合であって、修理料金が上限金額を超えない場合は、お客様にご了承いただいたものとして見積提示なしに修理を行います。
- 前項のうち引取修理の場合であって、お客様に見積金額をお知らせした日から1ヶ月を超えて、お客様から見積もりに対するご回答がなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を実施せずに、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。
- 第1項のうち引取修理の場合であって、修理の過程において新たな故障の原因が判明した場合で、お客様に見積金額をお知らせした後に当該金額を変更する必要が生じた場合には、富士通は、再度見積金額をお知らせするものとし、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただいたうえで、修理を継続いたします。なお、当該再見積もり後の金額での修理についてお客様にご了承いただけなかった場合は、お客様が修理のご依頼をキャンセルされたものとし、富士通は、修理を中止し、お預かりした対象機器をお客様に返却いたします。

第7条（修理料金等の支払い方法）

- 第4条または第5条に基づき発生した修理料金等については、お預かりした対象機器の返却時に現金にてお支払いいただきます。

第8条（修理期間）

- 引取修理の場合、富士通は、対象機器のお預かりから、修理完了後の対象機器のご自宅へのお届けまで、原則として7日間で対応いたします。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、7日間を超える場合があるものとします。
 - お客様から伺った故障の現象が確認できず、修理箇所の特定ができない場合
 - 引取修理の場合であって、引き取り先が離島の場合
 - 有料修理の場合であって、お客様が修理料金の見積もりを希望された場合
 - お客様のご都合により、修理完了後の対象機器の返却日に日程変更等が生じた場合
 - 天災地変、戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由が生じた場合

- (6) 第12条第1項に定める補修用性能部品が在庫切れの場合

第9条（修理品の保管期間）

- 引取修理の場合であって、修理完了後にお客様に修理の完了および返却日をお知らせしているにもかかわらず修理後の対象機器をお受け取りいただけない場合、または対象機器お預かり後にお客様が修理のご依頼をキャンセルされたにもかかわらず当該対象機器をお引き取りいただけない場合は、富士通は、対象機器をお預かりした日から6ヶ月間の保管期間の経過をもって、お客様が当該対象機器の所有権を放棄されたものとみなし、当該対象機器を自由に処分できるものとします。この場合、富士通はお客様に対し、当該保管に要した費用および当該処分に要する費用を請求できるものとし、また、保証期間外の修理の場合は、別途修理料金または診断料を請求できるものとします。

第10条（故障部品の取り扱い）

- 修理を行るために対象機器から取り外した故障部品については、お客様はその所有権を放棄するものとし、富士通は、当該故障部品をお客様に返却しないものと

します。なお、当該故障部品は、環境への配慮から再調整後検査し、富士通の品質保証された補修用性能部品として再利用する場合があります。

第 11 条（修理ご依頼時の注意事項）

お客様は、修理をご依頼されるにあたり、あらかじめ以下の事項についてご了承いただくものとします。

- (1) お客様が保証期間内に修理をご依頼される場合は、必ず対象機器に同梱されている保証書を対象機器に添付いただくものとします。
- (2) お客様が修理をご依頼された対象機器の記憶装置（ハードディスク等）に記憶されたデータ、プログラムおよび設定内容（以下総称して「データ等」といいます）につきましては、富士通では一切保証いたしません。お客様は、修理をご依頼される前に、お客様の責任においてバックアップをとっていただくものとします。（日頃から随時バックアップをとられることをお勧めいたします。）なお、修理および修理前の診断作業の過程で、データ等が変化・消去される場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合（第 6 条に定める場合を含みます）でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程でデータ等が変化・消去されている場合があります。
- (3) 富士通は、修理および修理前の診断作業の過程で、インターネットへの接続確認等の目的で対象機器をインターネットに接続する場合があります。お客様が修理をキャンセルされた場合（第 6 条に定める場合を含みます）でも、当該キャンセルの時点で既に富士通が修理前の診断作業を実施していた場合は、当該作業の過程で対象機器がインターネットに接続されている場合があります。なお、当該接続によりデータ等が変化・消去される場合があります。また、富士通は、当該接続によりデータ等が変化・消去される等の問題が生じ、当該問題を解決するために必要と判断した場合、データ等を変更・消去等する場合があります。
- (4) 修理完了後のオペレーティングシステム（OS）ならびにその他のプログラムの再インストールおよびセットアップ等につきましては、お客様ご自身で実施いただくものとします。
- (5) お客様ご自身で貼り付けられたシール等につきましては、取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。また、お客様ご自身で行われた塗装や刻印等につきましては、元の状態への復旧はできないものとします。
- (6) 富士通は、修理期間中の代替機の貸し出しが行わないものとします。なお、修理期間中の対象機器の使用不能による補償等は、本規定で定める責任を除き富士通では一切責任を負わないものとします。
- (7) お客様が対象機器にパスワードを設定されている場合は、当該設定を解除したうえで修理をご依頼いただくものとします。
- (8) 対象機器の修理とは関係のない記録媒体（CD、DVD、メモリーカード、フロッピディスク、MO 等）、他の機器との接続ケーブル、および添付品等につきましては、事前にお客様の方で対象機器から取り外したうえで修理をご依頼いただくものとします。なお、万が一これらが対象機器に付加された状態で修理をご依頼いただいた場合、富士通ではこれらの管理につき一切責任を負わないものとします。
- (9) 修理のご依頼時に、当該修理にリカバリディスクが必要である旨富士通からお客様にお知らせした場合は、お客様は必ず対象機器に同梱されているリカバリディスクを添付いただくものとします。
- (10) 次の各号のいずれかに該当するものは、修理の対象から除かれるものとします。
 - a. お客様が対象機器出荷時の標準搭載の部品を加工・改造されたこと、または対象機器出荷時の標準搭載以外の部品を使用されたことに起因する故障の修理
 - b. ウィルスの除去
 - c. 液晶ディスプレイの一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在する場合の修理・交換
 - d. データ等のバックアップおよび復旧作業
- (11) 訪問修理の場合であって、富士通または富士通指定の修理サービス会社がお客様への訪問日程調整のご連絡に努めたにもかかわらず、ご連絡がつかない状態が 2 週間以上継続した場合は、修理をキャンセルされたものとみなすことがあります。

第 12 条（補修用性能部品）

1. 補修用性能部品は、製品の機能を維持するために必要な部品をいい、故障部品と機能、性能が同等な部品（再利用品および第 10 条に定める故障部品の再利用も含む）とします。
2. 富士通における補修用性能部品の最低保有期間につきましては、対象機器に同梱されている説明書記載のとおりとなります。補修用性能部品の保有期間の終了をもって、当該対象機器の修理対応は終了となります。

第 13 条（個人情報の取り扱い）

1. 富士通は、本規定に基づく修理に関してお客様から入手した情報のうち、当該お客様個人を識別できる情報（以下「お客様の個人情報」といいます）につき、以下の利用目的の範囲内で取り扱います。
 - (1) 修理を実施すること。
 - (2) 修理の品質の向上を目的として、電子メール、郵便、電話等によりアンケート調査を実施すること。
 - (3) お客様に有益と思われる富士通または富士通の子会社、関連会社もしくは提携会社の製品、サポートサービス等の情報を、電子メール、郵便、電話等によりお客様へ提供すること。

- (4) お客様の個人情報の取り扱いにつき、個別にお客様の同意を得るために、当該お客様に対し電子メール、郵便、電話等により連絡すること、および当該同意を得た利用目的に利用すること。
2. 富士通は、前項に定める利用目的のために必要な範囲で、お客様の個人情報を業務委託先に取り扱わせることができるものとします。
3. 富士通は、「個人情報の保護に関する法律」において特に認められている場合を除き、お客様の個人情報につき、第 1 項に定める以外の利用目的で取り扱い、または前項に定める以外の第三者に開示、提供することはありません。

第 14 条（責任の限定）

1. 富士通が実施した修理に富士通の責に帰すべき瑕疵が発見され、当該修理完了日より 3 ヶ月以内に、当該修理時の「診断・修理報告書」を添えてその旨お客様より富士通にご連絡いただいた場合、富士通は自己の責任と費用負担において必要な修理を再度実施いたします。なお、ここでいう瑕疵とは、当該修理を実施した箇所の不具合により再度修理が必要となる場合をいいます。
2. 合理的な範囲で富士通が前項の修理を繰り返し実施したにもかかわらず、前項の瑕疵が修理されなかった場合には、富士通は、当該瑕疵に起因してお客様に生じた損害につき、賠償責任を負うものとします。
3. 対象機器の修理に関連して富士通がお客様に対して損害賠償責任を負う場合、その賠償額は、修理料金相当額を上限とします。また、富士通は、富士通の責に帰すことのできない事由から生じた損害、富士通の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、逸失利益については、責任を負わないものとします。
4. 対象機器の修理に関連してお客様が被った損害が、富士通の故意または過失に起因するものである場合には、前項の規定は適用されないものとします。

第 15 条（変更）

富士通は、本規定の内容を変更する必要が生じた場合は、お客様に対する通知をもって変更できるものとします。なお、当該通知は、専用ホームページでの表示により行われるものとします。

第 16 条（専属的合意管轄裁判所）

本規定に基づく対象機器の修理に関する訴訟については、東京地方裁判所をもって第一審における合意上の専属的管轄裁判所とします。

付則

本規定は、2014 年 11 月 1 日から実施します。

■ 対象機器

- ・ ARROWS Tab QH シリーズ
- ・ ARROWS Tab Wi-Fi QH シリーズ
- ・ FMV シリーズ
- ・ FMV STYLISTIC QH シリーズ
- ・ ESPRIMO / LIFEBOOK（品名が以下のように表記される製品）

品名： * H *** / ***
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字 数字またはアルファベット
(2 ~ 3 術) (1 ~ 3 術)

品名： W * * / *
↑ ↑ ↑
アルファベット 数字またはアルファベット
アルファベット

品名： * H / R ***
↑ ↑
アルファベット 数字またはアルファベット
(1 ~ 2 術)

パソコンを安定して動作させるために

このパソコンを安定して動作させるために、システムソフトウェア（ファームウェア）が更新されることがあります。ここでは、システムソフトウェアを更新する方法を説明します。

重要

- ▶ ファームウェア更新プログラムの実行には、添付のメンテナンスケーブルが必要です。
メンテナンスケーブルは、紛失しないよう大切に保管してください。また、他の用途に使用しないでください。

Point

- ▶ ここに掲載されている内容の最新版が、下記の手順でダウンロードしたファームウェア更新プログラムに含まれている場合があります。この場合は、最新版の内容も、あわせてご覧ください。

1 次のいずれかの方法でファームウェア更新プログラムをダウンロードします。

- ・ このパソコンにインストールされている「アップデートナビ」のメッセージがデスクトップ画面右下の通知領域に表示されたら、通知領域の  (アップデートナビ) をクリックし、画面の指示に従って操作してください。

メッセージが表示されていないときは、通知領域の  をクリックしたあと、 (アップデートナビ) を右クリックして、「富士通へ最新情報を確認」をクリックします。その後は、表示された画面の指示に従って操作してください。

- ・ サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」から「LIFEBOOK GH シリーズ ファームウェア更新プログラム」をダウンロードします。詳しくは、「機種別サポート情報・ダウンロード」のページにある説明をご覧ください。

2 ワイヤレスディスプレイ部を本体部にセットします。

ワイヤレスディスプレイ部は横向きに取り付けてください。

3 手順1でダウンロードしたファームウェア更新プログラムを解凍したフォルダを開き、「update.exe」をダブルクリックします。

すでにファームウェアが更新されているというメッセージが表示された場合は、最新の状態です。「OK」をクリックして終了してください。

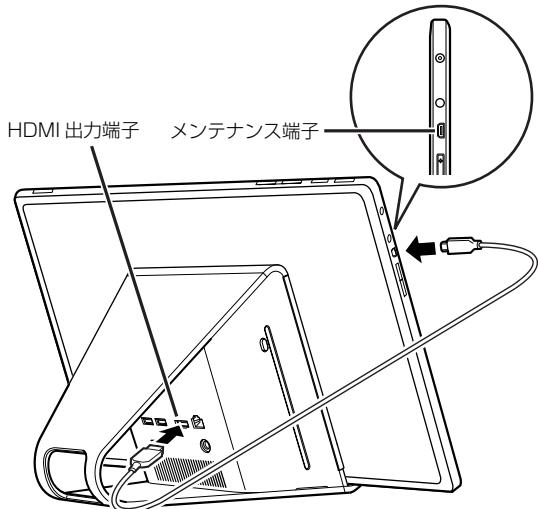
重要

▶ 以降はマウスで操作してください。タッチ操作では正しく更新できない場合があります。

4 ファームウェアの更新の実行を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

- ・ メンテナンスケーブルの接続をうながすメッセージが表示されたら、手順5に進んでください。
- ・ ワイヤレスディスプレイ部の接続をうながすメッセージが表示された場合は、正しく接続されていない状態です。メッセージに従って正しく接続してください。正しく接続すると次の手順に進みます。

5 ワイヤレスディスプレイ部と本体部を添付のメンテナンスケーブルで接続します。



メンテナンスケーブルのコネクタは両端で形状が異なります。接続するときは、コネクタの形状や向きに注意してください。

正しく接続されると、プログラムの続行を確認するメッセージが表示されます。

6 「はい」をクリックします。

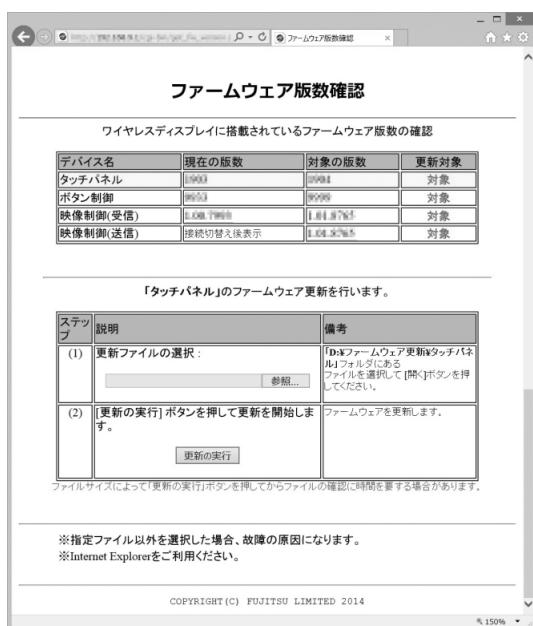
プログラムについて説明する画面が表示されます。

7 内容をよくお読みになり、「次へ」をクリックします。

下までスクロールすると、「次へ」を選択できるようになります。

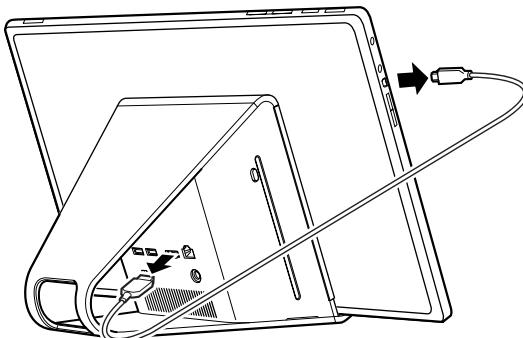
チェック項目を確認する画面が表示されます。

- 8 確認した項目をクリックして にします。すべての項目を にした後、「はい」をクリックします。
すべての項目を にすると、「はい」をクリックできるようになります。
更新の準備が始まります。そのまましばらくお待ちください。
完了すると、インターネットエクスプローラーの起動を確認するメッセージが表示されます。
- 9 「OK」をクリックします。
ファームウェアを更新する画面が表示されます。



(実際の画面と異なる場合があります)

- 10 画面の指示に従って操作を進めます。
すべてのファームウェアの更新が完了すると、メンテナンスケーブルの取り外しをうながすメッセージが表示されます。
- 11 メンテナンスケーブルを取り外します。



画面がいったん真っ暗になった後、ファームウェアの更新が完了したというメッセージが表示されます。

- 12 「OK」をクリックします。

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのアプリや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、Eメールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。

環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。

- Eメールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

- アプリが環境依存文字に対応していない場合、アプリが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。

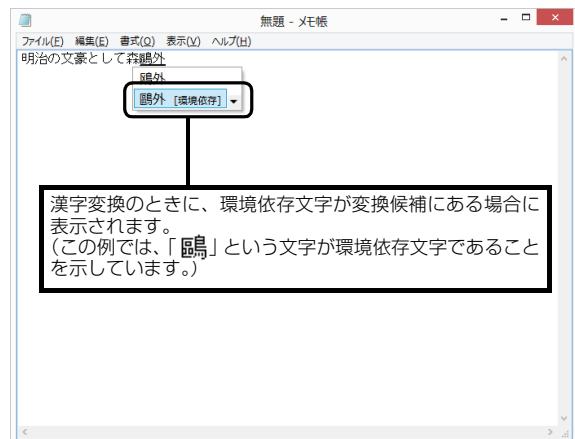
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。

- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

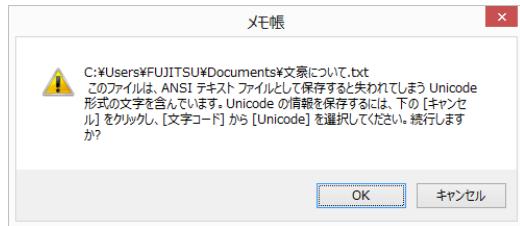
例 ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

Windows 8.1、Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



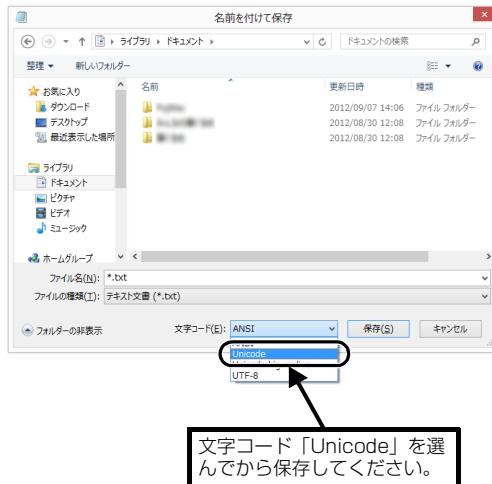
例2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ



- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。
「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

Point

- 文字コードを他の形式にして保存する
環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。
ただし、Unicode に対応していない OS やアプリでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



Windows 8.1、Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形									
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	瀧	瀧
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	榦	榦	7026	瀧	瀧
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榦	榦	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FB0	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	廯	廯	6062	恢	恢	6A0B	樞	樞	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喻	喻	6357	捲	捲	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甌	甌
5642	噂	噂	63C3	揃	揃	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	憎	憎	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	警	警
56C0	囀	囀	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祁	祁
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 8.1、Windows 7、Windows Vista 改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形									
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	鎧	鎧
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鑼	鑼
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞆	鞆
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞘	鞘
7BB8	箸	箸	85F7	譖	譖	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	籌	籌	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	糴	糴	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鰐	鰐
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鱈	鱈
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	酋	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

オープンソースソフトウェアについて

本製品には、オープンソースソフトウェアを使用しています。

当社は、本製品で使用しているオープンソースソフトウェアの使用許諾条件に基づき、オープンソースソフトウェアのソースコードをお客様へご提供致します。オープンソースソフトウェアのソースコード、使用許諾条件、著作権表示等は、詳しくは次の URL をご覧ください。

<http://www.fmworld.net/soft/oss/gh/>

ご提供致しますソースコード、使用許諾条件、著作権表示等に関する問合せは、お受けしておりません。ご了承ください。なお、製品の一般的なお問い合わせについては、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」(→ P.109) にご連絡ください。

パソコン本体の主な仕様

ここでは、パソコン本体の主な仕様を紹介しています。

■仕様の調べ方

仕様について詳しくは「富士通アドバイザー」(→ P.34) の「サポート & サービス情報」から「パソコンの仕様を調べる」を選択して表示されるホームページの内容をご覧ください。なお、仕様の詳細を調べるときに、お使いのパソコンの型名が必要になることがあります。型名は次の場所に記載されています。

●保証書

●本体部の底面に貼付されたラベル、またはワイヤレスディスプレイ部の背面の記載

●「@メニュー」を起動し、「安心・サポート」▶「トラブル診断」▶「目的でさがす」▶「パソコンの情報を表示する」▶「実行する」の順にクリックすると表示される画面



▶ 型名の確認方法の詳細は、サポートページから Q&A ナンバー「3702-5873」を検索して参照できます。

■LIFEBOOK GH77/T

注記については、「仕様一覧の注記について」(→ P.179) をご覧ください。

品名	LIFEBOOK GH77/T	
本体部		
CPU ^{注1}	インテル® Core™ i7-4712HQ プロセッサー (HT テクノロジー対応)	
メインメモリ	PC3L-12800 DDR3L SDRAM, ECCなし	
容量	8GB (4GB × 2) デュアルチャネル対応／交換不可	
CD/DVD ドライブ ^{注2}	スロットイン BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブ (スーパーマルチドライブ機能対応)	
無線 LAN ^{注3}	規格	IEEE 802.11b/g/n 準拠 (Wi-Fi® 準拠) ^{注4} インテル WiDi 対応 ^{注5}
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注6}
電源供給方式	AC アダプタ ^{注7}	入力 AC100V～240V、出力 DC19V (4.74A)
消費電力	ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。 仕様一覧の表示方法は「■仕様の調べ方」をご覧ください (→ P.178)。	
外形寸法(幅×奥行×高さ) (突起部含まず)	185 × 241 × 188mm	
質量 ^{注8}	約 1.9kg	
ワイヤレスディスプレイ部		
電源供給方式	AC アダプタ (別売) ^{注7}	入力 AC100V～240V、出力 DC19V (3.42A)
	バッテリ	リチウムポリマ 26Wh (交換不可)
外形寸法(幅×奥行×高さ) (突起部含まず)	385 × 255 × 9.8mm	
質量 ^{注8}	約 980g	

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

仕様一覧の注記について

- 注 1 ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。
- 注 2 読み出し、書き込み速度については、ホームページに掲載された仕様一覧をご覧ください。仕様一覧の表示方法は「■仕様の調べ方」をご覧ください（→ P.178）。
- 注 3 無線 LAN の仕様については、「無線 LAN」（→ P.137）をご覧ください。
- 注 4 Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注 5 インテル WiDi については、「インテル WiDi を使う」（→ P.126）をご覧ください。
- 注 6 IEEE 802.11n 準拠を使用したときは、MIMO 方式にもなります。
- 注 7 パソコン本体に標準添付、または別売の AC アダプタに付属の電源ケーブルは AC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 AC 電源など）に接続されると、故障する場合があります。
- 注 8
- ・各製品で質量が異なる場合があります。
 - ・スタンド、およびワイヤレスディスプレイ部を本体部やスタンドに取り付けたときの外形寸法は次のとおりです。
 - ・本体部にワイヤレスディスプレイ部を横に取り付けた場合：385 × 241 × 263.5mm（突起部含まず）
 - ・本体部にワイヤレスディスプレイ部を縦に取り付けた場合：255 × 241 × 385.5mm（突起部含まず）
 - ・スタンド（展開時）：153 × 165 × 151mm（突起部含まず）
 - ・スタンドにワイヤレスディスプレイ部を横に取り付けた場合：385 × 165 × 265mm（突起部含まず）

■商標および著作権について

インテル、Intel、インテル Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creator は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。Corel、Corel のロゴ、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。McAfee、マカフィーは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。デジタルアーツ /DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター /i- フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。デジブックは株式会社トリワークスの登録商標です。「メモリースティック」は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

SDXC ロゴは、SD-3C, LLC. の商標です。SDXC™

ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association (PCMCIA) の商標で、富士通へライセンスされています。

Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。HDMI®

Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、富士通へライセンスされています。

Google、Google ロゴ、Android は、Google Inc. の商標または登録商標です。

@nifty は、ニフティ株式会社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Microsoftアカウント

メールアドレス(Microsoftアカウント)、パスワードを記入してください。



※第三者に漏れないよう充分に注意して管理してください。

LIFEBOOK GH シリーズ

取扱説明書<詳細版>

B5FK-2731-01-02

発行日 2015年1月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



パソコン操作に困ったら、**お電話ください。**
プロがご自宅にお伺いし、解決します！

富士通パソコン出張サービス PC家庭教師

(有料)

セットアップって
むずかしそう…
やってくれないかな。



ウイルス感染!?
うちに来て、
みてほしい。



デジカメの写真、
どうやって
プリントするの？



パソコン 基本設定

めんどうなパソコンのセット
アップは、お任せください！

14,300円(税込)～

かけつけ診断

原因がわからないトラブルも
プロが解決に導きます！

10,100円(税込)～*

教えて パソコンレッスン

お客様の「したい」ことを
丁寧にご説明します！

14,300円(税込)～

(注)メニュー名、料金は、予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

* 診断の結果、必要なリカバリ等の作業が発生した場合、別途費用が発生します。

通話料
無料

みんな
つなぐよ
0120-37-2794

■ 受付時間：10時～19時 ■ 訪問時間：10時～20時 (有料サービス)

※携帯電話、PHSからも通話可能です。システムメンテナンスのため、休止させていただく場合がございます。

「PC家庭教師」は弊社指定のサービス会社がご自宅に伺い、その場でサポートする有料の出張サービスです。電話での技術相談をご希望の場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

「PC家庭教師」のほかにも、富士通の有料サービス「バリューplus」では、多彩なメニューをご用意しております。
詳しくはホームページをご覧ください。

- 例 ●Word、Excelも電話で相談できるPCコンシェルジュサービス
●3年間メーカー延長保証サービス など

富士通 バリューplus

検索

